

清本も
無しの字

にかかはれずゆゑに常なり。しかあれば草木叢林の無常なるすなはち佛性なり。人物身心の無常なるこれ佛性なり。國土山河の無常なるこれ佛性なるによりてなり。阿耨多羅三藐三菩提これ佛性なるかゆゑに無常なり。大般涅槃これ無常なるかゆゑに佛性なり。もろもろの二乗の小見および經論師の三藏等は。この六祖の道を驚疑怖畏すへし。もし驚疑せんことは。魔外の類なり。

第十四祖龍樹尊者。梵云那伽闍刺樹那。唐云龍樹。亦龍勝。亦云龍猛。西天竺國人也。至南天竺國。彼國之人多信福業。尊者爲說妙法。聞者遞相謂曰。人有福業。世間第一。徒言佛性誰能觀之。尊者曰。汝欲見佛性。先須除我慢。彼人曰。佛性大耶小耶。尊者曰。佛性非大非小。非廣非狹。無福無報。不死不生。彼聞理勝。悉廻初心。尊者復於座上。現自在身。如滿月輪。一切衆會。唯聞法音。不覩師相。於彼衆中有長者子迦那提婆。謂衆會曰。識此相否。衆會曰。而今我等目所未見。耳所未聞。心無所識。身無所住。提婆曰。此是尊者現佛性相。以示我等。何以知之。蓋以無相三昧。形如滿月。佛

性之義。廓然虛明。言訖輪相即隱。復居本座。而說偈言。身現圓月相。以表諸佛體。說法無其形。用辨非聲色。しるへし眞箇の用辨は。聲色の即現にあらず。眞箇の說法は。無其形なり。尊者かつてひろく佛性を爲説する不可數量なり。いまはしはらく一隅を略舉するなり。汝欲見佛性。先須除我慢。この爲説の宗旨。すこさす辨旨すへし。見はなきにあらず。その見これ除我慢なり。我もひとつにあらず。慢も多般なり。除法また萬差なるへし。しかあれともこれらみな見佛性なり。眼見目覩にならふへし。佛性非大非小等の道取よのつねの凡夫二乗に例諸することなかれ。偏枯に佛性は廣大ならんとのみおもへる邪念をたくはへきたるなり。大にあらず小にあらず。正當恁麼時の道取に罣礙せられん道理。いま聽取するかことく思量すへきなり。思量なる聽取を使得するかゆゑに。しはらく尊者の道著する偈を聞取すへし。いはゆる身現圓月相。以表諸佛體なり。すてに諸佛體を以表しきたれる身現なるかゆゑに。圓月相なり。しかあれば一切

化に本
作

消本
無し

消本
無し

の長短方圓この身現に學習すへし。身と現とに轉疎なるは圓月相
 にくらきのみにあらず。諸佛體にあらざるなり。愚者おもはく、尊者
 かりに化身を現せるを圓月相といふとおもふは佛道を相承せさ
 る黨類の邪念なり。いつれのところのいつれのか非身の化現
 ならん。まさにしるへしこのとき尊者は高座せるのみなり。身現の
 儀は。いまのたれ人も坐せるかことくありしなり。この身これ圓月
 相現なり。身現は方圓にあらず有無にあらず隱顯にあらず。八萬四
 千蘊にあらず。たた身現なり。圓月相といふ。這裏是甚麼所在。說細說
 麤月なり。この身現は。先須除我慢なるかゆゑに龍樹にあらず。諸佛
 體なり。以表するかゆゑに諸佛體を透脱す。しかあるかゆゑに佛邊
 にかかはれず。佛性の滿月を形如する虚明ありとも。圓月相を排列
 するにあらず。いはんや川辨も聲色にあらず。身現も色身にあらず。
 蘊處界にあらず。蘊處界に一似なりといへとも。以表なり。諸佛體な
 り。これ說法蘊なり。それ無其形なり。無其形さらに無相三昧なると

語に本
作

き身現なり。一衆いま圓月相を望見すといへとも。目所未見なるは。
 說法蘊の轉機なり。現自在身の非聲色なり。即隱即現は輪相の進歩
 退歩なり。復於座上現自在身の正常恁麼時は。一切衆會唯聞法音す
 るなり。不親師相なるなり。尊者の嫡嗣迦那提婆尊者。あきらかに滿
 月相を識此し。圓月相を識此し。身現を識此し。諸佛性を識此し。諸佛
 體を識此せり。入室瀉瓶の衆たとひおほしといへとも。提婆と齊肩
 ならざるへし。提婆は半座の尊なり。衆會の導師なり。全座の分座な
 り。正法眼藏無上大法を正傳せること。靈山に摩訶迦葉尊者の座元
 なりしかことし。龍樹未廻心のさき。外道の法にありしときの弟子
 おほかりしかとも。みな謝遣しきたれり。龍樹すてに佛祖となれり
 しときは。ひとり提婆を付法の正嫡として。大法眼藏を正傳す。これ
 無上佛道の單傳なり。しかあるに僭偽の邪群。ままに自稱すらく。わ
 れらも龍樹大士の法嗣なり。論をつくり義をあつむる。おほく龍樹
 の手をかれり。龍樹の造にあらず。むかしすてられし群徒の人天を

正法眼藏佛性

惑亂するなり。佛弟子はひとすちに提婆の所傳にあらさらんは龍樹の道にあらすとしるべきなり。これ正信得及なり。しかあるに偽なりとしりなから稟受するものおほかり。謗大般若の衆生の愚蒙あはれみかなしむへし。迦那提婆尊者ちなみに龍樹尊者の身現をさして衆會につけていはく。此是尊者現佛性相以示我等。何以知之。蓋以無相三昧。形如滿月。佛性之義廓然虛明なり。いま天上人間大千法界に流布せる佛法を見聞せる。前後の皮袋たれか道取せる身現相は佛性なりと。大千界にはたはた提婆尊者のみ道取せるなり。餘者はたはた佛性は眼見耳聞心識等にあらすとのみ道取するなり。身現は佛性なりとしらさるゆゑに。道取せざるなり。祖師のをしむにあらされとも。眼耳ふさかれて見聞することあたはざるなり。身識いまたおこらすして了別することあたはざるなり。無相三昧の形如滿月なるを望見し禮拜するに。目未所覩なり。佛性之義廓然虛明なり。しかあれば身現の説佛性なる虛明なり。廓然なり。説佛性の身現

福本
の下と
あり

なる以表諸佛體なり。いつれの一佛二佛か。この以表を佛體せさらん。佛體は身現なり。身現なる佛性あり。四大五蘊と道取し會取する。佛量祖量もかへりて身現の造次なり。すてに諸佛體といふ。蘊處界のかくのことくなるなり。一切の功德この功德なり。佛功德はこの身現を究盡し囊括するなり。一切無量無邊の功德の往來はこの身現の一造次なり。しかあるに龍樹提婆師資よりのち。三國の諸方にある。前代後代。ままたに佛學する人物。いまた龍樹提婆のことく道取せず。いくはくの經師論師等か。佛祖の道を蹉過する。大宋國むかしよりこの因縁を畫せんとするに身に畫し心に畫し空に畫し壁に畫することあたはず。いたつらに筆頭に畫するに。法座上に如鏡なる一輪相を圖して。いま龍樹の身現圓月相とせり。すてに數百歳の霜華も開落して。人眼の金屑をなさんとすれとも。あやまるといふ人なし。あはれむへし。萬事の蹉跎たることかくのこときなる。もし身現圓月相は一輪相なりと會取せば。眞箇の畫餅一枚なり。弄佗せ

ん笑也笑殺人なるへし。かなしむへし大宋一國の在家出家。いつれの一箇も。龍樹のことはをきかすしらす。提婆の道を通せすみさること。いはんや身現に親切ならんや。圓月にくらし満月を虧闕せり。これ稽古のおろそかなるなり。慕古いたらざるなり。古佛新佛。さらに眞箇の身現にあふて。畫餅を賞翫することなかれ。しるへし身現圓月相の相を畫せんには。法座上に身現相あるへし。揚眉瞬目。それ端直なるへし。皮肉骨髓正法眼藏。かならず兀坐すへきなり。破顔微笑つたはるへし。作佛作祖するかゆゑに。この畫いまた月相ならざるには。形如なし。說法せず。聲色なし。用辨なきなり。もし身現をもとめは。圓月相を圖すへし。圓月相を圖せば。圓月相を圖すへし。身現圓月相なるかゆへに。圓月相を畫せんとき。満月相を圖すへし。満月相を現すへし。しかあるを身現を畫せず。圓月相を畫せず。満月相を畫せず。諸佛體を圖せず。以表を體せず。說法を圖せず。いたつらに畫餅一枚を圖す。用作什麼。これを急著眼看せん。たれか直至如今飽不飢な

らん。月は圓形なり。圓は身現なり。圓を學するに一枚錢のことく學することなかれ。一枚餅に相似することなかれ。身相圓月身なり。形如満月形なり。一枚錢一枚餅は。圓に學習すへし。予雲遊のそのかみ。大宋國にいたる。嘉定十六年癸未秋のころ。はしめて阿育王山廣利禪寺にいたる。西廊壁間に。西天東地三十三祖の變相を畫せるをみる。このとき領覽なし。のちに嘉慶元年乙酉夏安居のなかにかさねていたるに。西蜀の成桂知客と廊下を行歩するついでに。予知客にとふ。這箇是什麼變相。知客いはく。龍樹身現圓月相。かく道取する顔色に鼻孔なし。聲裏に語句なし。予いはく。眞箇是一枚畫餅相似。ときに知客大笑すといへとも。笑裏無刀。破畫餅不得なり。すなはち知客と予と舍利殿および六殊勝地等にいたるあひた。數番舉揚すれとも。疑著するにもおよはず。おのつから下語する僧侶も。おほく都不是なり。予いはく。堂頭にとふて。みるときに堂頭は大光和尚なり。知客いはく。佗無鼻孔對不得。如何得知。ゆゑに光老にとはす。恁麼道取

すれども。桂兄も會すへからず。聞説する皮袋も道取せるなし。前後の粥飯頭。みるにあやします。あらためなほさす。また畫することうへからざらん。法はすへて畫せさるへし。畫すへくは端直に畫すへし。しかあるに身現の圓月相なるかつて畫せるなきなり。おほよそ佛性はいまの慮知念覺ならんと見解することさめさるによりて。有佛性の道にも。無佛性の道にも。通達の端を失せるかことくなり。道取すへきと學習するもまれなり。しるへしこの疎怠は廢せるによりてなり。諸方の粥飯頭すへて佛性といふ道得を一生いはすしてやみぬるもあるなり。あるひはいふ聽教のともから佛性を談す。參禪の雲衲はいふへからず。かくのことくのやからは眞箇是畜生なり。なにといふ魔黨のわか佛如來の道にましはりけかさんとするそ。聽教といふことの佛道にあるか。參禪といふことの佛道にあるか。いまた聽教參禪といふこと佛道にはなしとしるへし。

杭州鹽官縣齊安國師は。馬祖下の尊宿なり。ちなみに衆にしめして

いはく。一切衆生有佛性。いはゆる一切衆生の言。すみやかに參究すへし。一切衆生。その業道依正ひとつにあらず。その見まちまちなり。凡夫外道。三乘五乘等。かのおのなるへし。いま佛道にいふ一切衆生は。有心者みな衆生なり。心是衆生なるかゆゑに。無心者おなし。衆生なるへし。衆生是心なるかゆゑに。しかあれは心みなこれ衆生なり。衆生みなこれ有佛性なり。艸木國土これ心なり。心なるかゆゑに衆生なり。衆生なるかゆゑに有佛性なり。日月星辰これ心なり。心なるかゆゑに衆生なり。衆生なるかゆゑに有佛性なり。國師の道取する有佛性。それかくのことし。もしかくのことくにあらすは。佛道に道取する有佛性にあらざるなり。いま國師の道取する宗旨は。一切衆生有佛性のみなり。さらに衆生にあらざらんは有佛性にあらざるへし。しはらく國師にとふへし。一切諸佛有佛性也。無かくのことく問取し試験すへきなり。一切衆生即佛性といはず。一切衆生有佛性といふと參學すへし。有佛性の有まさに脱落すへし。脱落は一

清本佛
字無し

條鐵なり。一條鐵は鳥道なり。しかあれは一切佛性有衆生なり。これその道理は衆生を説透するのみにあらず。佛性をも説透するなり。國師たとひ會得を道得に承當せすとも承當の期なきにあらず。今日の道得いたつらに宗旨なきにあらず。また自己に具する道理。いまたかならずしもみつから會取せされとも。四大五蘊もあり。皮肉骨髓もあり。しかあるかごとく道取も一生に道取することもあり。道取にかかれる生生もあり。天瀉山大圓禪師あるとき衆にしめしていはく。一切衆生無佛性。これをきく人天のなかによりこふ大機あり。驚疑のたくひなきにあらず。釋尊の説道は一切衆生悉有佛性なり。大瀉の説道は一切衆生無佛性なり。有無の言理はるかにことなるへし。道得の當不うたかひぬへし。しかあれとも一切衆生無佛性のみ佛道に長なり。鹽官有佛性の道たとひ古佛とともに一隻の手をいたすにたりとも。なほこれ一條拄杖兩人昇なるへし。いま大瀉はしかあらず。一條拄杖吞兩人なるへし。いはんや國師は馬

福本も
し字無

祖の子なり。大瀉は馬祖の孫なり。しかあれとも法孫は師翁の道に老大なり。法子は師父の道に年少なり。いま大瀉道の理致は一切衆生無佛性を理致とせり。いまた曠然繩墨外といはず。自家屋裏の經典かくのことの受持あり。さらに摸索すへし。一切衆生なにとしか佛性ならん佛性あらんもし。佛性あるはこれ魔黨なるへし。魔子一枚を將來して一切衆生にかさねんとす。佛性これ佛性なれば衆生これ衆生なり。衆生もとより佛性を具足せるにあらず。たとひ具せんともとむとも。佛性はしめてきたるへきにあらざる宗旨なり。張公喫酒李公醉といふことなかれ。もしかのつから佛性あらんは。さらに衆生にあらず。すてに衆生あらんは。つひに佛性にあらず。このゆゑに百丈いはく。説衆生有佛性。亦謗佛法僧。説衆生無佛性。亦謗佛法僧。しかあれはすなはち有佛性といひ。無佛性といふ。ともに謗となる。謗となるといふとも。道取せざるへきにはあらず。且問。備大瀉百丈。しはらくきくへし。謗はすなはちなきにあらず。佛性は説

得すやいまたしや。たとひ説得せは説著を罣礙せん。説著あらは聞著と同參なるへし。また大瀉にむかひていふへし。一切衆生無佛性は。たとひ道得すといふとも。一切佛性無衆生といはず。一切佛性無佛性といはず。いはんや一切諸佛無佛性は。夢也未見在なり。試擧看。百丈山大智禪師示衆云。佛是最上乘。是上上智。是佛道立此人。是佛有佛性。是導師。是使得無所礙風。は無礙慧。於後能使得因果。福智自由。是作車運載因果。處於生不被生之所留。處於死不被死之所礙。處於五陰如門開。不被五陰礙。去住自由。出入無難。若能恁麼。不論階梯勝劣。乃至蟻子之身。但能恁麼。盡是淨妙國土。不可思議。これすなはち百丈の道處なり。いはゆる五蘊は。いまの不壞身なり。いまの造次は。門開なり。不被五陰礙なり。生を使得するに。生にととめられず。死を使得するに。死にさへられず。いたつらに生を愛することなかれ。みたりに死を恐怖することなかれ。すてに佛性の所在なり。動著し厭却するは。外道なり。現前の衆縁と認するは。使得無礙風なり。これ最上乘なり。

福本清
本便休
葉影字
無四影
室云黃
葉便休
の四字
あるへ
し被畧
歟

る是佛なり。この是佛の所在すなはち淨妙國土なり。

黃檗在南泉茶堂內坐。南泉問黃檗。定慧等學。明見佛性。此理如何。黃檗曰。十二時中不依倚一物。始得。南泉云。莫便是長老見處麼。黃檗曰。不敢。南泉云。醬水錢且致。艸鞋錢教什麼人還。黃檗便休。いはゆる定慧等學の宗旨は。定學の慧學をさへされは。等學するところに。明見佛性のあるには。あらず。明見佛性のところに。定慧等學の學あるなり。此理如何と道取するなり。たとへは。明見佛性は。たれか所作なるそと道取せんも。おなしかるへし。佛性等學。明見佛性。此理如何と道取せんも。道得なり。黃檗いはく。十二時中不依倚一物と。いふ宗旨は。十二時中。たとひ十二時中に所在せりと。不依倚なり。不依倚一物。これ十二時中なるか。ゆゑに。佛性明見なり。この十二時中。いつれの時節到來なりとかせん。いつれの國土なりとかせん。いまいふ十二時は。人間の十二時なるへきか。佗那裏に十二時のあるか。白銀世界の十二時のしは。らくきたれるか。たとひ此土なりとも。たとひ佗界なり。

廻本清廻
作回回
に本福

とも不依倚なり。すてに十二時中なり。不依倚なるへし。莫便是長老見處麼といふは。これを見處とはいふまじやといふかことし。長老見處麼と道取すとも。自己なるへしと回頭すへからず。自己に的當なりとも。黄檗にあらす。黄檗かならずしも自己のみにあらす。長老見處は。露廻。廻なるかゆゑに。黄檗いはく。不取。この言は。宋土におのれにある能を問取せらるるには。能を能といはんとても。不取といふなり。しかあれば不取の道は不取にあらす。この道得は。この道取なることはかるへきにあらす。長老見處たとひ長老なりとも。長老見處たとひ黄檗なりとも。道取するには不取なるへし。一頭水牯牛出來道咩咩なるへし。かくのことく道取するは道取なり。道取する宗旨。さらにまた道取なる道取。こころみに道取してみるへし。南泉いはく。醬水錢且致。艸鞋錢教什麼人還。いはゆるは。こんづのあたひは。しはらくおく。艸鞋のあたひは。たれをしてかかへさしめんとなり。この道取の意旨。ひさしく生生をつくして。參究すへし。醬水錢い

かなればかしはらく。不取なる。留心勤學すへし。艸鞋錢なにとしてか管得する。行脚の年月に。いくはくの艸鞋をか踏破しきたれるとなり。いまいふへし。若不還錢未著艸鞋。またいふへし。兩三輛。この道得なるへし。この宗旨なるへし。黄檗便休。これは休するなり。不取せられて休し。不取にて休するにあらす。本色衲子しかあらす。しるへし。休裏有道は。笑裏有刀の。くなり。これ佛性明見の。粥足飯足なり。この因縁を舉して。瀉山。仰山にとふていはく。莫是黄檗搆佗。南泉不得麼。仰山いはく。不然。須知黄檗有陷虎之機。瀉山いはく。子見處得。恁麼長。大瀉の道は。そのかみ。黄檗は南泉を搆不得なりやといふ。仰山いはく。黄檗は陷虎の機あり。すてに陷虎することあらは。持虎頭なるへし。陷虎持虎異類中行。明見佛性也。閉一隻眼。佛性明見也。失一隻眼。速道速道。佛性見處得。恁麼長なり。このゆゑに。半物全物。これ不依倚なり。百千物不依倚なり。百千時不依倚なり。このゆゑに。いはく。籬籠一枚。時中十二。依倚不依倚。如葛藤倚樹。天中及全天。後頭未有語

清本無字無し

なり。

趙州眞際大師にある僧とふ。狗子還有佛性也無。この問の意趣あきらむへし。狗子とはいぬなり。かれに佛性あるへしと問取せず。なかるへしと問取するにあらず。これは鐵漢また學道するかと問取するなり。あやまりて毒手にあふらみふかしといへとも。三十年よりこのかた。さらに半箇の聖人をみる風流なり。趙州いはく。無。この道をききて習學すへき方路あり。佛性の自稱する無も。恁麼道なるへし。狗子の自稱する無も。恁麼道なるへし。傍觀者の喚作の無も。恁麼道なるへし。その無わつかに消石の日あるへし。僧いはく。一切衆生。皆有佛性。狗子爲甚麼無。いはゆる宗旨は。一切衆生無ならは。佛性も無なるへし。狗子も無なるへしといふ。その宗旨作麼生となり。狗子佛性。なにとして無をまつことあらん。趙州いはく。爲佗有業識在。この道旨は爲佗有は業識なり。業識有爲佗有なりとも。狗子無佛性無なり。業識いまた狗子を會せず。狗子いかてか佛性にあはん。たと

清本道字無し

ひ雙放雙收すとも。なほこれ業識の始終なり。

趙州有僧問。狗子還有佛性也無。この問取はこの僧搆得趙州の道理なるへし。しかあれば佛性の道取問取は佛祖の家常茶飯なり。趙州いはく。有この有の様子は。教家の論師等の有にあらず。有部の論有にあらざるなり。すすみて佛有を學すへし。佛有は趙州有なり。趙州有は狗子有なり。狗子有は佛性有なり。僧いはく。既有爲甚麼却撞入這皮袋。この僧の道得は今有なるか古有なるか。既有なるかと問取するに。既有は諸有に相似せりといふとも。既有は孤明なり。既有は撞入すへきか撞入すへからざるか。撞入這皮袋の行履。いたつらに蹉過の功夫あらず。趙州いはく。爲佗知而故犯。この語は世俗の言語として。ひさしく途中に流布せりといへとも。いまは趙州の道得なり。いふところは。しりてことさらをかすとなり。この道得は疑著せさらん。すくなかるへし。いま一字の入あきらめかたしといへとも。入之一字も不用得なり。いはんや欲識菴中不死人。豈離只今這皮袋

なり。不死人はたとひ阿誰なりとも。いつれるときか皮袋に莫離なる。故犯はかならずしも入皮袋にあらず。撞入這皮袋。かならずしも知而故犯にあらず。知而のゆゑに故犯あるべきなり。しるへしこの故犯すなはち脱體の行履を覆藏せるならん。これ撞入と説著するなり。脱體の行履。その正當覆藏のとき。自己にも覆藏し。他人にも覆藏す。しかもかくのことくなりといへとも。いまたのかれすといふことなかれ。驢前馬後漢。いはんや雲居高祖いはく。たとひ佛法邊事を學得するはやくこれ錯用心了也。しかあれは。半枚學佛法邊事。ひさしくあやまりきたること。日淡月淡なりといへとも。これ這皮袋に撞入する狗子なるへし。知而故犯なりとも。有佛性なるへし。

長沙景岑和尚の會に。竺尚書とふ。蚯蚓斬爲兩段。兩頭俱動。未審佛性在阿那箇頭。師云。莫妄想。書曰。爭奈動何。師云。只是風火未散。いま尚書いはくの蚯蚓斬爲兩段は。未斬時は一段なりと決定するか。佛祖の家常に不恁麼なり。蚯蚓もとより一段にあらず。蚯蚓きれて兩段

にあらず。一兩の道取。まさに功夫參學すへし。兩頭俱動といふ。兩頭は。未斬よりさきを。一頭とせるか。佛向上を。一頭とせるか。兩頭の語。たとひ尚書の會。不會にかかはるへからず。語話をすつることなかれ。きれたる兩段は。一頭にして。さらに一頭のあるか。その動といふに。俱動といふ。定動智拔ともに動なるべきなり。未審佛性在阿那箇頭。佛性斬爲兩段。未審蚯蚓在阿那箇頭といふへし。この道得は。審細にすへし。兩頭俱動佛性在阿那箇頭といふは。俱動ならば佛性の所在に不堪なりといふか。俱動なれば動はともに動すといふとも。佛性の所在は。そのなかにいつれなるべきそといふか。師いはく。莫妄想。この宗旨は。作麼生なるべきそ。妄想することなかれといふなり。しかあれは。兩頭俱動するに。妄想なし。妄想にあらずといふか。たまた佛性は。妄想なしといふか。佛性の論におよはす。兩頭の論におよはす。たまた妄想なしと道取するかとも。參究すへし。動するはいかかせんといふは。動すればさらに佛性一枚をかさぬへしと道取するか。

清本
ら無し

動すれば佛性にあらざらんと道著するか。風火未散といふは佛性を出現せしむるなるへし。佛性なりとやせん。風火なりとやせん。佛性と風火と俱出すといふへからず。一出一不出といふへからず。風火すなはち佛性といふへからず。ゆゑに長沙は蚯蚓有佛性といはず。蚯蚓無佛性といはず。たゞ莫妄想と道取す。風火未散と道取す。佛性の活計は長沙の道を卜度すへし。風火未散といふ言語。しつかに功夫すへし。未散といふは。いかなる道理かある。風火のあつまりりけるが散すへき期。いまたしきと道取するに。未散といふか。しかあるへからざるなり。風火未散はほとけ法をとく。未散風火は法ほとけをとく。たとへは一音の法をとく。時節到來なり。説法の一音なる到來の時節なり。法は一音なり。一音の法なるゆゑに。また佛性は生のときのみにありて死のときはなかるへし。とおもふ。もとも少聞薄解なり。生のときも有佛性なり。無佛性なり。死のときも有佛性なり。無佛性なり。風火の散未散を論することあらは。佛性の散不散なり。

るへしたとひ散のときも佛性有なるへし。佛性無なるへしたとひ未散のときも有佛性なるへし。無佛性なるへし。しかあるを佛性は動不動によりて在不在し。識不識によりて神不神なり。知不知に性不性なるへきと邪執せるは外道なり。無始劫來は癡人おほく識神を認して佛性とせり。本來人とせる。突殺人なり。さらに佛性を道取するに。泥滯水なるへきにあらざれとも。牆壁瓦礫なり。向上に道取するるとき。作麼生ならんか。これ佛性。還委悉麼。三頭八臂。

正法眼藏佛性

爾時仁治二年辛丑十月十四日在雍州觀音導利興聖禪林寺示衆

正法眼藏行佛威儀

諸佛かならず威儀を行足す。これ行佛なり。行佛それ報佛にあらず。化佛にあらず。自性身佛にあらず。佗性身佛にあらず。始覺本覺にあらず。性覺無覺にあらず。如是等佛たえて行佛に齊肩することうへからず。しるへし諸佛の佛道にある覺をまたさるなり。佛向上の道に行履を通達せること。唯行佛のみなり。自性佛等夢也未見在なるところなり。この行佛は。頭頭に威儀現成するゆゑに。身前に威儀現成す。道前に化機漏泄すること。亘時なり。亘方なり。亘佛なり。亘行なり。行佛にあらず。されば。佛縛法縛。いまた解脱せず。佛魔法魔に黨類せらるるなり。佛縛といふは。菩提を菩提と知見解會する。即知見即解會に即縛せられぬるなり。一念を経歴するに。なほいまた解脱の期を期せず。いたつらに錯解す。菩提をすなはち菩提なりと見解せん。これ菩提相應の知見なるへし。たれかこれを邪見といはん。想憶す。これすなはち無繩自縛なり。縛縛綿綿として。樹倒藤枯にあらず。い

清本の
下無し

福本經
師の二
字無し

せ福本
すに作

處福本
所に作

たつらに佛邊の窠窟に活計せるのみなり。法身のやまふをしらす。報身の窮をしらす。教家經師論師等の佛道を遠聞せるなほしいはく。即於法性起法性見。即是無明。この教家のいはくは。法性に法性の見おこるに。法性の縛をいはず。さらに無明の縛をかさぬ。法性の縛あることをしらす。あはれむへしといへとも。無明縛のかさなれるをしれるは。發菩提心の種子となりぬへし。いま行佛かつてかくのことくの縛に縛せられさるなり。かるかゆゑに。我本行菩薩道所成壽命。今猶未盡。復倍上數なり。しるへし菩薩の壽命いまに連綿とあるにあらず。佛壽命の過去に布徧せるにあらず。いまいふ上數は。全所成なり。いひきたる今猶は。全壽命なり。我本行たとひ。萬里一條鐵なりとも。百年抛却任縱横なり。しかあれば。すなはち修證は無にあらず。修證は有にあらず。修證は染汗にあらず。無佛無人の處在に。百千萬ありといへとも。行佛を染汗せず。ゆゑに。行佛の修證に染汗せられさるなり。修證の不染汗なるには。あらず。この不染汗。それ無

清亦如本吾
のゆふ是
に諸佛
なり十
し二字無

福に本に
らるに本に
作るに本に
本爲るに本に
捨法の六
り無の六
字上無の
但無の六
なり清
本あり清
に作あり

なり。曹谿いはく。祇此不染汗。是諸佛之所護念。汝亦如是。吾亦如是。乃至西天諸祖亦如是。しかあればすなはち汝亦如是のゆふに諸佛なり。吾亦如是のゆふに諸佛なり。まことにわれにあらずなんちにあらず。この不染汗に。如吾是吾。諸佛所護念。これ行佛威儀なり。如汝是汝。諸佛所護念。これ行佛威儀なり。吾亦のゆふに師勝なり。汝亦のゆふに資強なり。師勝資強。これ行佛の明行足なり。しるへし是諸佛之所護念と。吾亦なり。汝亦なり。曹谿古佛の道得たとひわれにあらずとも。なんちにあらずらんや。行佛之所護念。行佛之所通達。それかくのことし。かるかゆふにしりぬ修證は性相本末等にあらず。行佛の去就。これ果然として佛を行せしむるに。佛すなはち行せしむ。ここ。に爲法捨身あり。爲身捨法あり。不惜身命なり。但惜身命なり。法のために法をすつるのみにあらず。心のために法をすつる威儀あり。捨は無量なることわするへからず。佛量を拈來して。大道を測量し度量すへからず。佛量は一隅なり。たとへは華開のことし。心量を擧來

せ福本
すに福本
るに福本

して威儀を摸索すへからず。擬議すへからず。心量は一面なり。たとへは世界のことし。一莖艸量あきらかに佛祖心量なり。これ行佛の蹤跡を認せる一片なり。一心量たとひ無量佛量を包含せりと見徹すとも。行佛の容止動靜を量せんと擬するには。もとより過量の面目あり。過量の行履なるかゆふに。即不中なり。使不得なり。量不及なり。しはらく行佛威儀に。一究あり。即佛即自と。恁麼來せるに。吾亦汝亦の威儀。それ唯我能にかかはれりといふとも。すなはち十方佛然の脱落。これ同條のみにあらず。かるかゆふに古佛いはく。體取那邊事。却來這裏行履。すてに恁麼保任するに。諸法諸身諸行諸佛。これ親切なり。この行法身佛。かのおの承當に罣礙あるのみなり。承當に罣礙あるかゆふに。承當に脱落あるのみなり。眼礙の明明百艸頭なる。不見一法。不見一物と動著することなかれ。這法に若至なり。那法に若至なり。拈來拈去。出入同門に行履する。徧界不曾藏なるかゆふに。世尊の密語密證密行密付等あるなり。出門便是艸人門。便是艸萬里

福本
下なり
字無し

無寸艸なり。入之一字。出之一字。這頭也。不用得。那頭也。不用得なり。いまの把握は。放行をまたされとも。これ夢幻空華なり。たれかこれを夢幻空華と將錯就錯せん。進歩也。錯退歩也。錯一步也。錯兩歩也。錯なるかゆゑに錯錯なり。天地懸隔するかゆゑに。至道無難なり。威儀儀威大道體寛と究竟すへし。しるへし。出生合道出なり。入死合道入なり。その頭正尾正に。玉轉珠廻の威儀現前するなり。佛威儀の一隅を遺有するは。盡乾坤大地なり。盡生死去來なり。塵刹なり。蓮華なり。これ塵刹蓮華かのおの一隅なり。學人おほくおもはく盡乾坤といふは。この南瞻部洲をいふならんと擬せられ。またこの一四洲をいふならんと擬せられ。たまたまた神丹一國おもひにかかり。日本一國おもひにめくるかことし。また盡大地といふも。たまた三千大千世界とおもふかことし。わつかに一州一縣をおもひにかくるかことし。盡大地盡乾坤の言句を參學せんこと。三次五次もおもひめくらすへし。ひろきにこそはとてやみぬることなかれ。この得道は。極大同小。

福本
れの二
字無し

極小同大の超佛越祖なるなり。大の有にあらさる。小の有にあらさる。疑著にいたりといへとも。威儀行佛なり。佛佛祖祖の道取する。盡乾坤の威儀。盡大地の威儀。ともに不曾藏を徧界と參學すへし。徧界不曾藏なるのみにはあらさるなり。これ行佛一中の威儀なり。佛道を説著するに。胎生化生等は。佛道の行履なりといへとも。いまた濕生卵生等を道取せず。いはんやこの胎卵濕化生のほかに。なほ生あること。夢也。未見在なり。いかにいはんや胎卵濕化生のほかに。胎卵濕化生あることを見聞覺知せんや。いま佛佛祖祖の大道には。胎卵濕化生のほかの胎卵濕化生あること。不曾藏に正傳せり。親密に正傳せり。この道得きかす。ならはす。しらす。あきらめ。さらん。は。なにの黨類なりとかせん。すてに四生は。きくところなり。死は。いくは。くかある。四生には。四死あるへきか。また三死二死あるへきか。また五死六死。千死萬死あるへきか。この道理。わつかに疑著せんも。參學の分なり。しは。らく。功夫すへし。この四生衆類のなかに。生は。ありて。を。

福本の類
無し二字

福本も
下のも
有り

しつ
りつ
福本
しつ
福本
に作
るひ

きものあるへしや。また死のみ單傳にして。生を單傳せざるありや。單生單死の類の。有無。かならず參學すへし。わづかに無生の言句をききて。あきらむることなく。身心の功夫をさしおくか。とくするものあり。これ愚鈍のはなはたしきなり。信法頓漸の論にも。およはざる。畜類といひぬへし。ゆゑいかんとなれば。たとひ無生ときくといふとも。この道得の意旨。作廢生なるへし。さらに無佛無道無心無滅なるへしや。無無生なるへしや。無法界無法性なるへしや。無死なるへしや。と功夫せず。いたづらに水艸の但念なるか。ゆゑなり。しるへし。生死は佛道の行履なり。生死は佛家の調度なり。使也。要使なり。明也。明得なり。ゆゑに諸佛はこの通塞に。明明なり。この要使に。得得なり。この生死の際にくらからん。たれかなんちをなんちといはん。たれかなんちを了生達死の漢といはん。生死にし。つめりときくへからず。生死にありとしるへからず。生死を生死なりと信受すへからず。不會すへからず。不知すへからず。あるひはいふ。たた人道のみ

こと
な
福
本
か
れ
へ
か
ら
ず
に
作
る

に諸佛出世す。さらに餘方餘道には出現せず。とおもへり。いふか。とくならは佛在のところ。みな人道なるへきか。これは人佛の唯我獨尊の道得なり。さらに天佛もあるへし。佛佛もあるへきなり。諸佛は。唯人間のみに出現すといはん。は。佛祖の閻輿にいらざるなり。祖宗いはく。釋迦牟尼佛。自從迦葉佛所傳正法。往兜率天。化兜率陀天。于今有在。まことにしるへし。人間の釋迦は。このとき滅度現の化をしけりといへとも。上天の釋迦は。于今有在にして。化天するものなり。學人しるへし。人間の釋迦の千變萬化の道著あり。行取あり。説著あるは。人間一隅の放光現瑞なり。おろかに上天の釋迦。その化さらに千品萬門ならん。しらざるへからず。佛佛正傳する。大道の斷絶を超越し。無始無終を脱落せる宗旨。ひとり佛道のみ。に正傳せり。自餘の諸類。しらすきか。さる功德なり。行佛の設化するところには。四生にあらざる衆生あり。天上人間法界等にあらざるところあるへし。行佛の威儀を觀見せんとき。天上人間のまなこをもちあること。な

れ。天上人間の情量をもちゐるへからず。これを擧げて測量せんとな擬することなかれ。十聖三賢なほこれをしらすあきらめず。いはんや人中天上の測量のおよふことあらんや。人量短小なるには。識智も短小なり。壽命短促なるには。思慮も短促なり。いかにしてか行佛の威儀を測量せん。しかあればすなはちたた人間を擧げて佛法とし。人法を擧げて佛法を局量せる家門。かれこれともに佛子と許可することなかれ。これたた業報の衆生なり。いまた身心の聞法あるにあらず。いまた行道せる身心なし。従法生にあらず。従法滅にあらず。従法見にあらず。従法聞にあらず。従法行住坐臥にあらず。かくのことくの黨類。かつて法の潤益なし。行佛は本覺を愛せず。始覺を愛せず。無覺にあらず。有覺にあらずといふ。すなはちこの道理なり。いまた凡夫の活計する。有念無念。有覺無覺。始覺本覺等。ひとへに凡夫の活計なり。佛佛相承せるところにあらず。凡夫の有念と諸佛の有念とはるかにことなり。比擬することなかれ。凡夫の本覺と活計する

と諸佛の本覺と證せると。天地懸隔なり。比論の所及にあらず。十聖三賢の活計。なほ諸佛の道におよはず。いたつらなる算沙の凡夫。いかてかはかることあらん。しかあるをわつかに。凡夫外道の本末の邪見を活計して。諸佛の境界とおもへるや。からおほし。諸佛いはく。此輩罪根深重なり。可憐愍者なり。深重の罪根。たとひ無端なりとも。此輩の深重擔なり。この深重擔。しはらく放行して。著眼看すへし。把定して。自己を礙すといふとも。起首にあらず。いま行佛威儀の無礙なるほとけに礙せらるるに。挖泥滯水の活路を通達しきたるゆゑに。無罣礙なり。上天にしては化天す。人間にしては化人す。華開の功德あり。世界起の功德あり。かつて間隙なきものなり。このゆゑに。自佗に迴脱あり。往來に獨拔あり。即往兜率天なり。即來兜率天なり。即即兜率天なり。即往安樂なり。即來安樂なり。即即安樂なり。即迴脱兜率なり。即迴脱安樂なり。即打破百難碎安樂。兜率なり。即把定放行安樂。兜率なり。一口吞盡なり。しるへし安樂兜率といふは。淨土天堂とも

に輪廻することの同般なるとなり。行履なれば浄土天堂おなしく行履なり。大悟なればおなしく大悟なり。大迷なればおなしく大迷なり。これしはらく行佛の鞋裏の動指なり。あるときは。一道の放屁聲なり。放尿香なり。鼻孔あるは歟得ず。耳處身處行履處あるに聽取するなり。また得吾皮肉骨髓するときあり。さらに行得に佗よりえさるものなり。了生達死の大道すてに豁達するに。ふるくよりの道取あり。大聖は。生死を心にまかす。生死を身にまかす。生死を道にまかす。生死を生死にまかす。この宗旨あらはるる古今のときにあらずといへとも。行佛の威儀。忽爾として行盡するなり。道環として生死身心の宗旨すみやかに辨育するなり。行盡明盡。これ強爲の爲にあらず。迷頭認影に大似なり。廻光返照に一如なり。その明上又明の明は行佛に彌綸なり。これ行取に一任せり。この任任の道理すへからく心を参究すへきなり。その参究の兀爾は萬回これ心の明白なり。三界たた心の大隔なりと知及し會取す。この知及會取。さらに萬

法なりといへとも。自己の家郷を行取せり。當人の活計を便是なり。しかあれば句中取則し。言外求巧する。再三撈撻。それ把定にあまれる把定あり。放行にあまれる放行あり。その功夫はいかなるか。これ生。いかなるか。これ死。いかなるか。これ身心。いかなるか。これ與棄。いかなるか。これ任違。それ同門出入の不相逢なるか。一著落在に藏身。露角なるか。大慮而解なるか。老思而知なるか。一顆明珠なるか。一大藏教なるか。一條拄杖なるか。一枚面目なるか。三十年後なるか。一念萬年なるか。子細に檢點し。檢點を子細にすへし。檢點の子細にあたりて。滿眼聞聲滿耳見色。さらに沙門一隻眼の開明なるに。不是目前法なり。不是目前事なり。雍容の破顔あり。瞬目あり。これ行佛の威儀の暫爾なり。被物牽にあらず。不牽物なり。縁起の無生無作にあらず。本性法性にあらず。住法位にあらず。本有然にあらず。如是を是するのみにあらず。ただ威儀行佛なるのみなり。しかあればすなはち爲法爲身の消息。よく心にまかす。脱生脱死の威儀。しはらくほとけに

狸一に福作本
糝に福作本
本り糝に福作本
作る糝に福作本

一任せり。ゆゑに道取あり。萬法唯心。三界唯心。さらに向上に道得するに。唯心の道得あり。いはゆる牆壁瓦礫なり。唯心にあらざるか。ゆゑに牆壁瓦礫にあらす。これ行佛の威儀なる。任心任法。爲法爲身の道理なり。さらに始覺本覺等の所及にあらず。いはんや外道二乘三賢十聖の所及ならんや。この威儀たたこれ而面の不會なり。枚枚の不會なり。たとひ活鱗鱗地も。條條譚まり。一條鐵か。兩頭動か。一條鐵は長短にあらず。兩頭動は自佗にあらず。この展事投機のちから功夫をうるに。威掩萬法なり。眼高一世なり。收放をさへさる光明あり。僧堂佛殿厨庫三門なり。さらに十方通のまなこあり。大地全收のまなこあり。心のまへあり。心のうしろあり。かくのことくの眼耳鼻舌身意光明功德の熾然なるゆゑに。不知有を保任せる三世諸佛あり。却知有を投機せる狸奴白牯あり。この巴鼻あり。この眼睛あるは。法の行佛をととき。法の行佛をゆるすなり。

候福本
に福本
る候福本

雪峰山眞覺大師示衆云。三世諸佛。在火焰裏轉大法輪。玄沙院宗一大師曰。火焰爲三世諸佛說法。三世諸佛立地聽。圓悟禪師曰。將謂侯白。更有侯黑。互換投機。神出鬼沒。烈焰亘天佛說法。亘天烈焰說法。佛風前剪。斷葛藤窠。一言動破維摩詰。いま三世諸佛といふは。一切諸佛なり。行佛はすなはち三世諸佛なり。十方諸佛ともに三世にあらざるなり。佛道は三世をとくにかくのことく説盡するなり。いま行佛をたつぬるに。すなはち三世諸佛なり。たとひ知有なりといへとも。たとひ不知有なりといへとも。かならず三世諸佛なる行佛なり。しかあるに三位の古佛。おなしく三世諸佛を道得するに。かくのことくの道あり。しはらく雪峰のいふ三世諸佛在火焰裏轉大法輪といふ。この道理ならふへし。三世諸佛の轉法輪の道場は。かならず火焰裏なるへし。火焰裏かならず佛道場なるへし。經師論師きくへからず。外道二乘しるへからず。しるへし諸佛の火焰は諸類の火焰なるへからず。また諸類は火焰あるかなきかとも。照顧すへし。三世諸佛の在火

測世福
本測度
に作る

焰裏の化儀ならふへし。火焰裏に處在するときは。火焰と諸佛と親切なるか。轉疎なるか。依正一如なるか。依報正報あるか。依正同條なるか。依正同隔なるか。轉大法輪は。轉自轉機あるへし。展事投機なり。轉法法輪あるへし。すてに轉法輪といふ。たとひ盡大地これ盡火焰なりとも。轉火輪の法輪あるへし。轉諸佛の法輪あるへし。轉法輪の法輪あるへし。轉三世の法輪あるへし。しかあれはすなはち火焰は。諸佛の轉大法輪の大道場なり。これを界量。時量。人量。凡聖量等をも。測量するはあたらざるなり。これらの量に量せられされはすなはち三世諸佛在火焰裏轉大法輪なり。すてに三世諸佛といふ。これは量を超越せるなり。三世諸佛。轉法輪の道場なるかゆゑに。火焰あるなり。火焰あるかゆゑに。諸佛の道場あるなり。玄沙いはく。火焰の三世諸佛のために説法するに。三世諸佛は。立地聽法す。この道をききて。玄沙の道は。雪峰の道よりも道得是なりといふ。かならずしもしかあらずるなり。しるへし。雪峰の道は。玄沙の道と別なり。いはゆる

雪峰は三世諸佛の轉大法輪の處在を道取し。玄沙は三世諸佛の聽法を道取するなり。雪峰の道まさしく轉法を道取すれとも。轉法の處在かならずしも聽法不聽法を論するにあらず。しかあれは轉法にかならず聽法あるへしとときこえす。また三世諸佛爲火焰說法といはす。三世諸佛爲三世諸佛轉大法輪といはす。火焰爲火焰轉大法輪といはさる宗旨あるへし。轉法輪といひ。轉大法輪といふ。その別あるか。轉法輪は説法にあらず。説法かならずしも爲佗あらんや。しかあれは雪峰の道の道取すへき道を道取しつくさざる道にあらず。雪峰の在火焰裏轉大法輪。かならず委悉に參學すへし。玄沙の道に混亂することなかれ。雪峰の道を通するは。佛威儀を威儀するなり。火焰の三世諸佛を在裏せしむる。一無盡法界。二無盡法界の周徧のみにあらず。一微塵。二微塵の通達のみにあらず。轉大法輪を量として。大小廣狹の量に擬することなかれ。轉大法輪は。爲自爲佗にあらず。爲説爲聽にあらず。玄沙の道に。火焰爲三世諸佛説法。三世諸佛立

地聽といふ。これは火焰たとひ爲三世諸佛說法すとも。いままた轉法輪すといはす。また三世諸佛の法輪を轉すといはす。三世諸佛は立地聽すとも。三世諸佛の法輪いかてか火焰これを轉することあらん。爲三世諸佛說法する火焰。また轉大法輪すや。いなや。玄沙もいまたいはす。轉法輪はこのときなりと。轉法輪なしといはす。しかあれとも。想料すらくは。玄沙おろかに轉法輪は說法輪ならんと會取せるか。もししかあらはなほ雪峰の道にくらし。火焰の三世諸佛のため。に說法のとき。三世諸佛立地聽法すとはしれりといへとも。火焰轉法輪のところに。火焰立地聽法すとしらす。火焰轉法輪のところに。火焰同轉法輪すといはす。三世諸佛の聽法は。諸佛の法なり。佗よりかうふらしむるにあらず。火焰を法と認することなかれ。火焰を佛と認することなかれ。火焰を火焰と認することなかれ。まことに師資の道なほさりなるへからす。將謂赤鬚胡のみならんや。さらにこれ胡鬚赤なり。玄沙の道かくのことくなりといへとも。參學の力

しらは清
に作はる

量とすへきところあり。いはゆる經師論師の大乗小乗の局量の性相にかかはれず。佛佛祖正傳せる性相を參學すへし。いはゆる三世諸佛の聽法なり。これ大小乗の性相にあらざるところなり。諸佛は機縁に逗する說法ありとのみしりて。諸佛聽法すとしらす。諸佛修行すといはす。諸佛成佛すといはす。いま玄沙の道には。すてに三世諸佛立地聽法といふ。諸佛聽法する性相あり。かならずしも能説をすくれたりとし。能聽是法者を劣なりといふことなかれ。説者尊なれば。聽者も尊なり。釋迦牟尼佛言。若説此經則爲見我。爲一人説。是則爲難。しかあれば能說法は。見釋迦牟尼佛なり。則爲見我は。釋迦牟尼佛なるかゆ系に。またいはく。於我滅後聽受此經。問其義趣。是則爲難。しるへし聽受者もおなしく。これ爲難なり。勝劣あるにあらず。立地聽これ最尊なる諸佛なりといふとも。立地聽法あるへきなり。立地聽法これ三世諸佛なるかゆ系に。諸佛は果上なり。因中の聽法をいふにあらず。すてに三世諸佛とあるかゆ系に。しるへし三世諸佛

これ福
本是則
に作る

清本さ
らにの
字無し

は。火焰の説法を立地聽して諸佛なり。一道の化儀たとるへきにあ
らす。たとらんとするに箭鋒相拄せり。火焰は決定して三世諸佛の
ために説法す。赤心片片として。鐵樹華開世界香なるなり。且道す
くは。火焰の説法を立地聽しもてゆくに。畢竟して現成箇什麼。いは
ゆるは。智勝于師なるへし。智等于師なるへし。さらに。師資の闡奥に
參究して。三世諸佛なるなり。圓悟いはく。の侯白と將謂する。さらに
侯黒をさへさる。互換の投機それ神出鬼没なり。これは玄沙と同條
出すれとも。玄沙に同條入せさる。一路もあるへしといへとも。火焰
の諸佛なるか。諸佛を火焰とせるか。黑白互換のこころ。玄沙の神鬼
に出没すといへとも。雪峰の聲色。いまた黑白の際にのこらす。しか
もかくのことくなりといへとも。玄沙に道是あり道不是あり。雪峰
に道拈あり道放あることをしるへし。いま圓悟さらに玄沙に同せ
す。雪峰に同せさる道あり。いはゆる烈焰。亘天はほとけ法をとくな
り。亘天烈焰は法ほとけをとくなり。この道は眞箇これ晚進の光明

翻本か
くのこ
とくが
るのな
字無し

なり。たとひ烈焰にくらしといふとも。亘天にかほはれは。われその
分あり。佗この分あり。亘天のおほふところすてにこれ烈焰なり。這
箇をきらふて用那頭は作麼生なるのみなり。よろこふへしこの皮
袋子。うまれたるところは去聖方遠なり。いけるいまは去聖時遠な
りといへとも。亘天の化導なほきこゆるにあへり。いはゆるほとけ
法をとくことは。きくところなりといへとも。法ほとけをとくこと
は。いくかさなりの不知をかわつらひこし。しかあればすなはち三
世の諸佛は。三世に法にとかれ。三世の諸法は。三世に佛にとかるる
なり。葛藤窠の風前に剪斷する。亘天のみあり。一言はかくるること
なく。勘破してきたる。維摩詰をも。非維摩詰をも。しかあればすなはち
法説佛なり。法行佛なり。法證佛なり。佛説法なり。佛行佛なり。佛作佛
なり。かくのことくなる。ともに。行佛の威儀なり。亘天亘地。亘古亘今
にも。得者不輕。微明者不賤用なり。

正法眼藏行佛威儀

仁治二年辛丑十月中旬記于觀音導利興聖寔林寺沙門道元

正法眼藏佛教

諸佛の道現成。これ佛教なり。これ佛祖の佛祖のためにするゆゑに。教の教のために正傳するなり。これ轉法輪なり。この法輪の眼睛裏に諸佛祖を現成せしめ。諸佛祖を般涅槃せしむ。その諸佛祖かならず一塵の出現あり。一塵の涅槃あり。盡界の出現あり。盡界の涅槃あり。一須臾の出現あり。多劫海の出現あり。しかあれとも一塵一須臾の出現。さらに不具足の功德なし。盡界多劫海の出現。さらに補虧闕の經營にあらず。このゆゑに朝に成道して。夕に涅槃する諸佛。いまた功德かけたりといはず。もし一日は功德すくなしといはば。人間の八十年ひさしきにあらず。人間の八十年をもて。十劫二十劫に比せんとき。一日と八十年とのことくならん。此佛彼佛の功德わきまへかたからん。長劫壽量の所有の功德と。八十年の功德とを擧して比量せんとき。疑著するにもおよはざらん。このゆゑに佛教はすなはち教佛なり。佛祖究盡の功德なり。諸佛は高廣にして。法教は狭少

なるにあらず。まさにしるへし佛大なれば教大なり。佛小なれば教小なり。このゆゑにしるへし佛および教は大小の量にあらず。善惡無記等の性にあらず。自教教佗のためにあらず。ある漢いはく釋迦老漢。かつて一代の教典を宣説するほかに。さらに上乘一心の法を摩訶迦葉に正傳す。嫡嫡相承してきたれり。しかあれば教は赴機の戲論なり。心は理性の眞實なり。この正傳せる一心を。教外別傳といふ。三乘十二分教の所談にひとしかるへきにあらず。一心上乘なるゆゑに。直指人心見性成佛なりといふ。この道取いまた佛法の家業にあらず。出身の活路なし。通身の威儀あらず。かくのことくの漢。たとひ數百千年のさきに先達と稱すとも。恚癡の説話あらは佛法佛道はあきらめす通せさりけるとしるへし。ゆゑはいかん。佛をしらず。教をしらず。心をしらず。内をしらず。外をしらざるかゆゑに。そのしらざる道理は。かつて佛法をきかざるによりてなり。いま諸佛といふ本末いかなるとしらず。去來の邊際すへて學せされは。佛弟子と

稱するにたらず。たた一心を正傳して。佛教を正傳せすといふは佛法をしらざるなり。佛教の一心をしらず。一心の佛教をきかず。一心のほかに佛教ありといふ。なんちか一心いまた一心ならず。佛教のほかに一心ありといふ。なんちか佛教いまた佛教ならざらん。たとひ教外別傳の謬説を相傳すといふとも。なんちいまた内外をしらされは。言理の符合あらざるなり。佛正法眼藏を單傳する佛祖。いかてか佛教を單傳せざらん。いはんや釋迦老漢なにとしてか佛家の家業にあるへからざらん。教法を施設することあらん。釋迦老漢すてに單傳の教法をあらしめん。いつれの佛祖かなからしめん。このゆゑに上乘一心といふは。三乘十二分教これなり。大藏小藏これなり。しるへし佛心といふは。佛の眼睛なり。破木杓なり。諸法なり。三界なるかゆゑに。山海國土。日月星辰なり。佛教といふは。萬像森羅なり。外といふは。這裏なり。這裏來なり。正傳は自己より自己に正傳するかゆゑに。正傳のなかに自己あるなり。一心より一心に正傳するな

荷本心外も
別は傳はと
一は傳はと
偽は傳はと
五は傳はと
無は傳はと

清本も
下傳はと
無は傳はと

り。正傳に一心あるへし。上乘一心は。土石砂磔なり。土石砂磔は。一心なるかゆ系に。土石砂磔は。土石砂磔なり。もし上乘一心の正傳といはは。かくのことくあるへし。しかあれとも。教外別傳を道取する漢。いまたこの意旨をしらす。かるかゆ系に。教外別傳の謬説を信して。佛教をあやまることなかれ。もしなんちかいふかことくならは。教をは。心外別傳といふへきか。もし心外別傳といはは。一句半偈つたは。るへからざるなり。もし心外別傳といはは。すは。教外別傳といふへからざるなり。摩訶迦葉すてに。釋尊の嫡子として。法藏の教主たり。正法眼藏を正傳して。佛道の住持なり。しかあれとも。佛教は正傳すへからすといふは。學道の偏局なるへし。しるへし。一句を正傳すれは。一法の正傳せらるるなり。一句を正傳すれは。山傳水傳なり。不能離却。這裏傳なり。釋尊の正法眼藏無上菩提は。たた摩訶迦葉に正傳せしなり。餘子に正傳せず。正傳はかならず。摩訶迦葉なり。このゆ系に古今に佛法の眞實を學する箇箇。ともにみな從來の教學を決擇

するには。かならず。佛祖に參究するなり。決を餘輩にとふらはす。もし佛祖の正決をえさるは。いまた正決にあらず。依教の正不を決せんとおもはんは。佛祖に決すへきなり。そのゆ系は。盡法輪の本主は。佛祖なるかゆ系に。道有道無道。空道色。たた佛祖のみ。これをあきらめ。正傳しきたりて。古佛今佛なり。巴陵因僧問。祖意教意。是同是別。師云。鷄寒上樹。鴨寒入水。この道取を參學して。佛道の祖宗を相見し。佛道の教法を見聞すへきなり。いま。祖意教意と問取するは。祖意は祖意と。是同是別と問取するなり。いま。鷄寒上樹。鴨寒入水といふは。同別を道取すといへとも。同別を見取するとも。からの見聞に一任する同別にあらざるへし。しかあれは。すなはち同別の論にあらざるかゆ系に。同別と道取すつへきなり。このゆ系に。同別と問取すへからすといふかことし。玄沙因僧問。三乘十二分教。即不要。如何是祖師。西來意。師云。三乘十二分教。總不要。いはゆる僧問の三乘十二分教。即不要。如何是祖師。西

來意といふよのつねにおもふかことく三乘十二分教は條條の岐路なり。そのほか祖師西來意あるへしと問するなり。三乘十二分教これ祖師西來意なりと認するにあらず。いはんや八萬四千法門蘊すなはち祖師西來意としらんや。しはらく參究すへし。三乘十二分教なにしてか即不要なるも。し要せんときは。いかなる規矩かある。三乘十二分教を不要なるところに。祖師西來意の參學を現成するか。いたつらにこの問の出現するにあらずらん。玄沙いはく。三乘十二分教總不要。この道取は法輪なり。この法輪の轉するところ。佛敎の佛敎に處在することを參究すへきなり。その宗旨は。三乘十二分教は。佛祖の法輪なり。有佛祖の時處にも轉す。無佛祖の時處にも轉す。祖前祖後おなしく轉するなり。さらに佛祖を轉する功德あり。祖師西來意の正當恁麼時は。この法輪を總不要なり。總不要といふは。もちゐるにあらす。やふるにあらす。この法輪このとき總不要輪の轉するのみなり。三乘十二分教なしといはず。總不要の時節

を觀見すへきなり。總不要なるかゆゑに。三乘十二分教なり。三乘十二分教なるかゆゑに。三乘十二分教にあらず。このゆゑに。三乘十二分教總不要と道取するなり。その三乘十二分教そこはくあるなかの一隅をあくるにはすなはちこれなり。

三乘

一者聲聞乘 四諦によりて得道す。四諦といふは。苦諦。集諦。滅諦。道諦なり。これをききこれを修行するに。生老病死を度脱し。般涅槃を究竟す。この四諦を修行するに。苦集は俗なり。滅道は第一義なりといふは。論師の見解なり。もし佛法によりて修行するかときは。四諦ともに唯佛與佛なり。四諦ともに法住法位なり。四諦ともに實相なり。四諦ともに佛性なり。このゆゑに。さらに無性無作等の論におよはず。四諦ともに總不要なるゆゑに。

二者緣覺乘 十二因緣によりて般涅槃す。十二因緣といふは。一者無明。二者行。三者識。四者名色。五者六入。六者觸。七者受。八者愛。九者取。

福本股
字無し

十者有。十一者生。十二者老死。この十二因縁を修行するに。過去現在未來に因縁せしめて。能觀所觀を論すといへとも。一一の因縁を舉して參究するに。すなはち總不要輪轉なり。總不要因縁なり。しるへし無明これ一心なれば。行識等も一心なり。無明これ滅なれば。行識等も滅なり。無明これ涅槃なれば。行識等も涅槃なり。生も滅なるかゆゑに。恁麼いふなり。無明も道著の一句なり。識名色等もまたかくのことし。しるへし無明行等は。吾有箇斧子與汝住山なり。無明行識等は。發時蒙和尚許斧子便請取なり。

三者菩薩乘。六波羅蜜の教行證によりて。阿耨多羅三藐三菩提を成就す。その成就といふは。造作にあらず。無作にあらず。始起にあらず。新成にあらず。久成にあらず。本行にあらず。無爲にあらず。た成就阿耨多羅三藐三菩提なり。六波羅蜜といふは。檀波羅蜜。尸羅波羅蜜。羼提波羅蜜。毗梨耶波羅蜜。禪那波羅蜜。般若波羅蜜なり。これはとも。無上菩提なり。無生無作の論にあらず。かならずしも檀をはし

無て福本
し火注
總

めとし般若ををはりとせず。經云。利根菩薩般若爲初檀爲終。鈍根菩薩檀爲初般若爲終。しかあれとも。羼提もはしめなるへし。禪那もはしめなるへし。三十六波羅蜜の現成あるへし。籬籠より籬籠をうるなり。波羅蜜といふは。彼岸到なり。彼岸は去來の相貌蹤跡にあらず。れとも到は現成するなり。到は公案なり。修行の彼岸えいたるへし。とおもふことなかれ。彼岸に修行あるかゆゑに。修行すれば彼岸到なり。この修行。かならず徧界現成の力量を具足せるかゆゑに。

十二分教 修多羅亦云線經

一者素咀纒 此云契經

二者祇夜 此云重頌 以偈頌修多羅也

三者和伽羅那 此云授記

四者伽陀 此云諷誦 此云不重頌如此問詩頌

五者憂陀那 此云無問自說 無問自說經者聖人說法皆待請問然爲衆生作不

說衆則不知爲說又復不知爲說何法故無問自說乃所以彰所說甚深唯證是以寄無問自說以彰所顯也

正法眼藏佛敎

福本七
者下有
字有阿

六者尼陀那

此云因緣

因緣經者欲明戒法亦因犯彰過過相彰現方得立制此亦託因緣以明所顯也

七者波陀那

此云譬喻

阿波陀那

八者伊帝目多伽

此云本事

此云如是語亦云本事

九者闍陀伽

此云本生

本生事者謂說前生菩薩行事本事事者謂前世諸相應事

十者毗佛略

此云方廣

十一者阿浮陀達磨

此云未曾有

十二者優婆提舍

此云論議

如來則爲直說陰界入等假實之法是名修多羅。或四五六七八九言偈。重頌世界陰入等事。是名祇夜。或直記衆生未來事。乃至記鵠雀成佛等。是名和伽羅那。或孤起偈記世界陰入等事。是名伽陀。或無人問。自說世界事。是名優陀那。或約世界不善事而結禁戒。是名尼陀那。或以譬諭說世界事。是名阿波陀那。或說本昔世界事。是名伊帝目多伽。或說本昔受生事。是名闍陀伽。或說世界廣大。是名毗佛略。或說世界未曾有事。是名阿浮陀達磨。或問難世界事。是名優婆提舍。此是世界悉檀。爲悅衆生。

福本名
下有

故。起十二部經。十二部經の名きくことまれなり。佛法のよのなかにひろまれるときこれをきく。佛法すてに滅するときはきかす。佛法いまたひろまらざるときまたきかす。ひさしく善根をうゑて。佛をみたてまつるへきものこれをきく。すてにきくものはひさしからずして阿耨多羅三藐三菩提をうへきなり。この十二部の經と稱す。十二分教ともいひ。十二部經ともいふなり。十二分教。おののの十二分教を具足せるゆゑに。一百四十四分教なり。十二分教。おのの十二分教を兼含せるゆゑに。たた一分教なり。しかあれとも億前億後の數量にあらず。これみな佛祖の眼睛なり。佛祖の骨髓なり。佛祖の家業なり。佛祖の光明なり。佛祖の莊嚴なり。佛祖の國土なり。十二分教をみるは。佛祖をみるなり。佛祖を道取するは。十二分教を道取するなり。しかあれはすなはち青原の垂一足。すなはち三乘十二分教なり。南嶽の説似一物。即不中。すなはち三乘十二分教なり。いま玄沙の道取する總不要の意趣。それかくのことし。この宗旨舉括

分清本
る部に作

するときはたた佛祖のみなり。さらに半人なし一物なし。一事未起なり。正當恁麼時如何。いふへし總不要あるひは九部といふあり。九分教といふへきなり。

- 九部
- 一者修多羅
- 二者伽陀
- 三者本事
- 四者本生
- 五者未曾有
- 六者因緣
- 七者譬喩
- 八者祇夜
- 九者優婆提舍

この九部。おのおの九部を具足するかゆゑに。八十一部なり。九部おのおの一部を具足するゆゑに九部なり。歸一部の功德あらすは九部なるへからず。歸一部の功德あるかゆゑに。一部歸一部なり。このゆゑに八十一部なり。此部なり。我部なり。拂子部なり。拄杖部なり。正法眼藏部なり。

福本
し字無

釋迦牟尼佛言。我此九部法。隨順衆生說。入大乘爲本。以故說是經。しるへし我此は如來なり。面目身心あらはれきたる。この我此すてに

福本
ほとけ
をとく
無し

九部法なり。九部法すなはち我此なるへし。いまの一句一偈は九部法なり。我此なるかゆゑに隨順衆生說なり。しかあればすなはち一切衆生の生從這裏生すなはち說是經なり。死從這裏死はすなはち說是經なり。乃至造次動容すなはち說是經なり。化一切衆生。皆令入佛道。すなはち說是經なり。この衆生は我此九部法の隨順なり。この隨順は隨陀去なり。隨自去なり。隨衆去なり。隨生去なり。隨我去なり。隨此去なり。その衆生かならず我此なるかゆゑに。九部法の條條なり。入大乘爲本といふは。證大乘といひ。行大乘といひ。聞大乘といひ。說大乘といふ。しかあれば衆生は天然として得道せりといふにあらず。その一端なり。入は本なり。本は頭正尾正なり。ほとけ法をとく。法ほとけをとく。法ほとけにとかる。ほとけ法にとかる。火焰ほとけをとく。法をとく。ほとけ火焰をとく。法火焰をとく。是經すてに說故の良以あり。故說の良以あり。是經とかさらんと擬するに不可なり。このゆゑに。以故說是經といふ。故說は亘天なり。亘天は故說なり。此

明眼
一作本

清本此
奥書無

佛彼佛ともに是經と一稱し。自界佗界ともに是經と故説す。このゆ
系に説是經なり。是經これ佛教なり。しるへし恒沙の佛教は竹筥拂
子なり。佛教の恒沙は。拄杖拳頭なり。おほよそしるへし三乘十二分
教等は。佛祖の眼睛なり。これを開眼せざらんもの。いかてか佛祖の
兒孫ならん。これを拈來せざらんもの。いかてか佛祖の正眼を單傳
せん。正法眼藏を體達せざるは。七佛の法嗣にあらざるなり。

正法眼藏佛教

于時仁治二年辛丑十一月十四日在雍州興聖精舍示衆

正法眼藏神通

かくのことくなる神通は。佛家の茶飯なり。諸佛いまに懈倦せざる
なり。これに六神通あり。一神通あり。無神通あり。最上神通あり。朝打
三千なり。暮打八百なるを爲體とせり。與佛同生せりといへとも。佛
にしられず。與佛同滅すといへとも。佛をやふらす。上天に同條なり。
下天にも同條なり。修行取證みな同條なり。同雪山なり。如木石なり。
過去の諸佛は。釋迦牟尼佛の弟子なり。袈裟をささけてきたり。塔を
ささけてきたる。このとき。釋迦牟尼佛いはく。諸佛神通不可思議な
り。しかあれはしりぬ。現在未來も亦復如是なり。

大瀉禪師は。釋迦如來より。直下三十七世の祖なり。百丈大智の嗣法
なり。いまの佛祖。おほく十方に出興せる。大瀉の遠孫にあらざる。す
なはち大瀉の遠孫なり。大瀉あるとき臥せるに。仰山來參す。大瀉す
なはち轉面向壁臥す。仰山いはく。慧寂これ和尚の弟子なり。形迹も
ちみされ。大瀉おくる勢をなす。仰山すなはちいつるに。大瀉召して

るの
福本の
しの下
字有り

寂子とめす。仰山かへる。大瀉いはく。老僧ゆめをとかんをきくへし。仰山かうべをたれて聽勢をなす。大瀉いはく。わかたために原夢せよ。みん。仰山一盆の水。一條の手巾をとりてきたる。大瀉つひに洗而す。洗而しをはりて。わつかに坐するに。香嚴きたる。大瀉いはく。われ適來寂子と一上の神通をなす。不同小小なり。香嚴いはく。智閑下面にありて。了了に得知す。大瀉いはく。子。ころみに道取すへし。香嚴すなはち一盃の茶を點來す。大瀉ほめていはく。二子の神通智慧はるかに鶖子目連よりもすくれたり。○佛家の神通を。しらんとおもはば。大瀉の道取を參學すへし。不同小小のゆゑに。作是學者。名爲佛學。不是學者。不名佛學なるへし。嫡嫡相傳せる。神通智慧なり。さらに西天竺國の外道二乗の神通。および論師等の所學を學することなかれ。いま大瀉の神通を學するに。無上なりといへとも。一上の見聞あり。いはゆる臥次よりこのかた。轉面向壁臥あり。起勢あり。召寂子あり。説箇夢あり。洗而了纒坐あり。仰山又低頭聽あり。盆水來手巾來

り。しかあるを。大瀉いはく。われ適來寂子と。一上の神通をなすと。この神通を學すへし。佛法正傳の祖師かくのことくいふ。説夢洗面といはさることなかれ。一上の神通なりと決定すへし。すてに不同小小といふ。小乘小量小見におなしかるへからす。十聖三賢等に同すへきにあらず。かれらみな小神通をならひ。小身量のみをえたり。佛祖の大神通におよはす。これ佛神通なり。佛向上神通なり。この神通をならはん人は。魔外にうこかさるへからさるなり。經師論師いまたきかさるところ。きくとも信受しかたきなり。二乘外道經師論師等は。小神通をならふ。大神通をならはす。諸佛は大神通を住持す。大神通を相傳す。これ佛神通なり。佛神通にあらされは。盆水來手巾來せず。轉面向壁臥なし。洗而了纒坐なし。この大神通のちからにおほはれて。小神通等もあるなり。大神通は小神通を接す。小神通は大神通をしらす。小神通といふは。いはゆる毛吞巨海。芥納須彌なり。また身上出水。身下出火等なり。また五通六通みな小神通なり。これらの

福本か
ら下有
り字有

やから佛神通は夢也未見聞在なり。五通六通を小神通といふことは。五通六通は修證に染汗せられ。際斷を時處にうるなり。在生にありて身後に現せず。自己にありて佗人にあらず。此土に現すといへとも。佗土に現せず。不現に現すといへとも。現時に現することをえす。この大神通はしかあらず。諸佛の教行證。おなしく神通に現成せしむるなり。たた諸佛の邊に現成するのみにあらず。佛向上にも現成するなり。神通佛の化儀。まことに不可思議なるなり。有身よりさきに現す。現の三際にかかはれぬあり。佛神通にあらされは。諸佛の發心修行菩提涅槃。いまたあらさるなり。いまの無盡法界海の常不變なる。みなこれ佛神通なり。毛吞巨海のみにあらず。毛保任巨海なり。毛現巨海なり。毛吐巨海なり。毛使巨海なり。一毛に盡法界を吞却し吐却するとき。たたし一盡法界かくのことくなれば。さらに盡法界あるへからすと學することなかれ。芥納須彌等もまたかくのこととし。芥吐須彌。および芥現法界無盡藏海にてもあるなり。毛吐巨海。

福本か
ら下有
り字有

芥吐巨海するに。一念にも吐却す。萬劫にも吐却するなり。萬劫一念。おなしく毛芥より吐却せるかゆゑに。毛芥はさらになによりか得せる。すなはちこれ神通より得せるなり。この得すなはち神通なるかゆゑに。たたまさに神通の神通を出生するのみなり。さらに三世の存没あらずと學すへきなり。諸佛はこの神通のみに遊戯するなり。

龐居士蘊公は。祖席の偉人なり。江西石頭の兩席に參學せるのみにあらず。有道の宗師に。おほく相見し相逢しきたる。あるときいはく。神通竝妙用。運水及搬柴。○この通理よくよく參究すへし。いはゆる運水とは。水を運載しきたるなり。自作自爲あり。佗作教佗ありて。水を運載せしむ。これすなはち神通佛なり。しることは有時なりといへとも。神通はこれ神通なり。人のしらするには。その法の廢するにあらず。その法の滅するにあらず。人はしらすれとも。法は法爾なり。運水の神通なりとしらすれとも。神通の運水なるは。不退なり。搬柴

れり
福
に本
作り
るて

とは。たききをほこふなり。たとへは六祖のむかしのことし。朝打三千にも神通としらす。暮打八百にも神通とおほへされとも神通の現成なり。まことに諸佛如來の神通妙用を見聞するは。かならず得道すへし。このゆゑに一切諸佛の得道。かならずこの神通力に成就せるなり。しかあれはいま小乗の出水。たとひ小神通なりといふとも。運水の大神通なることを學すへし。運水般柴はいまたすたれさるところ。人さしおかす。ゆゑにむかしよりいまにおよぶ。これよりかれにつたはれり。須臾も退轉せざるは。神通妙用なり。これは大神通なり。小小とおなしかるへきにあらず。洞山悟本大師。そのかみ雲巖に侍せりしとき。雲巖とふいかなるか。これ价子神通妙用。ときに洞山又手近前而立。また雲巖とふいかならんか。神通妙用。洞山ときに珍重而出。○この因縁。まことに神通の承言會宗なるあり。神通の事存函蓋合なるあり。まさにしるへし。神通妙用は。まさに兒孫あるへし。不退なるものなり。まさに高祖ある

福の本
中の
字無
し二
身

上入
本下
に作
入る

へし。不進なるものなり。いたつらに外道二乘にひとしかるへきと。おもはされ。佛道に身上身下の神變神通あり。いま盡十方界は。沙門一隻の眞實體なり。九山八海乃至性海。薩婆若海水。しかしなから。身上身下。身中の出水なり。また非身上非身下。非身中の出水なり。乃至出火もまたかくのことし。たた水火風等のみにあらず。身上出佛なり。身下出佛なり。身上出祖なり。身下出祖なり。身上出無量阿僧祇劫。身下出無量阿僧祇劫なり。身上出法界海なり。身下入法界海なるのみにあらず。さらに世界國土を吐却七八箇し。吞却兩三箇せんことも。またかくのことし。いま四大五大六大諸大無量大。おなしく出なり。没なる神通なり。吞なり吐なる神通なり。いまの大地虚空の面なる吞却なり。吐却なり。芥に轉せらるるを力量とせり。毛にかかれるを力量とせり。識知のおよはさるより同生して。識知のおよはさるを住持し。識知のおよはさるに實歸す。まことに短長にかかはれざる佛神通の變相ひとへに測量を擧して擬するのみならん

さるか
福本
なる
るなり
作る

や。
むかし五通仙人。ほとけに事奉せしとき。仙人とふ佛有六通。我有五通。如何是那一通。ほとけときに仙人を召していふ。五通仙人。仙人應諾す。佛言。那一通爾問我。○この因縁よくよく參究すへし。仙人いかてか佛有六通とする。佛有無量神通智慧なり。たた六通のみにあらず。たとひ六通のみをみるといふとも。六通もきはむへきにあらず。いはんやその餘の神通におきていかてかゆめにもみん。しはらくとふ。仙人たとひ釋迦老子をみるといふとも。見佛すやいまたしやといふへし。たとひ見佛すといふとも。釋迦老子をみるやいまたしや。たとひ釋迦老子をみることをえ。たとひ見佛すといふとも。五通仙人をみるやいまたしやと問著すへきなり。この問處に用葛藤を學すへし。葛藤斷を學すへし。いはんや佛有六通。しはらく隣珍を算數するにおよはざるか。いま釋迦老子道の那一通爾問我のころいかん。仙人に那一通ありといはず。仙人になしといはず。那一通の

通塞はたとひとくとも。仙人いかてか那一通を通せん。いかんとなれば。仙人に五通あれと。佛有六通のなかの五通にあらず。仙人通はたとひ佛通の所通に通破となるとも。仙通いかてか佛通を通ずることえん。もし仙人佛の一通をも通することあらは。この通より佛を通すへきなり。仙人をみるに佛通に相似せるあり。佛儀をみるに。仙通に相似せることあるは。佛儀なりといへとも。佛神通にあらすとしるへきなり。通せされは。五通みな佛とおなしからざるなり。たちまちに那一通をとふ。なにの用かあるとなり。釋迦老子のころは。一通をもとふへしとなり。那一通をとひ。那一通をとふへし。一通も仙人はおよふところなしとなり。しかあれは佛神通と餘者通とは。神通の名字おなしといへとも。神通の名字はるかに殊異なり。ここをもて

臨濟院慧照大師云。古人云。如來舉身相。爲順世間情。恐人生斷見。權且無虛名。假言三十二八十也。空聲有身非覺體。無相乃眞形。彌道佛有六

清本莫
下是字
無し
福本
下絲
有本
通本
字無
字無

通是不可思議一切諸天神仙阿修羅大力鬼亦有神通應是佛否道流
莫錯祇如阿修羅與天帝釋戰戰敗領八萬四千眷屬入藕孔中藏莫是
聖否如山僧所舉皆是業通依通夫如佛六通者不然入色界不被色惑
入聲界不被聲惑入香界不被香惑入味界不被味惑入觸界不被觸惑
入法界不被法惑所以達六種色聲香味觸法皆是空相不能繫縛此無
依道人雖是五蘊漏質便是地行神通道流眞佛無形眞法無相備祇麼
幻化上頭作模作樣設求得者皆是野狐精魅竝不是眞佛是外道見解
○しかあれは諸佛の六神通は一切諸天鬼神およひ二乗等のおよ
ふへきにあらずはかるへきにあらざるなり佛道の六通は佛道の
佛弟子のみ單傳せり餘人の相傳せざるところなり佛六通は佛道
に單傳す單傳せざるは佛六通をしるへからざるなり佛六通を單
傳せざらんは佛道人なるへからずと參學すへし
百丈大智禪師云眼耳鼻舌各各不貪染一切有無諸法是名受持四句
偈亦名四果六入無迹亦名六神通祇如今但不被一切有無諸法礙亦

一本無
字無し

無不依住知解是名神通不守此神通是名無神通如云無神通菩薩蹤
跡不可得尋是佛向上人最不可思議人是自己天○いま佛佛祖相
傳せる神通かくのとし諸佛神通は佛向上人なり最不可思議人
なり是自己天なり無神通菩薩なり知解不依住なり神通不守此な
り一切諸法不被礙なりいま佛道に六神通あり諸佛の傳持しきた
れることひさし一佛も傳持せざるなし傳持せされは諸佛にあ
らずその六神通は六入を無迹にあきらむるなり無迹といふは古人
のいはく六般神用空不空一顆圓光非内外非内外は無迹なるへし
無迹に修行し參學し證入するに六入を動著せざるなり動著せず
といふは動著するもの三十棒分あるなりしかあれはすなはち六
神通かくのこたく參究すへきなり佛家の嫡嗣にあらざらんたれ
かこのことほりあるへしともきかんいたつらに内外の馳走を歸
家の行履とあやまれるのみなりまた四果は佛道の調度なりとい
へとも正傳せる三藏なし算沙のやから跣跡のたくひいかてかこ

福本はあ
せんにあ
せんにあ
らんにあ
るにあら

の果實をうることあらん。得小爲足の類。いまた參究の達せるにあらず。たたまさに佛佛相承せるのみなり。いはゆる四果は受持四句偈なり。受持四句偈といふは一切有無諸法におきて眼耳鼻舌各不貪染なるなり。不貪染は不染汗なり。不染汗といふは平常心なり。吾常於此切なり。六通四果を佛道に正傳せる。かくのことし。これと相違あらんは佛法にあらざらん。としるべきなり。しかあれは佛道はかならず神通より達するなり。その達する。涓滴の巨海を吞吐する。微塵の高嶽を拈放する。たれか疑著することをえん。これすなはち神通なるのみなり。

正法眼藏神通

爾時仁治二年辛丑十一月十六日在於觀音導利興聖塞林寺示衆

正法眼藏大悟

佛佛の大道。つたはれて綿密なり。祖祖の功業。あらはれて平展なり。このゆゑに大悟現成し。不悟至道し。省悟弄悟し。失悟放行す。これ佛祖家常なり。擧拈する使得十二時あり。拋却する被使十二時あり。さらにもこの關楯子を跳出する弄泥團もあり。弄精魂もあり。大悟より佛祖かならず恁麼現成する參學を究竟すといへとも。大悟の渾悟を佛祖とせるにはあらず。佛祖の渾佛祖を渾大悟なりとにはあらず。さるなり。佛祖は大悟の邊際を跳出し。大悟は佛祖より向上に跳出する。面目なり。しかあるに人根に多般あり。いはく生知。これは生して生を透脱するなり。いはゆるは生の初中後際に體究なり。いはく學而知。これは學して自己を究竟す。いはゆるは學の皮肉骨髓を體究するなり。いはく佛知者あり。これは生知にあらず。學知にあらず。自佗の際を超越して。遮裏に無端なり。自佗知に無拘なり。いはく無師知者あり。善知識によらず。經卷によらず。性によらず。相によらず。

福本無ゆ
か

是福本
足に作

自を撥轉せず。佗を回互せされとも。露堂堂なり。これらの數般。ひとつを利と認し。ふたつを鈍と認せざるなり。多般ともに多般の功業を現成するなり。しかあれはいつれの情無情か。生知にあらざらんと參學すへし。生知あれは生悟あり。生證明あり。生修行あり。しかあれは佛祖すてに調御丈夫なる。これを生悟と稱しきたれり。悟を拈來せる生なるか。ゆゑにかくのことし。參飽大悟する生悟なるへし。拈悟の學なるゆゑにかくのことし。しかあれはすなはち三界を拈して大悟す。百艸を拈して大悟す。四大を拈して大悟す。佛祖を拈して大悟す。公案を拈して大悟す。みなともに大悟を拈來して。さらに大悟するなり。その正當恁麼時は。而今なり。

臨濟院慧照大師云。大唐國裏。竟一人不悟者難得。いま慧照大師の道取するところ。正脈しきたれる皮肉骨髓なり。不是あるへからず。大唐國裏といふは。自己眼睛裏なり。盡界にかかはれず。塵刹にととまらず。遮裏に不悟者の一人をもとむるに難得なり。自己の昨自己

福本難
得たり
や難得
にあら
ずや無
し句の

福本云
樹異本
枝に作
る

も不悟者にあらず。佗己の今自己も不悟者にあらず。山人水人の古今もとめて不悟を要するに。いまたえさるへし。學人かくのことし。臨濟の道を參學せん。虚度光陰なるへからず。しかもかくのことし。なりといへとも。さらに祖宗の懷業を參學すへし。いはくしはらく臨濟に問すへし。不悟者難得のみをしりて。悟者難得をしらすは。未足爲是なり。不悟者難得をも參究せるといひかたし。たとひ一人の不悟者をもとむるには難得なりとも。半人の不悟者ありて。面目雍容巍巍堂堂なる。相見しきたるや。いまたしや。たとひ大唐國裏に一人の不悟者をもとむるに難得なるを究竟とすることなかれ。一人半人のなかに。兩三箇の大唐國をもとめ。こころみるへし。難得なりや。難得にあらずや。この眼目をそなへんとき。參飽の佛祖なりとゆ

京兆華嚴寺審智大師嗣洞山因僧問。大悟底人却迷時如何。師曰。破鏡不重照。落華難上樹。いまの間處は。問處なりといへとも。示衆のこと

し。華嚴の會にあらざれば開演せず。洞山の嫡子にあらざれば。加被すへからず。まことにこれ參飽佛祖の方席なるへし。いはゆる大悟底人は。もとより大悟なり。にはあらす。餘外に大悟してたくはふるにあらす。大悟は公界におけるを。末上の老年に相見するにあらず。自己より強爲して牽挽出來するにあらざれとも。かならず大悟するなり。不迷なるを大悟とするにあらず。大悟の種艸のためにはしめて迷者とならんと擬すへきにもあらず。大悟人さらに大悟す。大迷人さらに大悟す。大悟人あるか。ことく大悟佛あり。大悟地水火風空あり。大悟露柱燈籠あり。いまは大悟底人と問取するなり。大悟底人却迷時如何の問取まことに問取すへきを問取するなり。華嚴きはす。叢席に慕古す。佛祖の勳業なるへきなり。しはらく功夫すへし。大悟底人の却迷は。不悟底人と一等なるへしや。大悟底人却迷の時節は。大悟を拈來して迷を造作するか。佗那裏より迷を拈來して大悟を蓋覆して却迷するか。また大悟底人は一人にして大悟を

作へりへ
るし福き
に本な

やふらすといへとも。さらに却迷を參するか。また大悟底人の却迷といふは。さらに一枚の大悟を拈來するを却迷とするか。かたかた參究すへきなり。また大悟也。一隻手なり。却迷也。一隻手なるか。いかやうにても大悟底人の却迷ありと。聽取するを參來の究徹なりとするへし。却迷を親曾ならしむる大悟ありとするへきなり。しかあれは認賊爲子を却迷とするにあらず。認子爲賊を却迷とするにあらず。大悟は認賊爲賊なるへし。却迷は認子爲子なり。多處添些子を大悟とす。少處減些子これ却迷なり。しかあれは却迷者を摸著して。把定了に大悟底人に相逢すへし。而今の自己これ却迷なるか。不迷なるか。檢點將來すへし。これを參見佛祖とす。師云。破鏡不重照。落華難上樹。この示衆は。破鏡の正當恁麼時を道取するなり。しかあるを未破鏡の時節に。こころをつかはして。しかも破鏡のことは。參學するは。不是なり。いま華嚴道の破鏡不重照。落華難上樹の宗旨は。大悟底人不重照といひ。大悟底人難上樹といひて。大悟底人さらに

悟るや
福ると
を本と
作ると
にふと

却迷せずと道取すると會取しつへししかあれとも恁麼の參學に
あらず。人のおもふかことくならは。大悟底人家常如何とら問取す
へし。これを答話せん。に有却迷時とらいはん。而今の因縁しかには
あらず。大悟底人却迷時如何と問取するかゆゑに。正當却迷時を未
審するなり。恁麼時節の道取現成は。破鏡不重照なり。落華難上樹な
り。落華のまさしく落華なるときは。百尺の竿頭に昇進するともな
ほ。これ落華なり。破鏡の正常破鏡なるゆゑに。そこはくの活計。見成
すれども。おなしくこれ不重照の照なるへし。破鏡と道取し落華と
道取する宗旨を拈來して。大悟底人却迷時の時節を參取すへきな
り。これは大悟は作佛のことし。却迷は衆生のことし。還作衆生とい
ひ。從本垂迹とらいふかことく學すへきには。あらざるなり。かれは
大覺をやふりて衆生となるかことくいふ。これは大悟やふるると
いはす。大悟うせぬるといはす。迷きたるといはざるなり。かれらに
ひとしむへからず。まことに大悟無端なり。却迷無端なり。大悟を罪

礙する迷あらず。大悟三枚を拈來して。小迷半枚をつくるなり。ここ
をもて雪山の雪山のために大悟するあり。木石は木石をかりて大
悟す。諸佛の大悟は衆生のために大悟す。衆生の大悟は。諸佛の大悟
を大悟す。前後にかかはれざるへし。而今の大悟は。自己にあらず。他
己にあらず。きたるにあらされとも。填溝塞壑なり。ざるにあらされ
とも。切忌隨佗覓なり。なにとしてか恁麼なる。いはゆる隨佗去なり。
京兆米胡和尚令僧問仰山。今時人還假悟否。仰山云。悟即不無。爭奈落
第二頭何。僧廻舉似米胡。胡深負之。いはくの今時は。人人の而今な
り。今我念過去未來現在。いく千萬なりとも。今時なり。而今なり。人の
分上はかならず。今時なり。あるひは眼睛を今時とせるあり。あるひ
は鼻孔を今時とせるあり。還假悟否。この道をしつかに參究して。胸
襟にも換却すへし。頂顛にも換却すへし。近日大宋國禿子等。いはく。
悟道是本期。かくのことくいひていたつらに待悟す。しかあれとも
佛祖の光明にてらされざるかことし。たた眞善知識に參取すへき

るら一な に本か 作なら	作ふ一い るや本ひ にいや
--------------------	---------------------

を懶慳にして蹉過するなり。古佛の出世にも度脱せさりぬへし。いまの還假悟否の道取に。さとりなしといはすありといはすきたるといはず。かるやいなやといふ。今時人のさとりはいかにしてさられるそと道取せんか。ことし。たとへはさとりをうといははひころはなかりつるかとおほゆ。さとりきたれりといははひころはさとりいつれのところにありけるそとおほゆ。さとりとなれりといはは。さとりはしめありとおほゆ。かくのことくいはす。かくのことくならずといへとも。さとのありやうをいふときに。さとりをかるやといふなり。しかあるをさとりといふは第二頭えおつるをいかんか。すへきといひつれば第二頭もさとりなりといふなり。第二頭といふは。さとりになりぬるといひや。さとりをうといひや。さとりきたれりといはんか。ことし。なりぬといふも。きたれりといふも。さとりなりといふなり。しかあれば第二頭におつることをいたみなから。第二頭をなからしむるか。ことし。さとのなれらん第

二頭は。またまことの第二頭なりともおほゆ。しかあればたとひ第二頭なりとも。たとひ百千頭なりとも。さとりなるへし。第二頭あれば。これよりかみに第一頭のあるをのこせるにはあらぬなり。たとへは昨日のわれをわれとすれとも。昨日はけふを第二人といはんか。ことし。而今のさとり昨日にあらすといはず。いまはしめたるにあらす。かくのことく。参取するなり。しかあれば大悟頭黒なり。大悟頭白なり。

正法眼藏大悟

爾時仁治三年壬寅春正月二十八日住觀音導利院興聖審林寺示衆

而今寛元二年甲辰春正月二十七日駐錫越宇吉峰古寺而書示於人天大衆

同二年甲辰春三月二十日侍越宇吉峰精舍堂奥次書寫之

懷矣

正法眼藏坐禪箴

藥山弘道大師坐次。有僧問。兀兀地思量什麼。師云。思量箇不思量底。僧曰。不思量底如何思量。師云。非思量。大師の道かくのことくなるを證して。兀坐を參學すへし。兀坐正傳すへし。兀坐の佛道につたはれる參究なり。兀兀地の思量ひとりにあらずといへとも。藥山の道は其一なり。いはゆる思量箇不思量底なり。思量の皮肉骨髓なるあり。不思量の皮肉骨髓なるあり。僧のいふ。不思量底如何思量。まことに不思量底たとひふるくとも。さらにこれ如何思量なり。兀兀地に思量なからんや。兀兀地の向上なによりてか通せざる。賤近の愚にあらずは。兀兀地を問著する力量あるへし。思量あるへし。大師いはく。非思量。いはゆる非思量を使用すること玲瓏なりといへとも。不思量底を思量するには。かならず非思量をもちゐるなり。非思量にたれあり。たれわれを保任す。兀兀地たとひ我なりとも。思量のみにあらず。兀兀地を擧頭するなり。兀兀地たとひ兀兀地なりとも。兀兀

地いかてか兀兀地を思量せん。しかあればすなはち兀兀地は佛量にあらず。法量にあらず。悟量にあらず。會量にあらず。なり。藥山かくのことく單傳すること。すてに釋迦牟尼佛より直下三十六代なり。藥山より向上をたつぬるに。三十六代に釋迦牟尼佛あり。かくのことく正傳せる。すてに思量箇不思量底あり。しかあるに近年おろかなる杜撰いはく。功夫坐禪得胸襟無事了。便是平穩地也。この見解なほ小乗の學者におよはず。人天乘よりも劣なり。いかてか學佛法の漢といはん。見在大宋國に。恁麼の功夫人おほし。祖道の荒蕪かなしむへし。又一類の漢あり。坐禪辨道は。これ初心晩學の要機なり。かならずしも佛祖の行履にあらず。行亦禪坐亦禪。語默動靜體安然なり。たたいまの功夫のみにかかはることなかれ。臨濟の餘流と稱するともから。おほくこの見解なり。佛法の正命つたはれることおろそかなるによりて。恁麼道するなり。なにかこれ初心。いつれか初心にあらず。初心いつれのところにかおく。しるへし。學道のさたま

清本
下を有

れる参究には坐禪辨道するなり。その榜様の宗旨は作佛をもとめ
 ざる行佛あり。行佛さらに作佛にあらざるかゆゑに公案見成なり。
 身佛さらに作佛にあらず。羅籠打破すれば坐佛さらに作佛をさへ
 ず。正當恁麼のとき千古萬古ともにもとより佛にいり魔にいるち
 からあり。進歩退歩したしく溝にみち壑にみつ量あるなり。
 江西大寂禪師。ちなみに南嶽大慧禪師に參學するに。密受心印より
 このかたつねに坐禪す。南嶽あるとき大寂のところによきてとふ。
 大德坐禪圖箇什麼。この問。しつかに功夫參究すへし。そのゆゑは。
 坐禪より向上にあるへき圖のあるか。坐禪より格外に圖すへき道
 のいまたしきか。すへて圖すへからざるか。當時坐禪せるにいかな
 る圖か現成すると問著するか。審細に功夫すへし。彫龍を愛するよ
 り。すすみて眞龍を愛すへし。彫龍眞龍ともに雲雨の能あること。學
 習すへし。遠を貴することなかれ。遠を賤することなかれ。遠に慣熟
 なるへし。近を賤することなかれ。近を貴することなかれ。近に慣熟

なるへし。目をかろくすることなかれ。目をおもくすることなかれ。
 耳をおもくすることなかれ。耳をかろくすることなかれ。耳目をして
 聰明ならしむへし。江西いはく。圖作佛。この道あきらめ達すへし。作
 佛と道取するはいかにあるへきそ。佛に作佛せらるるを作佛と道
 取するか。佛を作佛するを作佛と道取するか。佛の一面出兩面出す
 るを作佛と道取するか。圖作佛は脱落にして。脱落なる圖作佛か。作
 佛たとひ萬般なりとも。この圖に葛藤してもてゆくを圖作佛と道取
 するか。しるへし。大寂の道は坐禪かならず。圖作佛なり。坐禪かなら
 ず。作佛の圖なり。圖は作佛より前なるへし。作佛より後なるへし。作
 佛の正當恁麼時なるへし。且問すらくは。この一圖いくそはく。の作
 佛を葛藤すとかせん。この葛藤さらに葛藤をまつふへし。このとき
 盡作佛の條條なる葛藤かならず。盡作佛の端的なるみなともに條
 條の圖なり。一圖を廻避すへからず。一圖を廻避するときは。喪身失
 命するなり。喪身失命するとき。一圖の葛藤なり。南嶽ときに一博を

とりて石上にあててとく。大寂つひにとふにいはく。師作什麼まこと
にたれかこれを磨埽とみさらん。たれかこれを磨埽とみん。しか
あれとも磨埽はかくのことく作什麼と問せられきたるなり。作什
麼なるは。かならず磨埽なり。此土佗界ことなりといへとも。磨埽い
またやまさる宗旨あるへし。自己の所見を自己の所見と決定せさ
るのみにあらず。萬般の作業に參學すへき宗旨あることを一定す
るなり。しるへし佛をみるに佛をしらず會せざるかことく。水をみる
をもしらず。山をみるをもしらざるなり。眼前の法さらに通路ある
へからすと倉卒なるは。佛學にあらざるなり。南嶽いはく。磨作鏡。こ
の道旨あきらむへし。磨作鏡は道理かならずあり。見成の公案あり。
虚設なるへからず。埽はたとひ埽なりとも。鏡はたとひ鏡なりとも。
磨の道理を力究するに許多の榜様あることをしるへし。古鏡も明
鏡も。磨埽より作鏡をうるなるへし。もし諸鏡は磨埽よりきたると
しらされは。佛祖の道得なし。佛祖の開口なし。佛祖の出氣を見聞せ

す。大寂いはく。磨埽豈得成鏡耶。まことに磨埽の鐵漢なる佗の力量
をからされとも。磨埽は成鏡にあらず。成鏡たとひ埽なりとも。すみ
やかなるへし。南嶽いはく。坐禪豈得作佛耶。あきらかにしりぬ坐禪
の作佛をまつにあらざる道理あり。作佛の坐禪にかかはれざる宗
旨かくれず。大寂いはく。如何即是。いまの道取ひとすちに者頭の問
著に相似せりといへとも。那頭の即是をも問著するなり。たとへは
親友の親友に相見する時節をしるへし。われに親友なるはかれに
親友なり。如何即是。すなはち一時の出現なり。南嶽いはく。如人駕車。
車若不行。打車即是。打牛即是。しはらく車若不行といふは。いかなら
んかこれ車行。いかならんかこれ車不行。たとへは。水流は車行なる
か。水不流は車行なるか。流は水の不行といふつへし。水の行は流に
あらざるもあるへきなり。しかあれは車若不行の道を參究せんに
は。不行ありとも。參すへし。不行なしとも。參すへし。時なるへきかゆ
系に。若不行の道。ひとへに不行と道取せるにあらず。打車即是。打牛

即是といふ。打車もあり打牛もあるへきか。打車と打牛と。ひとしかるへきか。ひとしからざるへきか。世間に打車の法なし。凡夫に打車の法なくとも。佛道に打車の法あることをしりぬ。參學の眼目なり。たとひ打車の法あることを學すとも。打牛と一等なるへからず。審細に功夫すへし。打牛の法たとひよのつねにありとも。佛道の打牛は。さらにたつね參學すへし。水牯牛を打牛するか。鐵牛を打牛するか。泥牛を打牛するか。鞭打なるへきか。盡界打なるへきか。盡心打なるへきか。打併髓なるへきか。拳頭打なるへきか。拳打拳あるへし。牛打牛あるへし。天寂無對なる。いたつらに蹉過すへからず。拋擲引玉あり。回頭換面あり。この無對。さらに攙奪すへからず。南嶽またしめして。いはく。汝學坐禪爲學坐佛。この道取を參究して。まさに祖宗の要機を辨取すへし。いはゆる學坐禪の端的。いかなりとしらざるに。學坐佛としりぬ。正嫡の兒孫にあらずよりは。いかてか學坐禪の學坐佛なると道取せん。まことにしるへし。初心の坐禪は。最初の坐禪

こと
一本
とこ
に
作
る

なり。最初の坐禪は。最初の坐佛なり。坐禪を道取するに。いはく。若學坐禪。禪非坐臥。いまいふところは。坐禪は坐禪なり。坐臥にあらず。坐臥にあらずと單傳するより。このかた。無限の坐臥は。自己なり。なんぞ親疎の命脈をたつねん。いかてか迷悟を論せん。たれか智斷をもとめん。南嶽いはく。若學坐佛。佛非定相。いはゆる道取を道取せんに。は。恁麼なり。坐佛の一佛二佛のことくなるは。非定相を莊嚴とせるによりてなり。いま佛非定相と道取するは。佛相を道取するなり。非定相佛なるかゆゑに。坐佛さらに迴避しかたきなり。しかあれば。すなはち佛非定相の莊嚴なるゆゑに。若學坐禪。すなはち坐佛なり。たれか無住法におきて。ほとけにあらずと取捨し。ほとけなりと取捨せん。取捨さきより脱落せるによりて。坐佛なるなり。南嶽いはく。汝若坐佛。即是殺佛。いはゆるさらに坐佛を參究するに。殺佛の功德あり。坐佛の正當恁麼時は。殺佛なり。殺佛の相好光明は。たつねんとするに。かならず坐佛なるへし。殺の言。たとひ凡夫のこと。くにひとし

くとも。ひとへに凡夫と同すへからず。また坐佛の殺佛なるは。有什麼形段と參究すへし。佛功德すてに殺佛あるを拈擧して。われらか殺人未殺人をも參學すへし。若執坐相。非達其理。いはゆる執坐相とは。坐相を捨し坐相を觸するなり。この道理は。すてに坐佛するには。不執坐相なることえさるなり。不執坐相なることえさるかゆゑに。執坐相はたとひ玲瓏なりとも。非達其理なるへし。恁麼の功夫を。脱落身心といふ。いまたかつて坐せさるものに。この道のあるにあらず。打坐時にあり。打坐人にあり。打坐佛にあり。學坐佛にあり。たた人の坐臥する坐のこの打坐佛なるにあらず。人坐のおのつから坐佛佛坐に相似なりといへとも。人作佛あり。作佛人あるかことし。作佛人ありといへとも。一切人は作佛にあらず。ほとけは一切人にあらず。一切佛は一切人のみにあらず。かゆゑに。人かならず佛にあらず。佛かならず人にあらず。坐佛もかくのことし。南嶽江西の師勝資強かくのことし。坐佛の作佛を證する。江西これなり。作佛のため

坐佛をしめす。南嶽これなり。南嶽の會に恁麼の功夫あり。藥山の會に向來の道取あり。しるへし。佛佛祖祖の要機とせるは。これ坐佛なりといふことを。すてに佛佛祖祖とあるはこの要機を使用せり。いまたしきは。夢也未見在なるのみなり。おほよそ西天東地に。佛法つたはるるといふは。かならず坐佛のつたはるるなり。それ要機なるによりてなり。佛法つたはれさるには。坐禪つたはれず。嫡嫡相承せるは。この坐禪の宗旨のみなり。この宗旨。いまた單傳せさるは。佛祖にあらざるなり。この一法あきらめされは。萬法あきらめさるなり。萬行あきらめさるなり。法法あきらめざらんは。明眼といふへからず。得道にあらず。いかてか佛祖の今古ならん。ここをもて佛祖かならず坐禪を單傳すると一定すへし。佛祖の光明に照臨せらるるといふは。この坐禪を功夫參究するなり。おろかなるともからは。佛光明をあやまりて。日月の光明のことく。珠火の光耀のことく。あらんするとおもふ。日月光耀は。わつかに六道輪廻の業相なり。さらに佛

光明に比すへからず。佛光明といふは一句を受持聽聞し。一法を保任護持し。坐禪を單傳するなり。光明にてらさるるにおよはされはこの保任なし。この信受なきなり。しかあれはすなはち古來なりといへとも。坐禪を坐禪なりとしれるすくなし。いま現在大宋國の諸山に甲刹の主人とあるもの。坐禪をしらす學せさるおほし。あきらめしれるありといへとも。すくなし。諸寺にもとより坐禪の時節さたまれり。住持より諸僧ともに坐禪するを本分の事とせり。學者を勸誘するにも坐禪をすすむ。しかあれともしれる住持人はまれなり。このゆゑに古來より近代にいたるまで。坐禪銘を記せる老宿一兩位あり。坐禪儀を撰せる老宿一兩位あり。坐禪箴を記せる老宿一兩位あるなかに。坐禪銘ともにとるべきところなし。坐禪儀いまたその行履にくらし。坐禪をしらす。坐禪を單傳せさるともからの記せるところなり。景德傳燈錄にある。坐禪箴。およひ嘉泰普燈錄にあるところの坐禪銘等なり。あはれむへし。十方の叢林に經歷して一

生をすこすといへとも。一坐の功夫あらさることを。打坐すてになんちにあらず。功夫さらにおのれと相見せさることを。これ坐禪のおのか身心をきらふにあらず。眞箇の功夫をこころささす。倉卒に迷醉せるによりてなり。かれらか所集は。たた還源返本の様子なり。いたつらに息慮凝寂の經營なり。觀練薰修の階級におよはす。十地等覺の見解におよはす。いかてか佛佛祖祖の坐禪を單傳せん。宋朝の録者あやまりて録せるなり。晚學すててみるへからず。坐禪箴は。大宋國慶元府大白名山天童景德寺宏智禪師正覺和尚の撰せるのみ。佛祖なり。坐禪箴なり。道得是なり。ひとり法界の表裏に光明なり。古今の佛祖に佛祖なり。前佛後佛。この箴に箴せられもてゆき。今祖古祖。この箴より現成するなり。かの坐禪箴はすなはちこれなり。

坐禪箴 敕諡宏智禪師正覺撰

佛佛要機。祖祖機要。不觸事而知。不對緣而照。不觸事而知。其知自微。不對緣而照。其照自妙。其知自微。曾無分別之思。其照自妙。曾無毫忽之兆。

會無分別之思。其知無偶而奇。會無毫忽之兆。其照無取而了。水清徹底兮。魚行遲遲。空闊莫涯兮。鳥飛杳杳。いはゆる坐禪箴の箴は。大用現前なり。聲色向上の威儀なり。父母未生前の節目なり。莫謗佛祖好なり。未免喪身失命なり。頭長三尺頸短二寸なり。佛佛要機。佛佛はかならず佛佛を要機とせる。その要機現成せり。これ坐禪なり。祖祖機要。先師無此語なり。この道理これ祖祖なり。法傳衣傳あり。おほよそ回頭換面の面。これ佛佛の要機なり。換而回頭の頭頭。これ祖祖の機要なり。不觸事而知。知は覺知にあらず。覺知は小量なり。了知の知にあらず。了知は造作なり。かるかゆゑに知は不觸事なり。不觸事は知なり。遍知と度量すへからず。自知と局量すへからず。その不觸事といふは。明頭來明頭打。暗頭來暗頭打なり。坐破娘生皮なり。不對縁而照。この照は照了の照にあらず。靈照にあらず。不對縁を照とす。照の縁と化せざるなり。縁これ照なるかゆゑに。不對といふは。遍界不會藏なり。破界不出頭なり。微なり。妙なり。回互不同互なり。其知自微。會

無分別之思。思の知なる。かならずしも他力をからず。其知は形なり。形は山河なり。この山河は微なり。この微は妙なり。使用するに活鱗鱗なり。龍を作するに禹門の内外にかかはれず。いまの一知わつかに使用するは。盡界山河を拈來し盡力して知するなり。山河の親切にわか知なくは。一知半解あるへからず。分別思量のおそく來到するとなけくへからず。已會分別なる佛佛。すでに現成してきたれり。會無は已會なり。已會は現成なり。しかあれはすなはち會無分別は。不逢一人なり。其照自妙。會無毫忽之兆。毫忽といふは。盡界なり。しかあるに自妙なり。自照なり。このゆゑに。いままた將來せざるかことし。目をあやしむことなかれ。耳を信すへからず。直須旨外明宗。莫向言中取則なるは。照なり。このゆゑに無偶なり。このゆゑに無取なり。これを奇なりと住持しきたり。了なりと保任しきたるに。我却疑著なり。水清徹底兮。魚行遲遲。水清といふは。空にかかれる水は。清水に不徹底なり。いはんや器界に泓澄する。水清の水にあらず。邊際に涯岸な

き。これを徹底の清水とす。魚もしこの水をゆくは行なきにあらず。行はいく萬程となくすすむといへとも。不測なり。不窮なり。はかる岸なし。うかぶ空なし。しつむそこなきかゆるに。測度するたれなし。測度を論せんとすれば。徹底の清水のみなり。坐禪の功德。かの魚行のことし。千程萬程。たれか卜度せん。徹底の行程は。舉體の不行鳥道なり。空闊莫涯。兮鳥飛杳杳。空闊といふは。天にかかれるにあらず。天にかかれる空は。闊空にあらず。いはんや。彼此に普遍なるは。闊空にあらず。隠顯に表裏なき。これを闊空といふ。鳥もしこの空をとふは。飛空の一法なり。飛空の行履は。かるへきにあらず。飛空は。盡界なり。盡界飛空なるかゆるに。この飛いくそは。くといふことし。らすといへとも。卜度のほかの道取を。道取するに。杳杳と道取するなり。直須足下無絲去なり。空の飛去するとき。鳥も飛去するなり。鳥の飛去するに。空も飛去するなり。飛去を。參究する道取に。いはく。只在者裏なり。これ兀兀地の箴なり。いく萬程か。只在者裏を。きはひいふ。宏智禪

師の坐禪箴か。このことし。諸代の老宿のなかに。いままた。いまのこと。この坐禪箴。まらす。諸方の臭皮袋。もしこの坐禪箴のこと。く道取せしめん。に。一生二生の。ちからをつくすとも。道取せん。ことうへからさるなり。いま諸方に。みえず。ひとりこの箴のみあるなり。先師上堂のとき。よのつねに。いはく。宏智古佛なり。自餘の漢を。恁麼いふこと。すへて。なかりき。知人の眼目。あらんとき。佛祖をも。知音すへきなり。まことに。しりぬ。洞山に。佛祖あることを。いま宏智禪師よりの。ち。八十餘年なり。かの坐禪箴を。みて。この坐禪箴を。撰す。いま仁治三年壬寅三月十八日なり。今年より。紹興二十七年十月八日に。いたるまで。前後を。算數するに。わつかに。八十五年なり。いま撰する坐禪箴。これなり。

坐禪箴

佛佛要機。祖祖機要。不思量而現。不互而成。不思量而現。其現自親。不互而成。其成自證。其現自親。曾無染汗。其成自證。曾無正偏。曾無染汗。

之親其親無委而脫落。曾無正偏之證。其證無圖而功夫。水清徹地兮魚行似魚。空闊透天兮鳥飛如鳥。宏智禪師の坐禪箴。それ道未是にあらざれとも。さらにかくのことく道取すへきなり。おほよそ佛祖の兒孫。かならず坐禪を一大事なりと參學すへし。これ單傳の正印なり。

正法眼藏坐禪箴

仁治三年壬寅三月十八日記興聖審林寺

同四年癸卯冬十一月在越州吉田縣吉峰精舍示衆

正法眼藏佛向上事

高祖筠州洞山悟本大師は。潭州雲巖山無住大師の親嫡嗣なり。如來より三十八位の祖向上なり。自己より向上三十八位の祖なり。大師有時示衆云。體得佛向上事。方有些子語話分。僧便問。如何是語話。大師云。語話時。閑黎不聞。僧曰。和尚還聞否。大師云。待我不語話時。即聞。いまいふところの佛向上事の道。大師その本祖なり。自餘の佛祖は。大師の道を參學しきたり。佛向上事を體得するなり。まさにしてしるへし。佛向上事は。在因にあらず。果滿にあらず。しかあれとも。語話時の不聞を體得し。參徹することあるなり。佛向上にいたらされは。佛向上を體得することなし。語話にあらされは。佛向上事を體得せず。相顯にあらす。相隱にあらす。相與にあらす。相奪にあらす。このゆゑに。語話現成のとき。これ佛向上事なり。佛向上事現成のとき。閑黎不聞なり。閑黎不聞といふは。佛向上事自不聞なり。すでに語話時。閑黎不聞なり。しるへし。語話それ聞に染汗せず。不聞に染汗せず。このゆゑに

清本す
字無し

問清本
る

聞不聞に不相干なり。不聞裏藏閑黎なり。語話裏藏閑黎なりとも。逢人不逢人。恁麼不恁麼なり。閑黎語話時。すなはち閑黎不聞なり。その不聞たらくの宗旨は。舌骨に罣礙せられて不聞なり。耳裏に罣礙せられて不聞なり。眼睛に照穿せられて不聞なり。身心に塞却せられて不聞なり。しかあるゆゑに不聞なり。これらを拈してさらに語話とすへからず。不聞すなはち語話なるにあらず。語話時不聞なるのみなり。高祖道の語話時閑黎不聞は。語話の道頭道尾は。如藤倚藤なりとも。語話經語話なるへし。語話に罣礙せらる。僧いはく。和尚還聞否。いはゆるは和尚を舉して聞語話と擬するにあらず。舉問さらに和尚にあらず。語話にあらず。さるかゆゑに。しかあれともいま僧の擬議するところは。語話時に即聞を參學すへしやいなやの咨參するなり。たとへは語話すなはち語話なりやと聞取せんと擬し。還聞これ還聞なりやと聞取せんと擬するなり。しかもかくのことくいふとも。なんちか舌頭にあらず。洞山高祖道の待我不語話時即聞。あき

らかに參究すへし。いはゆる正當語話のとき。さらに即聞あらず。即聞の現成は。不語話のときなるへし。いたつらに不語話のときをさしおきて。不語話をまつにはあらず。さるなり。即聞のとき語話を傍觀とするにあらず。眞箇に傍觀なるかゆゑに。即聞のとき語話さりて一邊の那裏に存取せるにあらず。語話のとき。即聞したしく語話の眼睛裏に藏身して罣礙するにあらず。しかあれはすなはちたとひ閑黎にても語話時は不聞なり。たとひ我にても不語話時即聞なる。これ方有些子語話分なり。これ體得佛向上事なり。たとへは語話時即聞を體得するなり。このゆゑに待我不語話時即聞なり。しかありといへとも。佛向上事は。七佛已前事にあらず。七佛向上事なり。高祖悟本大師示衆云。須知有佛向上人。時有僧問。如何是佛向上人。大師云。非佛雲門曰。名不得狀不得。所以言非。保福曰。佛非。法眼曰。方便呼爲佛。おほよそ佛祖の向上に佛祖なるは。高祖洞山なり。そのゆゑは。餘外の佛而祖面おほしといへとも。いままた佛向上の道は。夢也未

りぬ
本るに
作るに

清本は
字無し

見なり。徳山臨濟等には爲説すとも承當すへからず。巖頭雪峰等は粉碎其身すとも喫拳すへからず。高祖道の體得佛向上事方有些子語話分。およひ須知有佛向上人等をは。たた一二三四五の三阿僧祇百大劫の修證のみにては證究すへからず。まさに玄路の參學あるものその分ありぬへし。すへからく佛向上人ありとしるへし。いはゆるは弄精魂の活計なり。しかありといへとも古佛を擧してしり。拳頭を擧起してしる。すてに恁麼見得するかときは有佛向上人をしり。無佛向上人をしる。而今の示衆は佛向上人となるへし。とはあらず。佛向上人と相見すへし。とにあらず。たたしはらく佛向上人ありとしるへし。となり。この關楸子を使得するかときは。まさに有佛向上人を不知するなり。無佛向上人を不知するなり。その佛向上人。これ非佛なり。いかならんか非佛と疑著せられんとき。思量すへし。佛より以前なるゆゑに非佛といはす。佛よりのちなるゆゑに非佛といはす。佛をこゆるゆゑに非佛なるにあらず。たたひとへ

に佛向上なるゆゑに非佛なり。その非佛といふは。脱落佛面目なるゆゑにいふ。脱落佛身心なるゆゑにいふ。

東京淨因枯木禪師嗣芙蓉
諱法成示衆云。知有佛祖向上事。方有說話分。諸禪徳。且道。那箇是佛祖向上事。有箇人家兒子。六根不具。七識不全。是大闢提。無佛種性。逢佛殺佛。逢祖殺祖。天堂收不得。地獄攝無門。大衆還識此人麼。良久曰。對而不仙陀。睡多饒寐語。いはゆる六根不具といふは。眼晴被人換却。木椴子了也。鼻孔被人換却。竹筒了也。觸體被人借作屎杓了也。作麼生是換却底道理。このゆゑに六根不具なり。不具六根なるかゆゑに。爐罏裏を透過して金佛となれり。大海裏を透過して泥佛となれり。火焰裏を透過して木佛となれり。七識不全といふは。破木杓なり。殺佛すといへとも逢佛す。逢佛せるゆゑに殺佛す。天堂にいらんと擬すれば。天堂すなはち崩壞す。地獄にむかへは。地獄たちまちに破裂す。このゆゑに對面すれば破顔す。さらに仙陀なし。睡多なるにもなほ寐語おほし。しるへし。この道理は。舉山而地兩知己。玉石

全清本
金に作
る

全身百雜碎なり。枯木禪師の示衆。しつかに參究功夫すへし。卒爾に
することなかれ。

雲居山弘覺大師。參高祖洞山。山問。闍黎名什麼。雲居曰。道膺。高祖又問。
向上更道。雲居曰。向上道。即不名道膺。洞山道。吾在雲巖時。祇對無異也。
いま師資の道。かならず審細にすへし。いはゆる向上不名道膺は。道
膺の向上なり。適來の道膺に。向上の不名道膺あることを參學すへ
し。向上不名道膺の道理。現成するより。このかた。眞箇道膺なり。しか
あれとも。向上にも道膺なるへし。といふことなかれ。たとひ高祖道
の向上更道を。きかんと。き。領話を呈するに。向上更名道膺と道著す
とも。すなはち。向上道なるへし。なにと。して。か。しかいふ。いはく。道膺
たち。まちに。頂巔に。跳入して。藏身するなり。藏身すといへとも。露影
なり。

曹山本寂禪師。參高祖洞山。山問。闍黎名什麼。曹山曰。本寂。高祖云。向上
更道。曹山曰。不道。高祖云。爲甚麼不道。師曰。不名本寂。高祖然之。いは

清本
杖下
并有
上字

く。向上に道なきにあらず。これ不道なり。爲甚麼不道。いはゆる不名
本寂なり。しかあれは。向上の道は。不道なり。向上の不道は。不名なり。
不名の本寂は。向上の道なり。このゆゑに。本寂不名なり。しかあれは
非本寂あり。脱落の不名あり。脱落の本寂あり。

盤山塞積禪師云。向上一路。千聖不傳。いはく。の向上一路は。ひとり
盤山の道なり。向上事といはす。向上人といはす。向上一路といふな
り。その宗旨は。千聖競頭して。出來すといへとも。向上一路は。不傳な
り。不傳といふは。千聖は。不傳の分を保護するなり。かくのことくも
學すへし。さらに。また。いふへきところあり。いはゆる千聖千賢は。な
きに。あらず。たとひ。賢聖なりとも。向上一路は。賢聖の境界にあらず。
智門山光祚禪師。因僧問。如何是佛向上事。師云。拄杖頭上。挑日月。い
はく。拄杖の日月に。罣礙せらるる。これ佛向上事なり。日月の拄杖を
參學するとき。盡乾坤くらし。これ佛向上事なり。日月これ拄杖とに
あらず。拄杖頭上は。全拄杖なり。

清本也
下無字
無し

石頭無際大師の會に。天皇寺の道悟禪師とふ。如何是佛法大意。師云。不得不知。道悟曰。向上更有轉處也無。師云。長空不礙白雲飛。いはく石頭は。曹谿の二世なり。天皇寺の道悟和尚は。藥山の師弟なり。あるときとふ。いかならんか佛法大意。この問は。初心晩學の所堪にあらざるなり。大意をきかは。大意を會取しつへき時節にいふなり。石頭いはく。不得不知。しるへし佛法は。初一念にも大意あり。究竟位にも大意あり。その大意は。不得なり。發心修行取證は。なきにあらず。不得なり。その大意は。不知なり。修證は無にあらず。修證は。有にあらず。不知なり。不得なり。またその大意は。不得不知なり。聖諦修證なきにあらず。不得不知なり。聖諦修證あるにあらず。不得不知なり。道悟いはく。向上更有轉處也無。いはゆるは。轉處もし現成することあらは。向上現成す。轉處といふは。方便なり。方便といふは。諸佛なり。諸祖なり。これを道取するに。更有なるへし。たとひ更有なりとも。更無をもらすへきにあらず。道取あるへし。長空不礙白雲飛は。石頭の道なり。長

清本也
下無字
無し

空さらに長空を不礙なり。長空これ長空飛を不礙なりといへとも。さらに白雲みつから。白雲を不礙なり。白雲飛不礙なり。白雲飛さらに長空飛を礙せず。佗に不礙なるは。自にも不礙なり。而面の不礙を要するには。あらず。各各の不礙を存するにあらず。このゆゑに。不礙なり。長空不礙白雲飛の性相を擧括するなり。正當恁麼時。この參學眼を揚眉して。佛來をも覩見し。祖來をも相見す。自來をも相見し。佗來をも相見す。これを問一答十の道理とせり。いまいふ問一答十は。問一もその人なるへし。答十もその人なるへし。

黄檗云。夫出家人。須知有從上來事分。且如四祖下。牛頭法融大師。橫説豎説。猶未知。向上關。楸子。有此眼。腦。方辨得。邪正宗黨。黄檗恁麼道の從上來事は。從上佛佛祖祖正傳しきたる事なり。これを正法眼藏涅槃妙心といふ。自己にありといふとも。須知なるへし。自己にありといへとも。猶未知なり。佛佛正傳せざるは。夢也未見なり。黄檗は百丈の法子として。百丈よりもすくれ。馬祖の法孫として。馬祖よりもす

くれたり。おほよそ祖宗三四世のあひた。黄檗に齊肩なるなし。ひとり黄檗のみありて。牛頭の兩角なきことをあきらめたり。自餘の佛祖いまたしらざるなり。牛頭山の法融禪師は。四祖下の尊宿なり。横説堅説。まことに經師論師に比するには。西天東地のあひた。不爲不足なりといへとも。うらむらくはいまた向上の關楨子をしらす。向上の關楨子を道取せざることをもし。従上來の關楨子をしらす。さんはいかてか佛法の邪正を辨會することあらん。たたこれ學言語の漢なるのみなり。しかあれば向上の關楨子をしること。向上の關楨子を修行すること。向上の關楨子を證すること。庸流のおよふところにあらざるなり。眞箇の功夫あるところには。かならず現成するなり。いはゆる佛向上事といふは。佛にいたりて。すすみてさらに佛をみるなり。衆生の佛をみるにおなしきなり。しかあれば。すなはち見佛もし。衆生の見佛とひとしきは。見佛にあらず。見佛もし。衆生の見佛のことくなるは。見佛錯なり。いはんや佛向上事ならんや。し

るへし。黄檗道の向上事は。いまの杜撰のともから。領覽におよはざらん。たたまさに法道もし。法融におよはざるあり。法道おのつから。法融にひとしきありとも。法融に法兄弟なるへし。いかてか向上の關楨子をしらん。自餘の十聖三賢等。いかにも向上の關楨子をしらするなり。いはんや。向上の關楨子を開閉せんや。この宗旨は。參學の眼目なり。もし向上の關楨子をしるを。佛向上人とするなり。佛向上事を體得せるなり。

正法眼藏佛向上事

爾時仁治三年壬寅三月二十三日在觀音導利興聖窰林寺示衆

正法眼藏恚麼

雲居山弘覺大師は洞山の嫡子なり。釋迦牟尼佛より第三十九世の法孫なり。洞山宗の嫡祖なり。一日示衆云。欲得恚麼事。須是恚麼人。既
是恚麼人。何愁恚麼事。いはゆるは恚麼事をえんとおもふは。すへ
からくこれ恚麼人なるへし。すてにこれ恚麼人なり。なんそ恚麼事
をうれへん。この宗旨は直趣無上菩提。しはらくこれを恚麼といふ。
この無上菩提の體たらくは。すなはち盡十方界も無上菩提の少許
なり。さらに菩提の盡界よりもあまるへし。われらもかの盡十方界
のなかにあらゆる調度なり。なによりてか恚麼あるとしる。いは
ゆる身心ともに盡界にあらはれて。われにあらざるゆゑにしかあ
りとしるなり。身すてにわたくしにあらす。いのちは光陰にうつさ
れてしはらくもとめかたし。紅顏いつくへかさりにしたつねん
とするに蹤跡なし。つらつら觀するところに往事のふたたびあふ
へからざるおほし。赤心もととまらず。片片として往來す。たとひま

ことありといふとも。吾我のほとりにととこほるものにはあらず。
恚麼なるに無端に發心するものあり。この心おこるより。向來もて
あそふところをなけすて。所未聞をきかんとねかひ。所未證を證
せんともとむる。ひとへにわたくしの所爲にあらず。しるへし恚麼
人なるゆゑにしかあるなり。なにもてか恚麼人にてありとしる。
すなはち恚麼事をえんとおもふによりて。恚麼人なりとしるなり。
すてに恚麼人の面目あり。いまの恚麼事をうれふへからず。うれふ
るもこれ恚麼事なるかゆゑにうれへにあらざるなり。また恚麼事
の恚麼あるにもおとろくへからず。たとひおとろきあやしまるる
恚麼ありとも。さらにこれ恚麼なり。おとろくへからすといふ恚麼
あるなり。これた佛量にて量すへからず。心量にて量すへからず。
法界量にて量すへからず。盡界量にて量すへからず。たたまさに既
是恚麼人。何愁恚麼事なるへし。このゆゑに聲色の恚麼は恚麼なる
へし。身心の恚麼は恚麼なるへし。諸佛の恚麼は恚麼なるへきなり。

たとへは因地倒者のときを恁麼なりと恁麼會なるに必因地起の恁麼のとき。因地倒をあやしまさるなり。古昔よりいひきたり。西天よりいひきたり。天上よりいひきたれる道あり。いはゆる若因地倒。還因地起。離地求起。終無其理。いはゆる道は地によりてたふるものは。かならず地によりておく。地によらずしておきんことをもとむるは。さらにうへからすとなり。しかあるを擧拈して大悟をうるはしとし。身心をもぬくる道とせり。このゆゑにもしいかなるか諸佛成道の道理なると問著するにも。地にたふるものの地によりておくるかことしといふ。これを參究して向來をも透脱すへし。未上をも透脱すへし。正當恁麼時をも透脱すへし。大悟不悟却迷失迷。被悟礙被迷礙。ともにこれ地にたふるものの地によりておくる道理なり。これ天上天下の道得なり。西天東地の道得なり。古往今來の道得なり。古佛新佛の道得なり。この道得さらに道未盡あらず。道虧闕あらざるなり。しかあれとも恁麼會のみにしてさらに不恁麼

會なきは。このことはを參究せざるかことし。たとひ古佛の道得は。恁麼つたはれりといふとも。さらに古佛として古佛の道を聞著せんととき。向上の聞著あるへし。いまた西天に道取せず。天上に道取せずといへとも。さらに道著の道理あるなり。いはゆる地によりてたふるもの。もし地によりておきんことをもとむるには。無量劫をふるるもの。もし地にによりておきんことをもとむるには。無量劫をふるるに。さらにおくへからず。まさにひとつの活路よりおくることをうるなり。いはゆる地によりてたふるものは。かならず空によりておき。空によりてたふるものは。かならず地によりておくるなり。もし恁麼あらざらんは。つひにおくることあるへからず。諸佛諸祖。みなかくのこことくありしなり。もし人ありて恁麼とはん。空と地とあひさることいくそはくそ。恁麼問著せんに。かれにむかひて恁麼いふへし。空と地とあひさること十萬八千里なり。若因地倒。必因空起。離空求起。終無其理。若因空倒。必因地起。離地求起。終無其理。もしまたかくのこことく道取せざらんは。佛道の地空の量。いまたし

らざるなり。いまたみざるなり。

第十七代の祖師。僧伽難提尊者。ちなみに伽耶舍多。これ法嗣なり。あるとき殿にかけてある鈴鐸の風にふかれてなるをききて。伽耶舍多にとふ。風のなるとやせん。鈴のなるとやせん。伽耶舍多まふさく。風の鳴にあらず。鈴の鳴にあらず。我心の鳴なり。僧伽難提尊者いはく。心はまたなにそや。伽耶舍多まふさく。ともに寂靜なるかゆゑに。僧伽難提尊者いはく。善哉善哉。わか道をつくへきこと子にあらず。よりはたれそや。つひに正法眼藏を傳付す。これは風の鳴にあらず。るところに。我心鳴を學す。鈴のなるにあらず。さるとき。我心鳴を學す。我心鳴はたとひ恁麼なりといへとも俱寂靜なり。西天より東地につたはれ。古代より今日にいたるまで。この因縁を學道の標準とせるに。あやまるたくひおほし。伽耶舍多の道取する。風のなるにあらず。鈴のなるにあらず。心のなるなりといふは。能聞の恁麼時の正當に念起あり。この念起を心といふ。この心念もしなくは。いかてか鳴

響を緣せん。この念によりて聞を成するによりて。聞の根本といひぬへきによりて。心のなるといふなり。これは邪解なり。正師のちからをえざるによりて。かくのこととしたとへは。依主隣近の論師の釋のことし。かくのことくなるは。佛道の玄學にあらず。しかあるを佛道の嫡嗣に學してきたれるには。無上菩提正法眼藏これを寂靜といひ。無爲といひ。三昧といひ。陀羅尼といふ。道理は一法わつかに寂靜なれば。萬法ともに寂靜なり。風吹寂靜なれば。鈴鳴寂靜なり。このゆゑに俱寂靜といふなり。心鳴は風鳴にあらず。心鳴は鈴鳴にあらず。心鳴は心鳴にあらず。と道取するなり。親切の恁麼なるを究辨せん。よりは。さらにたたいふへし。風鳴なり。鈴鳴なり。吹鳴なり。鳴鳴なり。ともいふへし。何愁恁麼事のゆゑに恁麼あるにあらず。何關恁麼事なるによりて。恁麼なるなり。

第三十三祖大鑑禪師未剃髮のとき。廣州法性寺に宿するに。二僧ありて相論するに。一僧いはく。旛の動するなり。一僧いはく。風の動す

るるに福本作

るなり。かくのことく相論往來して休歇せざるに。六祖いはく。風動にあらす。旛動にあらす。仁者心動なり。二僧ききてすみやかに信受す。この二僧は西天よりきたれりけるなり。しかあれはすなはちこの道著は風も旛も動もともに心にてあると。六祖は逆取するなり。まさにも六祖の道をきくといへとも。六祖の道をしらす。いはんや六祖の道得を道取することをえんや。爲甚麼恁麼道。いはゆる仁者心動の道をききて。すなはち仁者心動といはんとして。仁者心動と道取するは。六祖をみす。六祖をしらす。六祖の法孫にあらざるなり。いま六祖の兒孫として。六祖の道を道取し。六祖の身體髮膚をえて道取するには。恁麼いふへきなり。いはゆる仁者心動は。さもあらはあれ。さらに仁者動といふへし。爲甚麼恁麼道。いはゆる動者動なるかゆゑに。仁者仁者なるによりてなり。既是恁麼人なるかゆゑに。恁麼道なり。六祖のむかしは新州の樵夫なり。山をもきはめ水をもきはむ。たとひ青松の下に功夫して根源を截斷せりとも。なにと

何本は無し

してか明窓のうちに從容して照心の古教ありとしらん。凜雪たれにかならふ。いちにありて經をきく。これみつからまちしところにあらず。佗のすすむるにあらず。いとけなくして父を喪し。長しては母をやしなふ。しらすこのころもにかかれりける。一顆珠の乾坤を照破することを。たちまちに發明せしより。老母をすてて知識をつぬ。人のまれなる儀なり。恩愛のたれかからん。法をおもくして恩をかるくするによりて。棄恩せしなり。これすなはち有智若聞。即能信解の道理なり。いはゆる智は人に學せず。みつからおこすにあらず。智よく智につたはれ。智すなはち智をたつぬるなり。五百の蝙蝠は智おのつから身をつくる。さらに身なし心なし。十千の游魚は。智したしく身にてあるゆゑに。縁にあらす。因にあらすといへとも。聞法すれば即解するなり。來にあらす。入にあらす。たとへば東君の春にあふかことし。智は有念にあらす。智は無念にあらす。智は有心にあらす。智は無心にあらす。いはんや大小にかかはらんや。いは

んや迷悟の論ならんや。いふところは佛法はいかにあることとも
しらす。さきより聞取するにあらされは。したふにあらすねかふに
あらされとも。聞法するに恩をかくし身をわするは。有智の身
心。すてに自己にあらさるかゆゑにしかあらしむるなり。これを即
能信解といふ。しらすいくめぐりの生死にかこの智をもちながら
いたつらなる塵勞にめくる。なほし石の玉をつつめるが。玉も石に
つつまれりともしらす。石も玉をつつめりともしらするかことし。
人これをする。人これをとる。これすなはち玉の期せさるところ。石
のまたさるところ。石の知見によらす。玉の思量にあらさるなり。す
なはち人と智とあひしらすれとも。道かならず智にきかるるかこ
とし。無智疑怪即爲永失といふ道あり。智かならずしも有にあらす。
智かならずしも無にあらされとも。一時の春松なる有あり。秋菊な
る無あり。この無智のとき。三菩提みな疑怪となる。盡諸法みな疑怪
なり。このとき永失即爲なり。所聞すへき道。所證なるへき法。しかし

なから疑怪なり。われにあらす徧界かくるるところなし。たれにあ
らす萬里一條鐵なり。たとひ恁麼して抽枝なりとも。十方佛土中。唯
有一乘法なり。たとひ恁麼して葉落すとも。是法住法位。世間相常住
なり。既是恁麼事なるによりて。有智と無智と。日面と月面となり。恁
麼人なるかゆゑに。六祖も發明せり。つひにすなはち黃梅山に參し
て。大滿禪師を拜するに。行堂に投下せしむ。盡夜に米を碓うこと。おつ
かに八箇月をふるほとに。あるとき夜ふかく更たけて。大滿みつか
らひそかに碓房にいりて。六祖にとふ。米白也。未と。六祖いはく。白也
未。有篩在と。大滿つえにて。臼をうつこと。三下するに。六祖箕にいれ
る米をみたひた。このときを師資の道あひかなふといふ。みつから
もしらす。佗も不會なりといへとも。傳法傳衣。まさしく恁麼。正當
時節なり。

南嶽山無際大師。ちなみに藥山とふ。三乘十二分教某甲粗知。昔聞南
方直指人心。見性成佛。實未明了。伏望和尚慈悲指示。これ藥山の問

なり。薬山は本爲講者なり。三乘十二分教は通利せりけるなり。しか
 あれば佛法さらに味然なきかことし。むかしは別宗いまたおこら
 す。たまた三乘十二分教をあきらむるを。教學の家風とせり。いまの人
 おほく鈍致にして各各の宗旨をたてて。佛法を度量する。佛道の法
 度にあらず。大師いはく。恁麼也不得。不恁麼也不得。恁麼不恁麼總不
 得。汝作麼生。これすなはち大師の薬山のためにする道なり。まこと
 にそれ恁麼不恁麼總不得なるゆゑに。恁麼不得なり。不恁麼不得な
 り。恁麼は恁麼をいふなり。有限の道用にあらず。無限の道用にあら
 ず。恁麼は不得に參學すへし。不得は恁麼に問取すへし。這箇の恁麼
 およひ不得。ひとへに佛量のみにかかはれるにあらざるなり。會不
 得なり。悟不得なり。

福本什
上是字
有り

曹谿山大鑑禪師ちなみに南嶽大慧禪師にしめすにいはく。是什麼
 物恁麼來。この道は。恁麼はこれ不疑なり。不會なるかゆゑに。是什
 麼物なるかゆゑに。萬物まことにならず。什麼物なると參究すへ

し。一物まことにならず。什麼物なると參究すへし。什麼物は疑著
 にはあらざるなり。恁麼來なり。

正法眼藏恁麼

爾時仁治三年壬寅三月二十六日在觀音導利興聖密林寺示衆

此本無
奥書

正法眼藏行持

佛祖の大道かならず無上の行持あり。道環して斷絶せず。發心修行。菩提涅槃しはらくの間隙あらず。行持道環なり。このゆゑに。みつからの強爲にあらず。佗の強爲にあらず。不曾染汗の行持なり。この行持の功德。われを保任し。佗を保任す。その宗旨は。わか行持すなはち十方の市地。漫天みなその功德をかうふる。佗もしらす。われもしらすといへともしかあるなり。このゆゑに。諸佛諸祖の行持によりて。われらか行持見成し。われらか大道通達するなり。われらか行持によりて。諸佛の行持見成し。諸佛の大道通達するなり。われらか行持によりて。この道環の功德あり。これによりて。佛佛祖祖佛住し。佛非し。佛心し。佛成して。斷絶せざるなり。この行持によりて。日月星辰あり。行持によりて。大地虚空あり。行持によりて。依正身心あり。行持によりて。四大五蘊あり。行持これ世人の愛處にあらず。されとも。諸人の實歸なるへし。過去現在未來の諸佛の行持によりて。過去現在未來

るか影に作室
るかに
已に福
に作の
成に本
る前福
るに作

の諸佛は現成するなり。その行持の功德。ときにかくれず。かるかゆゑに。發心修行す。その功德。ときにあらはれず。かるかゆゑに見聞覺知せず。あらはれされとも。かくれずと。參學すへし。隱顯存没に。染汗せられざるかゆゑに。われを見成する行持。いまの當隱に。これいかなる縁起の諸法ありて。行持すると。不會なるは。行持の會取。さらに新條の特地に。あらざるによりて。縁起は。行持なり。行持は。縁起せざるかゆゑにと。功夫參學を。審細にすへし。かの行持を見成する行持は。すなはちこれわれらか。いまの行持なり。行持のいまは。自己の本有元住にあらず。行持のいまは。自己に。去來出入するにあらず。いまといふ道は。行持より。さきにあるには。あらず。行持現成するを。いまといふ。しかあれば。すなはち。一日の行持。これ諸佛の種子なり。諸佛の行持なり。この行持に。諸佛見成せられ。行持せらるるを。行持せざるは。諸佛をいとひ。諸佛を供養せず。行持をいとひ。諸佛と。同生同死せず。同學同參せざるなり。いまの華開葉落。これ行持の見成な

り。磨鏡破鏡。それ行持にあらざるなし。このゆゑに行持をさしをか
んと擬するは。行持をのかれんとする邪心をかくさんかために。行
持をさしかくも。行持なるによりて。行持におもむかんとするは。な
ほこれ行持をこころさすにたれとも。眞父の家郷に寤財をなけ
すて。さらに佗國踰躡の窮子となる。踰躡のときの風水。たとひ身
命を喪失せしめすといふとも。眞父の寤財なけすつへきにあらず。
眞父の法財。なほ失誤するなり。このゆゑに行持は。しばらくも懈倦
なき法なり。

慈父大師。釋迦牟尼佛。十九歳の佛壽より。淡山に行持して。三十歳の
佛壽にいたりて。大地有情同時成道の行持あり。八旬の佛壽にいた
るまで。なほ山林に行持し。精藍に行持す。王宮にかへらず。國利を領
せず。布僧伽梨を衣持し。在世に一經するに。互換せず。一盂在世に互
換せず。一時一日も獨處することなし。人天の閑供養を辭せず。外道
の訕謗を忍辱す。おほよそ一化は行持なり。淨衣乞食の佛儀。しかし

なから行持にあらすといふことなし。

頭陀の起下
に睡の來の
に偈あり二
作者る偈者

第八祖摩訶迦葉尊者は。釋尊の嫡嗣なり。生前もはら十二頭陀を行
持して。さらにおこたらず。十二頭陀といふは。一者不受人請。日行乞
食。亦不受比丘僧一飯食分錢財。二者止宿山上。不宿人舍。郡縣聚落。三
者不得從人乞衣被。人與衣被亦不受。但取丘塚間死人所棄衣。補治衣。
之。四者止宿野田中樹下。五者一日一食。一名偈迦僧泥。六者晝夜不臥。
但坐睡。經行。一名偈泥沙者。七者有三領衣。無有餘衣。亦不臥被中。八
者在塚間。不在佛寺中。亦不在人間。目視死人骸骨。坐禪求道。九者但欲
獨處。不欲見人。亦不欲與人共臥。十者先食果蔬。却食飯食。已不得復食
果蔬。十一者但欲露臥。不在樹下屋宿。十二者不食肉。亦不食醍醐。麻油
不塗身。これを十二頭陀といふ。摩訶迦葉尊者よく一生に不退不轉
なり。如來の正法眼藏を正傳すといへとも。この頭陀を退すること
なし。あるとき佛言すらく。なんちすてに年老なり。僧食を食すへし。
摩訶迦葉尊者いはく。われもし如來の出世にあはすは。辟支佛とな

るへし。生前に山林に居すへし。さいはひに如來の出世にあふ。法の
うるほひあり。しかありといふとも。つひに僧食を食すへからず。如
來稱讚しまします。あるひは迦葉頭陀行持のゆゑに。形體憔悴せり。
衆みて輕忽するかことし。ときに如來ねんころに迦葉をめして。半
座をゆつりまします。迦葉尊者。如來の座に坐す。しるへし。摩訶迦葉
は佛會の上座なり。生前の行持。ことごとくあくへからず。

第十祖波栗濕縛尊者は。一生脇不至席なり。これ八旬老年の辨道な
りといへとも。當時すみやかに大法を單傳す。これ光陰をいたつら
にもらさざるによりて。わつかに三箇年の功夫なりといへとも。三
菩提の正眼を單傳す。尊者の在胎六十年なり。出胎髮白なり。誓不屍
臥。名脇尊者。乃至暗中手放光明。以取經法。これ生得の奇相なり。脇尊
者生年八十。垂捨家染衣。域中少年。便請之曰。愚夫朽老。一何淺智。夫出
家者。有二業焉。一則習定。二乃誦經。而今衰耄。無所進取。濫迹清流。徒知
飽食。時脇尊者。聞諸譏議。因謝時人。而自誓曰。我若不通三藏理。不斷三

一城に
本請に
作請に
域作請
る請作

界欲不得六神通。不具八解脫。終不以脇而至於席。自爾之後。唯日不足。
經行宴坐。住立思惟。晝則研習理教。夜乃靜慮凝神。綿歷三歲。學通三藏。
斷三界欲。得三明智。時人敬仰。因號脇尊者。しかあれは脇尊者。處胎六
十年。はしめて出胎せり。胎内に功夫なからんや。出胎よりのち。八十
にならんとするに。はしめて出家學道をもとむ。託胎よりのち。一百
四十年なり。まことに不群なりといへとも。朽老は阿誰よりも朽老
ならん。處胎にて老年なり。出胎にても老年なり。しかあれとも。時人
の譏嫌をかへりみず。誓願の一志不退なれば。わつか二三歳をふる
に。辨道現成するなり。たれか見賢思齊をゆるくせん。年老耄及をう
らむることなかれ。この生しりかたし。生か生にあらざるか。老か老
にあらざるか。四見すてにおなしからす。諸類の見おなしからす。た
た志氣を專修にして。辨道功夫すへきなり。辨道に生死をみるに。相
似せりと參學すへし。生死に辨道するには。あらず。いまの人あるひ
は五旬六旬におよひ。七旬八旬におよふに。辨道をさしおかんとす

るは至愚なり。生來たとひいくはくの年月と覺知すとも。これはしはらく人間の精魂の活計なり。學道の消息にあらず。壯齡耄及をかへりみることなかれ。學道究辨を一志すへし。脇尊者に齊肩なるへきなり。塚間の一堆の塵土。あなかちにをしむことなかれ。あなかちにかへりみることなかれ。一志に度取せずは。たれかたれをあはれまん。無主の形骸。いたつらに徧野せんとき。眼睛をつくるかことく正觀すへし。

六祖は新州の樵夫なり。有識と稱しかたし。いとけなくして父を喪す。老母に養育せられて長せり。樵夫の業を養母の活計とす。十字の街頭にして一句の聞經よりのち。たちまちに老母をすてて。大法をたつぬ。これ奇代の大器なり。拔群の辨道なり。斷臂たとひ容易なりとも。この割愛は大難なるへし。この棄恩はかるかるへからず。黃梅の會に投して。八箇月ねふらすやすます。晝夜に米をつく。夜半に衣鉢を正傳す。得法已後。なほ石臼をおひありきて。米をつくこと八年

なり。出世度人說法するにも。この石臼をさしおかす。希世の行持なり。

江西馬祖の坐禪すること。は二十年なり。これ南嶽の密印を稟受するなり。傳法濟人のとき。坐禪をさしおくと道取せず。參學のはしめていたるには。かならず心印を密受せしむ。普請作務のところにかならず先赴す。老にいたりて懈倦せず。いまの臨濟は。江西の流なり。雲巖和尚は。道吾とおなしく。藥山に參學して。ともにちかひをたてて四十年わきを席につけす。一味參究す。法を洞山の悟本大師に傳付す。洞山いはく。われ欲打成一片坐禪辨道。已二十年なり。いまその道あまねく傳付せり。

雲居山弘覺大師。そのかみ三峰菴に住せしとき。天廚送食す。大師あるとき。洞山に參して。大道を決擇して。さらに菴にかへる。天使また食を再送して。師を尋見するに。三日をへて師をみることをえす。天廚をまつことなし。大道を所宗とす。辨官の志氣。おもひやるへし。

見
一
作
本
に
一
見
る

百丈山大智禪師。そのかみ馬祖の侍者とありしより。入寂のゆふへにいたるまで。一日も爲衆爲人の勤仕なき日あらず。かたしけなく一日不作。一日不食のあとをのこすといふは。百丈禪師。すてに年老臘高なり。なほ普請作務のところ。に壯齡と同勵力す。衆これをいたむ。人これをあはれむ。師やまさるなり。つひに作務のとき。作務の具をかくして。師にあたへさりしかは。師その日一日不食なり。衆の作務にくははらさることをうらむる意旨なり。これを百丈の一日不作。一日不食のあとといふ。いま大宋國に流傳せる。臨濟の玄風。ならひに諸方叢林。おほく百丈の玄風を行持するなり。鏡清和尚住院のとき。土地神かつて師顔をみることをえす。たよりをえさるによりてなり。

三平山。義忠禪師。そのかみ天廚送食す。大顛をみてのちに。天神また師をもとむるにみることをあたはす。

後大瀉和尚いはく。我二十年在瀉山。喫瀉山飯。屙瀉山屙。不參瀉山道。

只收得一頭水牯牛。終日露迴迴也。しるへし一頭の水牯牛は。二十年在瀉山の行持より收得せり。この師かつて百丈の會下に參學しきたれり。しつかに二十年中の消息おもひやるへし。わするるときなかれ。たとひ參瀉山道する人ありとも。不參瀉山道の行持は。まれなるへし。

趙州。觀音院。眞際大師。從諗和尚。とし六十一歳なりしに。はしめて發心求道をこころさす。瓶錫をたつさへて行脚し。遍歷諸方するに。つねにみつからいはいく。七歳童兒。若勝我者。我即問伊。百歳老翁。不及我者。我即教佗。かくのことくして南泉の道を學得する。功夫すなはち二十年なり。年至八十のときは。はしめて趙州城東觀音院に住して。人天を化導すること。四十來年なり。いまたかつて一封の書をもて。檀那につけす。僧堂おほきならず。前架なし。後架なし。あるとき牀脚をれき。一隻の燒斷の燼木を繩をもてこれをゆひつけて。年月を経歴し。修行するに。知事この牀脚をかへんと請するに。趙州ゆるさす。古

佛の家風きくへし。趙州の趙州に住することは八旬よりのちなり。傳法よりこのかたなり。正法正傳せり。諸人これを古佛といふ。いまた正法正傳せざらん。餘人は師よりもかるかるへし。いまた八旬にいたらざらん。餘人は師よりも強健なるへし。壯年にして輕爾ならんわれら。なんぞ老年の崇重なるとひとしからん。はけみて辨道行持すへきなり。四十年のあひた。世財をたくはへす。常住に米穀なしあるひは栗子椎子をひろふて。食物にあつ。あるひは旋轉飯食す。まことに上古龍象の家風なり。戀慕すへき操行なり。あるとき衆にしめしていはく。倘若一生不離叢林。不語十年五載。無人喚你作啞漢。已後諸佛也。不奈你何。これ行持をしめすなり。しるへし。十年五載の不語。おろかなるに相似せりといへとも。不離叢林の功夫によりて。不語なりといへとも。啞漢にあらざらん。佛道かくのことし。佛道聲をきかさらん。は不語の不啞漢なる道理あるへからず。しかあれは行持の至妙は。不離叢林なり。不離叢林は。脱落なる全語なり。至愚のみ

つからは。不啞漢をしらす。不啞漢をしらせず。阿誰か遮障せされとも。しらせざるなり。不啞漢なるを。得恁麼なりときかず。得恁麼なりとしらざらん。はあはれむへき自己なり。不離叢林の行持。しつかに行持すへし。東西の風に東西することなかれ。十年五載の春風秋月しられされとも。聲色透脱の道あり。その道得われに不知なり。われに不會なり。行持の寸陰を可惜許なりと。參學すへし。不語を空然なるとあやしむことなかれ。入之一叢林なり。出之一叢林なり。鳥路一叢林なり。徧界一叢林なり。

大梅山は慶元府にあり。この山に護聖寺を草創す。法常禪師その本元なり。禪師は襄陽人なり。かつて馬祖の會に參してとふ。如何是佛と。馬祖云。即心是佛と。法常このことはをききて。言下大悟す。因に大梅山の絶頂にのほりて。人倫に不群なり。艸菴に獨居す。松實を食し。荷葉を衣とす。かの山に小池あり。池に荷おほし。坐禪辨道すること三十餘年なり。人事たえて見聞せず。年曆おほよそおほえす。四山青

又黃のみをみる。おもひやるにはあはれむへき風霜なり。師の坐禪には八寸の鐵塔一基を頂上におく。如戴寶冠なり。この塔を落地却せしめさらんと功夫すればねふらさるなり。その塔いま本山にあり。庫下に交割す。かくのこたく辨道すること。死にいたりて懈倦なし。かくのこたくして年月を経歴するに。鹽官の會より一僧きたりて。山にいりて拄杖をもとむる。ちなみに。迷山路してはからさるに。師の菴所にいたる。不期のなかに師をみる。すなはちとふ。和尚この山に住してよりこのかた。多少時也。師いはく。只見四山青。又黃。この僧またとふ。出山路向什麼處去。師いはく。隨流去。この僧あやしむ。こころあり。かへりて鹽官に舉似するに。鹽官いはく。そのかみ江西にありしとき。一僧を曾見す。それよりのち消息をしらす。莫是此僧否。つひに僧に令して。師を請するに出山せず。偈をつくりて答するに。いはく。摧殘枯木倚寒林。幾度逢春不變心。樵客遇之猶不顧。鄙人那得苦追尋。つひにおもむかす。これよりのちなほ山奥系いらんとせし

命一作
るに本

ちなみに。有頌するに。いはく。一池荷葉衣無盡。數樹松華食有餘。剛被世人知住處。更移茅舍入溪居。つひに菴を山奥にうつす。あるとき。馬祖ことさら。僧をつかはしてとはしむ。和尚そのかみ馬祖を參見せしに。得何道理。便住此山なる。師いはく。馬祖われにむかひていふ。即心是佛。すなはちこの山に住す。僧いはく。近日佛法また別なり。師いはく。作麼生別なる。僧いはく。馬祖いはく。非心非佛とあり。師いはく。這老漢。ひとを惑亂すること。了期あるへからず。任佗非心非佛。我祇管。即心是佛。この道をもちて馬祖に舉似す。馬祖云。梅子熟也。この因縁は。人天みなしれるところなり。天龍は師の神足なり。俱胝は師の法孫なり。高麗の迦智は師の法を傳持して。本國の初祖なり。いま高麗の諸師は。師の遠孫なり。生前には一虎一象よのつねに給侍す。あひあらしはす。師の圓寂のち。虎象石をはこひ。泥をはこひて。師の塔をつくる。その塔いま護聖寺に現在せり。師の行持。むかしいまの知識とあるは。おなしくほむるところなり。劣慧のものは。ほむへし

としらす。貪名愛利のなかに佛法あらましと強爲するは。小量の愚見なり。

五祖の法演禪師いはく。師翁はしめて楊岐に住せしとき。老屋敗椽して。風雨の徹はなはたし。ときに冬暮なり。殿堂ことごとく舊損せり。そのなかに僧堂ことにやふれ。雪霰滿牀。居不遑處なり。雪頂の耆宿なほ凜雪し。厖眉の尊年皺眉のうれへあるかことし。衆僧やすく坐禪することなし。衲子投誠して修造せんことを請せしに。師翁却之いはく。我佛有言。時當滅劫。高岸淡谷。遷變不常。安得圓滿如意。自求稱足。ならん。古往の聖人。おほく樹下露地に經行す。古來の勝躅なり。履空の玄風なり。なんたち出家學道する。做手脚なほいまたおたやかならず。わつかにこれ四五十歳なり。たれかいたつらなるいとまありて。豊屋をこととせん。つひに不從なり。翌日に上堂して衆に。しめしていはく。楊岐乍住。屋壁疎。滿牀盡撒雪。珍珠縮却項。暗嗟嘘。翻憶古人樹下居。つひにゆるさず。しかあれとも。四海五湖の雲衲霞袂。こ

一本
をの
もて
字下
有り

の會に掛錫するを。ねかふところとせり。耽道の人おほきことをよるこふへし。この道こころにそむへし。この語みに銘すへし。演和尙あるときしめしていはく。行無越思。思無越行。この語おもくすへし。日夜思之。朝夕行之。いたつらに。東西南北の風にふかるるかことくなるへからず。いはんやこの日本國は。王臣の宮殿なほその豊屋あらず。わつかにおろそかなる白屋なり。出家學道のいかてか豊屋に幽棲するあらん。もし豊屋をえたるは。邪命にあらざるなし。清淨なるまれなり。もとよりあらんは論にあらず。はしめてさらに經營することなかれ。艸菴白屋は。古聖の所住なり。古聖の所愛なり。晚學したひ參學すへし。たかゆることなかれ。黃帝堯舜等は。俗なりといへとも。艸屋に居す。世界の勝躅なり。尸子曰。欲觀黃帝之行。於合宮。欲觀堯舜之行。於總章。黃帝明堂。以艸蓋之。名曰合宮。舜之明堂。以艸蓋之。名曰總章。しるへし。合宮總章は。ともに艸をふくなり。いま黃帝堯舜をもて。われらにならへんとするに。なほ天地の論にあらず。これなほ

艸葢を明堂とせり。俗なほ艸屋に居す。出家人いかてか高堂大觀を所居に擬せん。慚愧すへきなり。古人の樹下に居し。林間にすむ。在家出家ともに愛する所住なり。黃帝は崆峒道人廣成の弟子なり。廣成は崆峒といふ巖のなかにすむ。いま大宋國の國王大臣。おほくこの玄風をつたふるなり。しかあれはすなはち塵勞中人なほかくのことし。出家人いかてか塵勞中人よりも劣ならん。塵勞中人よりも。これらん。向來の佛祖のなかに。天の供養をうくるおほし。しかあれとも。すてに得道のとき。天眼およはす。鬼神たよりなし。そのむねあきらむへし。天衆神道。もし佛祖の行履をふむときは。佛祖にちかつくみちあり。佛祖あまねく天衆神道を超證するには。天衆神道はるかに見上のたよりなく。佛祖のほとりに。ちかつきかたきなり。南泉いはく。老僧修行のちからなくして。鬼神に覩見せらる。しるへし。無修の鬼神に覩見せらるるは。修行のちからなきなり。

大白山宏智禪師正覺和尚の會に。護伽藍神いはく。われきく覺和尚

この山に住すること十餘年なり。つねに寢堂にいたりて。みんとするに不能前なり。未之識也。まことに有道の先蹤にあひあふなり。この天童山は。もとは小院なり。覺和尚の住裏に。道士觀。尼寺。教院等を掃除して。いまの景德寺となせり。師遷化の後。左朝奉大夫侍御史王伯庠。因に師の行業記を記するに。ある人いはく。かの道士觀。尼寺。教寺をうはひて。いまの天童寺となせることを記すへし。御史いはく。不可なり。此事非僧德矣。ときの人おほく侍御史をほむ。しるへしかくのことく。の事は。俗の能なり。僧の徳にあらず。おほよそ佛道に登入する最初より。はるかに三界の人天をこゆるなり。三界の所使にあらず。三界の所見にあらず。こと。審細に咨問すへし。身口意およひ。依正をきたして。功夫參究すへし。佛祖行持の功德も。とより人天を濟度する巨益ありとも。人天さらに佛祖の行持にたすけらるる。と覺知せざるなり。いま佛祖の大道を行持せんには。大隱小隱を論することなく。聰明鈍癡をいふことなかれ。たたなく名利をなけ

すてて萬縁に繫縛せらるることなかれ。光陰をすこさず。頭然をは
 らふへし。大悟をまつことなかれ。大悟は家常の茶飯なり。不悟をね
 かふことなかれ。不悟は警中の寶珠なり。たたまさに家郷あらんは
 家郷をはなれ。恩愛あらんは恩愛をはなれ。名あらんは名をのかれ。
 利あらんは利をのかれ。田園あらんは田園をのかれ。親族あらんは
 親族をはなるへし。名利等なからんも。またはなるへし。すてにある
 をはなるなきをもはなるへき道理あきらかなり。それすなはち一
 條の行持なり。生前に名利をなけすて。一事を行持せん。佛壽長遠
 の行持なり。いまこの行持。さためて行持に行持せらるるなり。この
 行持あらん身心みつからも愛すへし。みつからもうやまふへし。
 大慈寰中禪師いはく。説得一丈。不如行取一尺。説得一尺。不如行取一
 寸。これは時人の行持おろそかにして佛道の通達をわすれたるか
 ことくなるをいましむるにいたりといへとも。一丈の説は不是と
 にはあらず。一尺の行は一丈の説よりも大功なりといふなり。なん

そた丈尺の度量のみならん。はるかに須彌と芥子との論功もある
 へきなり。須彌に全量あり。芥子に全量あり。行持の大節これかく
 のことし。いまの道得は。寰中の自爲道にあらず。寰中の自爲道なり。
 洞山悟本大師道説。行取不得底。行取説不得底。これ高祖の道なり。そ
 の宗旨は。行は説に通するみちをあきらめ。説の行に通するみちあ
 り。しかあれは終日とくところに。終日おこなふなり。その宗旨は行
 不得底を行取し。説不得底を説取するなり。

雲居山弘覺大師。この道を七通八達するにいはく。説時無行路。行時
 無説路。この道得は行説なきにあらず。その説時は一生不離叢林な
 り。その行時は洗頭到雪峰前なり。説時無行路。行時無説路。さしかく
 へからす。みたらさるへし。古來の佛祖いひきたれることあり。いは
 ゆる。若人生百歲。不尙諸佛機。未若生一日。而能決了之。これは一佛二
 佛のいふところにあらず。諸佛の道取しきたれるところ。諸佛の行
 取しきたれるところなり。百千萬劫の回生回死のなかに。行持ある

二箇の
 同一本
 に共に
 作る

夫をぬすむ。一日をぬすむのみにあらず。多劫の功德をぬすむ。光陰とわれと。なんの怨家そ。うらむへし。わか不修のしかあらしむるなるへし。われわれとしたしからず。われわれをうらむるなり。佛祖も恩愛なきにあらず。しかあれともなけすてきたる。佛祖も諸縁なきにあらず。しかあれともなけすてきたる。たとひをしむとも。自佗の因縁をしまるへきにあらざるかゆゑに。われもし恩愛をなけすてすは。恩愛かへりてわれをなけすつへき云爲あるなり。恩愛をあはれむへくは。恩愛をあはれむへし。恩愛をあはれむといふは。恩愛をなけすつるなり。

南嶽大慧禪師。懷讓和尚。そのかみ曹谿に參して。執侍すること十五秋なり。しかうして。傳道受業すること。一器水瀉一器なることをえたり。古先の行履もとも。慕古すへし。十五秋の風霜。われをわつらはす。おほかるへし。しかあれとも。純一に究辨す。これ。晚進の龜鏡なり。寒爐に炭なく。ひとり。虚堂にふせり。涼夜に燭なく。ひとり。明窓に坐

する。たとひ。一知半解なくとも。無爲の絶學なり。これ。行持なるへし。おほよそ。ひそかに。貪名愛利をなけすてきたりぬれば。日日に行持の積功のみなり。このむね。わするること。なかれ。説似一物。即不中は。八箇年の行持なり。古今まれなり。とすると。ころ。賢不肖ともに。こひねか。ふ行持なり。」

香巖の智閑禪師は。大瀉に耕道せしとき。一句を道得せんとするに。數番つひに。道不得なり。これをかなしみて。書籍を火にやきて。行粥飯僧となりて。年月を經歷しき。のちに。武當山にいらりて。大證の舊趾をたつねて。結艸爲菴し。放下幽棲す。一日。わつかに。道路を併淨するに。磔のほとは。しりて。竹にあたりて。聲をなすによりて。忽然として。悟道す。のちに。香巖寺に住して。一盂一衲を。平生に。不換なり。奇巖清泉を。しめて。一生。偃息の。幽棲と。せり。行跡。おほく。本山に。のこれり。平生に。山を。いて。さりける。といふ。

臨濟院。慧照大師は。黃檗の嫡嗣なり。黃檗の會にありて。三年なり。純

一に辨道するに。睦州陳尊宿の教訓によりて。佛法の大意を黄檗にとふこと三番するに。かさねて六十棒を喫す。なほ勵志たゆむことなし。大愚にいたりて。大悟すること。すなはち黄檗睦州。兩尊宿の教訓なり。祖席の英雄は。臨濟徳山といふ。しかあれとも徳山いかにしてか。臨濟におよはん。まことに臨濟のときは。群に群せざるなり。そのときの群は。近代の拔群よりも。拔群なり。行業純一にして。行持拔群せりといふ。幾枚幾般の行持なりとおもひ擬せんとするに。あたるへからざるものなり。師在黄檗。與黄檗栽杉松。次黄檗問師曰。淡山裏栽許多樹。作麼。師曰。一與山門爲境界。二與後人作標榜。乃將鉄拍地。兩下。黄檗拈起拄杖曰。雖然如是。汝已喫我三十棒了也。師作嘘嘘聲。黄檗曰。吾宗到汝大興於世。しかあれはすなはち得道ののちも杉松なとをうゑけるにて。つからみつから鉄柄をたつさへけるとしるへし。吾宗到汝大興於世。これによるへきものならん。栽松道者の古蹤。まさに單傳直指なるへし。黄檗も臨濟とともに栽樹するなり。

黄檗のむかしは。捨衆して大安精舎の勞侶に混迹して。殿堂を掃灑する行持あり。佛殿を掃灑し。法堂を掃灑す。心を掃灑すると行持をまたす。ひかりを掃灑すると行持をまたす。裴相國と相見せし。この時節なり。

唐宣宗。帝は憲宗皇帝第二の子なり。少而より敏黠なり。よのつねに結跏趺坐を愛す。宮にありてつねに坐禪す。穆宗は宣宗の兄なり。穆宗在位のとき。早朝罷に。宣宗すなはち戲而して龍牀にのほりて。扈群臣の勢をなす。大臣これを見て心風なりとす。すなはち穆宗に奏す。穆宗みて宣宗を撫而して。いはく。我弟乃吾宗之英肖也。ときに宣宗としはしめて十三なり。穆宗は長慶四年晏駕あり。穆宗に三子あり。一は敬宗。二は文宗。三は武宗なり。敬宗父位をつきて。三年に崩す。文宗繼位するに一年といふに。内臣謀而これを易す。武宗即位するに。宣宗いまた即位せずしてをひのくににあり。武宗つねに宣宗をよぶに。癡叔といふ。武宗は會昌の天子なり。佛法を廢せし人なり。

武宗あるとき宣宗をめして。昔日ちちのくらゐにのほりしことを罰して。一頓打殺して。後華園のなかにおきて。不淨を灌するに復生す。つひに父王の邦をはなれて。ひそかに香巖禪師の會に參して。剃頭して沙彌となりぬ。しかあれともいまた不具戒なり。志閑禪師をともとして。遊方するに蘆山にいたる。因に志閑みつから瀑布を題して。いはく。穿崖透石不辭勞。遠地方知出處高。この兩句をもて。沙彌を釣佗して。これいかなる人そとみんとするなり。沙彌これを續して。いはく。谿澗豈能留得住。終歸大海作波濤。この兩句をみて。沙彌はこれつねの人にあらすとしりぬ。のちに杭州鹽官齊安國師の會にいたりて。書記に充するに。黃檗禪師。ときに鹽官の首座に充す。ゆゑに黃檗と連單なり。黃檗ときに佛殿にいたりて。禮佛するに。書記いたりてとふ。不著佛求。不著法求。不著僧求。長老用禮何爲。かくのことく問著するに。黃檗便掌して。沙彌書記にむかひて道す。不著佛求。不著法求。不著僧求。常禮如是事。かくのことく道しをはりて。又掌する

廢一本
るに作

こと一掌す。書記いはく。大龜生なり。黃檗いはく。這裏是什麼所在。更說什麼龜細。また書記を掌すること一掌す。書記ちなみに休去す。武宗ののち。書記つひに還俗して即位す。武宗の廢佛法を發して。宣宗すなはち佛法を中興す。宣宗は即位在位のおひたつねに坐禪をこのむ。未即位のとき。父王のくにをはなれて。遠地の谿澗に遊方せしとき。純一に辨道す。即位ののち。晝夜に坐禪すといふ。まことに父王すてに崩御す。兄弟また宴駕す。をひのため。に打殺せらる。あはれむへき窮子なるかことし。しかあれとも勵志うつらす。辨道功夫す。奇代の勝蹟なり。天眞の行持なるへし。

雪峰山。眞覺大師。義存和尚。かつて發心より。このかた。掛錫の叢林。およひ行程の接待。みちはるかなりといへとも。ところをきはす。日夜の坐禪。おこたることなし。雪峰草創の露堂堂にいたるまで。おこたらすして坐禪と同死す。沓參のそのかみは。九上洞山。三到投子。する。奇世の辨道なり。行持の清嚴をすすむるには。いまの人おほく雪

露身身露
命一命
には本
作は

峰高行といふ。雪峰の旨味は諸人とひとしといへとも。雪峰の伶俐は諸人のおよふところにあらず。これ行持のしかあるなり。いまの道人。かならず雪峰澡雪をまなふへし。しつかに雪峰の諸方に參學せし筋力をかへりみれば。まことに宿有靈骨の功德なるへし。いま有道の宗匠の會をのそむに眞實に請參せんとするとき。そのたよりもとも難辨なり。たた二十三十箇の皮袋にあらず。百千人の面而なり。おのおの實歸をもとむ。授手の日くれなんとす。打春の夜あけなんとす。あるひは師の普説するとき。わか耳目なくして。いたつらに見聞をへたつ。耳目そなはるときは。師また道取をはりぬ。耆宿尊年の老古錐。すてに拊掌笑呵呵のとき。新戒晚進のおのれとして。はむしろのすゑを接するたより。なほまれなるかとし。堂奥にいるといらさると。師没をきくとき。かさるとあり。光陰は矢よりもすみやかに。露命は身よりもろし。師はあれともわれ參不得なるうらみあり。參せんとするに師不得なるかなしみあり。かくのこと

くの事まのあたり見聞せしなり。大善知識。かならず人をしる徳あれとも。耕道功夫のとき。あくまで親近する良縁まれなるものなり。雪峰のむかし。洞山にのほれりけんにも。投子にのほれりけんにも。さためてこの事煩をしのひけん。この行持の法操あはれむへし。參學せさらんはかなしむへし。

正法眼藏行持

眞丹初祖の西來東土は。般若多羅尊者の教敎なり。航海三載の霜華。その風雪いたましきのみならんや。雲煙いくかさなりの嶮浪なりとかせん。不知のくににいらんとす。身命ををしまん凡類。おもひよるへからず。これひとへに傳法救迷情の大慈よりなれる行持なるへし。傳法の自己なるかゆゑにしかあり。傳法の徧界なるかゆゑにしかあり。盡十方界は眞實道なるかゆゑにしかあり。盡十方界自己なるかゆゑにしかあり。盡十方界盡十方界なるかゆゑにしかあり。いつれの生縁か王宮にあらざらん。いつれの王宮か道場をさへん。このゆゑにかくのことく西來せり。救迷情の自己なるゆゑに。驚疑なく怖畏せず。救迷情の徧界なるゆゑに。驚疑せず怖畏なし。なかく父王の國土を辭して。大舟をよそほふて南海をへて廣州にとつく。使船の人おほく巾瓶の僧あまたありといへとも。史者失録せり。著岸よりこのかた。しれる人なし。すなはち梁代の普通八年丁未歲九

よる廣
る本た
つに作

使廣福
本便に
作る

以何處
福本作
以何處
るに作

月二十一日なり。廣州の刺史蕭昂といふもの。主禮をかさりて迎接してまつる。ちなみに表を修して武帝にきこゆる。蕭昂か勤恪なり。武帝すなはち奏を覽して欣悦して。使に詔をもたせて迎請したてまつる。すなはちそのとし十月一日なり。初祖金陵にいたりて。梁武と相見するに。梁武とふ。朕即位已來。造寺寫經。度僧不可勝紀。有何功德。師曰。故無功德。帝曰。以何無功德。師曰。此但人天小果。有漏之因。如影隨形。雖有非實。帝曰。如何是眞功德。師曰。淨智妙圓。體自空寂。如是功德。不以世求。帝又問。如何是聖諦第一義諦。師曰。廓然無聖。帝曰。對朕者誰。師曰。不識。帝不領悟。師知機不契。ゆゑにこの十月十九日。ひそかに江北にゆく。そのとし十一月二十三日。洛陽にいたりぬ。嵩山少林寺に寓止して。面壁而坐。終日默然なり。しかあれとも。魏主も不肖にしてしらす。はちつへき理もしらす。師は南天竺の刹利種なり。大國の皇子なり。大國の王宮。その法ひさしく慣熟せり。小國の風俗は。大國の帝者に爲見のはちつへきあれとも。初祖うこかしむるころあ

らすくにをすてす。人をすてす。ときに菩提流支の訕謗を救せずにくます。光統律師か邪心をうらむるにたらず。きくにおよはす。かくのことくの功德おほしといへとも。東地の人物。たた尋常の三藏およひ經論師のことくにおもふは。至愚なり。小人なるゆゑなり。あるひはおもふ。禪宗とて一途の法門を開演するが。自餘の論師等の所云も初祖の正法もおなじかるへきとおもふ。これは佛法を濫穢せしむる小畜なり。初祖は釋迦牟尼佛より二十八世の嫡嗣なり。父王の大國をはなれて。東地の衆生を救濟するたれのかたをひとしくするかあらん。もし祖師西來せすは。東地の衆生いかにしてか佛正法を見聞せん。いたつらに名相の沙石にわつらふのみならん。いまわれらかこときの邊地遠方の披毛戴角までも。あくまで正法をきくことをえたり。いまは田夫農父野老村童までも見聞する。しかしなから祖師航海の行持にすくはるるなり。西天と中華と。土風はるかに勝劣せり。方俗はるかに邪正あり。大忍力の大慈にあらずより

杖音使

之爲史一本爲之作

使一本作

は傳持法藏の大聖むかふへき處在にあらず。住すへき道場なし。知人の人まれなり。しはらく嵩山に掛錫すること九年なり。人これに壁觀婆羅門といふ。史者これを習禪の列に編集すれとも。しかにはあらず。佛佛嫡嫡相傳する正法眼藏。ひとり祖師のみなり。石門林間録云。菩提達磨初自梁之魏。經行於嵩山之下。倚杖於少林。而壁燕坐而已。非習禪也。久之人莫測其故。因以達磨爲習禪。夫禪那諸行之一耳。何足以盡聖人而當時之人。以之爲史者。又從而傳於習禪之列。使與枯木死灰之徒爲伍。雖然聖人非止於禪那。而亦不違禪那。如易出乎陰陽。而亦不違乎陰陽。梁武初見達磨之時。即問如何是聖諦第一義。答曰。廓然無聖。進曰。對朕者誰。又曰。不識。使達磨不通方言。則何於是時。使能爾耶。しかあれはすなはち梁より魏へゆくことあきらけし。嵩山に經行して。少林に倚杖す。而壁燕坐すといへとも。習禪にはあらざるなり。一卷の經書を將來せされとも。正法傳來の正主なり。しかあるを史者あきらめず。習禪の篇につらぬるは至愚なり。かなしむへし。かく

のことくして嵩山に經行するに。犬あり堯をほゆ。あはれむへし至愚なり。たれのころあらんかこの慈恩をかるくせん。たれのころあらんかこの恩を報せさらん。世恩なほわすれず。おもくする人おほし。これを人といふ。祖師の大恩は。父母にもすくるへし。祖師の慈愛は。親子にもたくらへされ。われらか卑賤。おもひやれば驚怖しつへし。中土をみす。中華に生まれず。聖をしらす。賢をみす。天上にのほれる人。いまたなし。人心ひとへにおろかなり。開闢よりこのかた。化俗の人なし。國をすますときをきかす。いはゆるはいかなるか。清いかなるか。濁としらさるによる。二柄三才の本末にくらきによりて。かくのことくなり。いはんや五才の盛衰をしらんや。この愚は眼前の聲色にくらきによりてなり。くらきことは。經書をしらさるによりてなり。經書に師なきによりてなり。その師なしといふは。この經書いく十卷といふことをしらす。この經いく百偈いく千言としらす。たた文の説相をのみよむ。いく千偈いく萬言といふことをし

一本才
下を有
り

らさるなり。すてに古經をしり古書をよむか。こときは。すなはち慕古の意旨あるなり。慕古のころあれば。古經きたり現前するなり。漢高祖。および魏太祖。これら天象の偈をあきらめ。地形の言をつたへし。帝者なり。かくのこときの經典あきらむるとき。いささか三才あきらめきたるなり。いまたかくのことくの聖君の化にあはさる百姓のともからは。いかなるを事君とならひ。いかなるを事親とならふとしらされは。君子としてもあはれむべきものなり。親族としてもあはれむべきなり。臣となれるも子となれるも。尺璧もいたつらにすきぬ。寸陰もいたつらにすきぬるなり。かくのことくなる家門にうまれて。國土のおもき職なほさつくる人なし。かるき官位なほをしむ。にこれるとき。なほしかあり。すめらんとときは。見聞もまれならん。かくのこときの邊地。かくのこときの卑賤の身命をもちながら。あくまで如來の正法をきかん。みちにいかてかこの卑賤の身命をしむ。ころあらん。をしんてのちになにもものためにかす

てんとする。おもくかしかからんは法のためをしむへからず。いはんや卑賤の身命をや。たとひ卑賤なりといふとも。爲道爲法のところにをしますつることあらは。上天よりも貴なるへし。輪王よりも貴なるへし。おほよそ天神地祇。三界衆生よりも貴なるへし。しかあるに初祖は南天竺國。香至王の第三皇子なり。すてに天竺國の帝胤なり。皇子なり。高貴のうやまふへき。東地邊國には。かしのきたてまつるへき儀も。いまたしらざるなり。香なし華なし。坐褥おろそかなり。殿臺つたなし。いはんやわかには遠方の絶岸なり。いかてか大國の皇をうやまふ儀をしらん。たとひならふとも迂曲してわきまふへからざるなり。諸侯と帝者と。その儀ことなるへし。その禮も輕重あれとも。わきまへしらす自己の貴賤をしらされは。自己を保任せす。自己を保任せされは。自己の貴賤もともあきらむへきなり。初祖は釋尊第二十八世の付法なり。道にありてよりこのかた。いよいよおもしろ。かくのことくなる大聖至尊なほ師救によりて。身

命ををしまさるは傳法のためなり。救生のためなり。眞丹國には。いまた初祖西來よりさきに。嫡嫡單傳の佛子をみす。嫡嫡面授の祖面を面授せず。見佛いまたしかりき。のちにも初祖の遠孫のほか。さらに西來せざるなり。曇華の一現はやすかるへし。年月をまちて算數しつへし。初祖の西來は。ふたたびあるへからざるなり。しかあるに。祖師の遠孫と稱するとも。からも。楚國の至愚に。ふて玉石いまたわきまへす。經師論師も齊肩すへきとおもへり。少聞薄解によりて。しかあるなり。宿殖般若の正種なきや。からは。祖道の遠孫とならず。いたつらに名相の邪路に。踰躡するものあはれむへし。梁の普通よりのち。なほ西天にゆくものあり。それな。のため。至愚のは。なはたしきなり。惡業のひくによりて。佗國に踰躡するなり。歩歩に。謗法の邪路におもむく。歩歩に親父の家郷を逃逝す。なんたち西天に。いたりて。なんの所得かある。た。た山水に辛苦するのみなり。西天の東來する宗旨を學せず。佛法の東漸をあきらめざるによりて。いたつ

一本
東三
の
無
字

つへき賢不肖ともに進退にわつらふへからざるものなり。しつかにおもふへし。正法よに流布せざらんときは身命を正法のために抛捨せんことをねかふともあふへからず。正法にあふ今日のわれらをねかふへし。正法にあふて身命をすてさるわれらを慚愧せん。はつへくはこの道理をはつへきなり。しかあれは祖師の大恩を報謝せんことは。一日の行持なり。自己の身命をかへりみることもなかれ。禽獸よりもおろかなる恩愛をしんてすてさることなかれ。たとひ愛惜すとも長年のともなるへからず。あくたのことくなる家門。たのみてととまることなかれ。たとひととまるともつひの幽棲にあらず。むかし佛祖のかしこかりし。みな七寶千子をなけすて。玉殿朱樓をすみやかにすつ。涕唾のことくみる糞土のことくみる。これらみな古來の佛祖の古來の佛祖を報謝しきたれる。知恩報恩の儀なり。病雀なほ恩をわすれず。三府の環よく報謝あり。窮龜なほ恩をわすれず。餘不の印よく報謝あり。かなしむへし。人面なから畜類よ

こと本は
とをこ
作るに

一本命
下を有
り

りも愚劣ならんこと。は。いまの見佛聞法は。佛祖面面の行持よりきたれる慈恩なり。佛祖もし單傳せずはいかにしてか今日にいたらん。一句の恩なほ報謝すへし。一法の恩なほ報謝すへし。いはんや正法眼藏無上大法の大恩。これを報謝せざらんや。一日に無量恒河沙の身命すてんことねかふへし。法のためにすてんかはねは。世世のわれら。かへりて禮拜供養すへし。諸天龍神。ともに恭敬尊重し守護讚歎するところなり。道理それ必然なるかゆ系に。西天竺國には。髑髏をうり髑髏をかふ。婆羅門の法ひさしく風聞せり。これ聞法の人。の髑髏形骸の功德おほきことを尊重するなり。いま道のために身命をすてされは。聞法の功德いたらす。身命をかへりみず。聞法するかこときは。その聞法成熟するなり。この髑髏は。尊重すへきなり。いまわれら。道のためにすてざらん髑髏は。佗日にさらされて野外にすてらるとも。たれかこれを禮拜せん。たれかこれを賣買せん。今日の精魂。かへりてうらむへし。鬼の先骨をうつありき。天の先骨を禮

せしあり。いたつらに塵土に化するときをおもひやれは。いまの愛惜なし。のちのあはれみあり。もよほさるるところは。みん人のなみたのことくなるへし。いたつらに塵土に化して。人にいとはれん。鬪鬪をもて。よくさいはひに佛正法を行持すへし。このゆゑに。寒苦をおつることなかれ。寒苦いまた人をやふらす。寒苦いまた道をやふらす。たた不修をおつへし。不修それ人をやふり道をやふる。暑熱をおつることなかれ。暑熱いまた人をやふらす。暑熱いまた道をやふらす。不修よく人をやふり道をやふる。夢をうけ。厥をとるは。道俗の勝躓なり。血をもとめ。乳をもとめて。鬼畜にならばさるへし。たたま

さに行持なる一日は。諸佛の行履なり。
眞丹第二祖。大祖正宗普覺大師は。神鬼ともに嚮慕す。道俗おなしく尊重せし。高德の師なり。曠達の士なり。伊洛に久居して。群書を博覽す。くにのまれなりとするところ。人のあひかたきなり。法高德重のゆゑに。神物條見して。祖にかたりていふ。將欲受果。何滯此耶。大道匪

一本
神字
下有

一本
神字
下有

遠汝其南矣。あくる日にはかに頭痛すること刺かことし。其師洛陽龍門香山。審淨禪師。これを治せんとする。ときに空中有聲曰。此乃換骨。非常痛也。祖遂以見神事。白于師。師視其頂骨。即如五峰秀出矣。乃曰。汝相吉祥。當有所證。神汝南者。斯則少林寺達磨大士。必汝之師也。この教をききて。祖すなはち少室峰に參す。神はみつからの久遠修道の守道神なり。このとき窮臘寒天なり。十二月初九夜といふ。天大雨雪ならずとも。淡山高峰の冬夜は。おもひやるに人物の窓前に立地すへきにあらず。竹節なほ破す。おそれつへき時候なり。しかあるに大雪市地理山没峰なり。破雪して道をもとむ。いくはくの嶮難なりとかせん。つひに祖室にとつくといへとも。入室ゆるされず。顧眄せざるかことし。この夜ねふらす。坐せず。やすむことなし。堅立不動にして。あくるをまつに。夜雪なさけなきかことし。ややつもりて腰をうつむあひた。おつるなみた滴滴こほる。なみたをみるに。なみたをかさぬ。身をかへりみて。身をかへりみる。自惟すらく。昔人求道。敲骨取

髓刺血濟飢布髮掩泥投崖飼虎古尚若此我又何人かくのことくお
もふに志氣いよいよ勵志あり。いまいふ古尚若此我又何人を晩進
もわすれざるへきなり。しはらくこれをわするるとき永劫の沈溺
あるなり。かくのことく自惟して法をもとめ道をもとむる志氣の
みかさなる。凜雪の操を操とせざるによりて。しかありけるなるへ
し。遅明のよるの消息はからんとするに肝膽もくたけぬるかこと
したた身毛の寒怕せらるるのみなり。初祖あはれみて。味旦にとふ。
汝久立雪中當求何事。かくのことくきくに。二祖悲涙ますますおと
していはく。惟願和尚慈悲。開甘露門。廣度群品。かくのことくまうす
に。初祖曰。諸佛無上妙道。曠劫精勤。難行能行。非忍而忍。豈以小德小智。
輕心慢心。欲冀眞乘。徒勞勤苦。このとき二祖ききていよいよ誨勵す。
ひそかに利刀をとりて。みつから左臂を斷て。置于師前するに。初祖
ちなみに。二祖これ法器なりとしりぬ。乃曰。諸佛最初求道爲法忘形。
汝今斷臂吾前求亦可在。これより堂奥にいる。執侍八年。勤勞千萬。ま

な本はむか
へしはむか
つへしはむか
しつへしはむか
ねしつへしはむか
つねしつへしはむか
に作らねる

ことにこれ人天の大依怙なるなり。人天の大導師なるなり。かくの
こときの勤勞は西天にもきかず。東地はしめてあり。破顔は古をき
く。得隨は祖に學す。しつかに觀想すらくは。初祖いく千萬の西來あ
りとも。二祖もし行持せすは。今日の飽學措大あるへからず。今日わ
れら正法を見聞するたくひとなれり。祖の恩かならず報謝すへし。
その報謝は餘外の法はあたるへからず。身命も不足なるへし。國城
もおもきにあらず。國城は佗人にもうははる。親子にもゆつる。身命
は無常にもまかす。主君にもまかす。邪道にもまかす。しかあれば。こ
れを舉して。報謝に擬するに。不道なるへし。たたまさに日日の行持。
その報謝の正道なるへし。いはゆるの道理は。日日の生命を等閑に
せず。わたくしに。つひやささらんと。行持するなり。そのゆゑはいか
ん。この生命は。前來の行持の餘慶なり。行持の大恩なり。いそき報謝
すへし。かなしむへし。はつへし。佛祖行持の功德分より生成せる形
骸のいたつらなる妻子のつぶねとなし。妻子のもちあそひにまか

廣福本
華下
りな

一本
上功
有り
字徳

せて破落ををしまさらんことは邪狂にして身命を名利の羅刹に
まかす。名利は一頭の大賊なり。名利をおもくせば。名利をあはれむ
へし。名利をあはれむといふは。佛祖となりぬへき身命を。名利にま
かせてやふらしめざるなり。妻子親族あはれまんことも。またかく
のことくすへし。名利は夢幻空華と學することなかれ。衆生のこと
く學すへし。名利をあはれまます。罪報をつもらしむることなかれ。參
學の正眼。あまねく諸方をみんこと。かくのことくなるへし。世人の
なさけある。金銀珍玩の蒙惠。なほ報謝す。好語好聲のよしみ。こころ
あるはみな報謝のなさけをはけむ。如來無上の正法を見聞する大
恩。たれの人面かわするるときあらん。これをわすれさらん。一生の
珍審なり。この行持を不退轉ならん。形骸觸髅は。生時死時。おなしく
七塞塔にをさめ。一切人天。皆應供養の功德なり。かくのことく大恩
ありとしりなは。かならず艸露の命を。いたつらに零落せしめず。如
山の徳をねんころに報すへし。これすなはち行持なり。この行持の

功は。祖佛として行持するわれありしなり。おほよそ初祖二祖。かつ
て精藍を草創せず。艸艸の繁務なし。およひ三祖四祖も。またかくの
ことし。五祖六祖の寺院を自草せず。青原南嶽も。またかくのことし。
石頭大師は。艸菴を大石にむすひて。石上に坐禪す。晝夜にねふらす。
坐せさるとき。なきなし。衆務を虧闕せずといへとも。十二時の坐禪。かな
らすつとめきたれり。いま青原の一派の。天下に流通すること。人天
を利潤せしむることは。石頭大力の行持堅固のしかあらしむるな
り。いまの雲門法眼の。あきらむるところある。みな石頭大師の法孫
なり。

第三十一祖。大醫禪師は。十四歳のそのかみ。三祖大師をみしより。服
勞九載なり。すてに佛祖の祖風を嗣續するより。攝心無寐にして。脇
不至席なること。僅六十年なり。化怨親にかうふらしめ。徳人天にあ
まねし。眞丹の四祖なり。貞觀癸卯歲。太宗嚮師道味。欲瞻風彩。詔赴京。
師上表。遜謝前後三返。竟以疾辭。第四度命使曰。如果不赴。即取首來。使

廣福本
四上
字有
り第

至山諭旨。師乃引頸就刃。神色儼然。使異之。廻以狀聞。帝彌加歎慕。就賜珍繒。以遂其志。しかあれはすなはち四祖禪師は身命を身命とせず。王臣に親近せざらんと行持せる行持。これ千歳の一遇なり。太宗は有義の國主なり。相見のものうかるべきにあらされともかくのこ。とく先達の行持はありけると參學すべきなり。人主としては引頸就刃して。身命をしまさる人物をも。なほ歎慕するなり。これいたつらなるにあらず。光陰ををしみ。行持を專一にするなり。上表三返。奇代の例なり。いま澆季には。もとめて帝者にまみえんとねかふあり。高宗永徽辛亥歲閏九月四日。忽垂誠門人曰。一切諸法悉皆解脫。汝等各自護念。流化未來。言訖安坐而逝。壽七十有二。塔于本山。明年四月八日。塔戸無故自開。儀相如生。爾後門人不敢復閉。しるへし一切諸法。悉皆解脫なり。諸法の空なるにあらず。諸法の諸法ならさるにあらず。悉皆解脫なる諸法なり。いま四祖には。未入塔時の行持あり。既在塔時の行持あるなり。生者かならず波ありと見聞するは小見なり。

清本山
字無し

滅者は無思覺と。知見せるは小聞なり。學道にはこれらの小聞小見をならふことなかれ。生者の滅なきもあるへし。滅者の有思覺なるもあるへきなり。福州玄沙宗一大師。法名師備。福州閩縣人也。姓謝氏。幼年より垂釣をこのむ。小艇を南臺江にうかめて。もろもろの漁者になれきたる。唐の感通のはしめ。年甫三十なり。たちまちに出塵をねかふ。すなはち釣舟をすてて。芙蓉山靈訓禪師に投して落髮す。豫章開元寺道玄律師に具足戒をうく。布衲芒履。食纒接氣。常終日宴坐。衆皆異之。與雪峰義存。本法門昆仲而親近。若師資。雪峰以其苦行呼爲頭陀。一日雪峰問曰。阿那箇是備頭陀。師對曰。終不敢誑於人。異日雪峰召曰。備頭陀何不徧參去。師曰。達磨不來東土。二祖不徃西天。雪峰然之。つひに象骨山にのほるにおよんで。すなはち師と同力締構するに。玄徒臻萃せり。師の入室咨決するに。晨昏にかはることなし。諸方の玄學のなかに。所未決あるは。かならず師にしたかひて請益するに。雪峰和尚いはく。備頭陀にとふへし。師まさ仁にあたりて。不讓に

してこれをつとむ。拔群の行持にあらずよりは。恁麼の行履あるへからず。終日宴坐の行持まれなる行持なり。いたつらに聲色に馳騁することはおほしといへとも。終日の宴坐はつとむる人まれなるなり。いま晩學としてはのこりの光陰のすくなきことをおそりて。終日宴坐これをつとむへきなり。

長慶の慧稜和尚は雪峰下の尊宿なり。雪峰と玄沙とに往來して參學すること僅二十九年なり。その年月に蒲團二十枚を坐破す。いまの人の坐禪を愛するあるは長慶をあけて慕古の勝躅とす。したふはおほし。およふすくなし。しかあるに三十年の功夫むなしからず。あるとき涼簾を卷起せしちなみに。忽然として大悟す。三十來年かつて郷土にかへらず。親族にむかはす。上下肩と談笑せず。專一に功夫す。師の行持は三十年なり。疑滯を疑滯とせること三十年。さしかかざる利機といふへし。大根といふへし。勵志の堅固なる。傳聞するは或從經卷なり。ねかふへきをねかひはつへきをはちとせん。長慶

原本
こゆの
下るな
り三字
無し同
はるへ
きはる
きはる
字は四
るには
る作る

に相逢すへきなり。實を論すればたた道心なく。操行つたなきによりて。いたつらに名利には繋縛せらるるなり。

大瀉山大圓禪師は百丈の授記より直に瀉山の峭絶にゆきて。鳥獸爲伍して。結艸修練す。風雪を辭勞することなし。橡栗充食せり。堂宇なし。常住なし。しかあれとも行持の見成すること。四十來年なり。のちには海内の名藍として。龍象蹴踏するものなり。梵刹の現成を願せんにも。人情をめぐらすことなかれ。佛法の行持を堅固にすへきなり。修練ありて。堂閣なきは古佛の道場なり。露地樹下の風とほくきこゆるなり。この處在なかく。結界となる。まさに一人の行持あれは諸佛の道場につたはるへきなり。末世の愚人。いたつらに堂閣の結構につかるることなかれ。佛祖いまた堂閣をねかはす。自己の眼目いまたあきらめす。いたつらに殿堂精藍を結構する。またく諸佛に佛宇を供養せんとはあらず。おのれか名利の窟宅とせんかためなり。瀉山のそのかみの行持。しつかにおもひやるへきなり。おも

ひやるといふは。わかいま瀧山にすめらんか。ことくおもふへし。淡夜のあめの聲。こけをうかつのみならんや。巖石を穿却するちからもあるへし。冬天のゆきの夜は。禽獸もまれなるへし。いはんや。人煙のわれをしるあらんや。命をかるくし法をおもくする行持にあらずは。しかあるへからざる活計なり。薙艸すみやかならす。土木いとなます。たた行持修練し。辨道功夫あるのみなり。あはれむへし。正法傳持の嫡祖。いくはくか山中の嶮阻にわつらふ。瀧山をつたへきくには。池あり水あり。こほりかさなりきりかさなるらん。人物の堪忍すへき。幽棲にあらされとも。佛道と玄奥と化成することあらたなり。かくのことく行持しきたれりし道得を見聞す。身をやすくして。きくへきにあらされとも。行持の勤勞すへき。報謝をしらされは。たやすくきくといふとも。こころあらん。晩學。いかてかそのかみの瀧山を。目前のいまのことくおもひやりて。あはれまさらん。この瀧山の行持の道力化功によりて。風輪うこかす。世界やふれす。天衆の宮

いかに
かや
か
に
作
る

殿おたい。かなり。人間の國土も保持せるなり。瀧山の遠孫にあらされとも。瀧山は祖宗なるへし。のちに仰山きたり侍奉す。仰山もとは百丈先師のところにして。問十答百の鶖子なりといへとも。瀧山に參侍して。さらに看牛三年の功夫となる。近來は斷絶し。見聞することなき行持なり。三年の看牛。よく道得を人にもとめさらしむ。芙蓉山の楷祖も。はら行持見成の本源なり。國主より定照禪師號ならひに紫袍をたまふに。祖うけす。修表具辭す。國主とかめあれとも。師つひに不受なり。米湯の法味つたはれり。芙蓉山に菴せしに。道俗の川湊するもの。僅數百人なり。日食粥一杯なるゆゑに。おほく引去す。師ちかふて赴齋せず。あるとき衆にしめすに。いはく。夫出家者。爲厭塵勞。求脫生死。休心息念。斷絶攀緣。故名出家。豈可以等閑利養。埋沒平生。直須兩頭撒開。中間放下。遇聲遇色。如石上栽華。見利見名。似眼中著屑。況從無始已來。不是不曾經歷。又不知次第。不過翻頭作尾。止於如此。何須苦苦貪戀。如今不歇。更待何時。所以先聖教人。只要盡却。今

時能盡今時更有何事。若得心中無事。佛祖猶是冤家。一切世事自然冷淡。方始那邊相應。你不見。隱山至死。不肯見人。趙州至死。不肯告人。匾擔拾椽栗爲食。大梅以荷葉爲衣。紙衣道者。只披紙。玄太上座。只著布。石霜置枯木堂。與衆坐臥。只要死了你心。投子使人辨米。同煮共餐。要得省取你事。且從上諸聖。有如此榜樣。若無長處。如何甘得。諸仁者。若也於斯體究的不虧人。若也不肯承當。向後深恐費力。山僧行業。無取忝主山門。豈可坐費常住。頓忘先聖付屬。今者輒欲略數古人爲住持體例。與諸人議定。更不下山。不赴齋。不發化主。唯將本院莊課。一歲所得。均作三百六十分。日取一分用之。更不隨人添減。可以備飯則飽。作飯不足。則作粥。作粥不足。則作米湯。新到相見。茶湯而已。更不煎點。唯置一茶堂。自去取用。務要省緣。專一辨道。又況活計具足。風景不疎。華解笑。鳥解啼。木馬長鳴。石牛善走。天外之青山。寡色。耳畔之鳴泉。無聲。嶺上猿啼。露濕。中霄之月。林閒鶴唳。風回清曉之松。春風起時。枯木龍吟。秋葉凋而寒林華散。玉階鋪苔蘚之紋。人而帶煙霞之色。音塵寂爾。消息宛然。一味蕭條。無可趣向。

山僧今日。向諸人面前說家門。已是不著便。豈可更去陸堂入室。拈槌豎拂。東喝西棒。張眉怒目。如癩病發相似。不唯屈沈上座。況亦辜負先聖。你不見。達磨西來。到少室山下。而壁九年。二祖至於立雪斷臂。可謂受艱辛。然而達磨不曾措了一詞。二祖不曾問著一句。還喚達磨作不爲人得麼。喚二祖做不求師得麼。山僧每至說著古聖做處。便覺無地容身。慚愧後人軟弱。又況百味珍饈。遞相供養。道我四事具足。方可發心。只恐做手脚不迄。便是隔生隔世去也。時光似箭。淡爲可惜。雖然如是。更在佗人從長相度。山僧也強教。你不得。諸仁者。還見古人。偈麼。山田脫粟飯。野菜淡黃齏。喫則從君喫。不喫任東西。伏惟同道。各自努力。珍重。これすなはち。祖宗單傳の骨髓なり。高祖の行持おほしといへとも。しはらくこの一枚を擧するなり。いまわれらか。晩學なる。芙蓉高祖の芙蓉山に修練せし行持。したひ參學すへし。それすなはち。祇園の正儀なり。洪州江西。開元寺。大寂禪師。諱道一。漢州十方縣人なり。南嶽に參侍すること十餘載なり。あるとき郷里にかへらんとして。半路にいたる。

半路よりかへりて焼香禮拜するに。南嶽ちなみに偈をつくりて馬祖にたまふにいはく。勸君莫歸郷。歸郷道不行。竝舍老婆子。説汝舊時名。この法語をたまふに。馬祖うやまひたまはりて。ちかひていはく。われ生生にも漢州にむかはさらんと。誓願して漢州にむかひて一歩をあゆまず。江西に一住して。十方を往來せしむ。わつかに即心即佛を道得するほかに。さらに一語の爲人なし。しかありといへとも。南嶽の嫡嗣なり。人天の命脈なり。いかなるかこれ莫歸郷。莫歸郷とはいかにあるへきそ。東西南北の歸去來。たたこれ自己の倒起なり。まことに歸郷道不行なり。道不行なる歸郷なりとや行持する。歸郷にあらさるとや行持する。歸郷なによりてか道不行なる。不行にさへらるとやせん。自己にさへらるとやせん。竝舍老婆子は。説汝舊時名なりといはさるなり。竝舍老婆子。説汝舊時名なりといふ道得なり。南嶽いかにしてかこの道得ある。江西いかにしてかこの法語をうる。その道理は。われ向南行するときは。大地おなしく向南行

するなり。餘方もまたしかあるへし。須彌大海を量として。しかあらずと疑殆し。日月星辰に格量して。猶滯するは小見なり。第三十二祖大滿禪師は。黃梅人なり。俗姓は周氏なり。母の姓を稱なり。師は無父而生なり。たとへは李老君のことし。七歳傳法よりのち。七十有四にいたるまで。佛祖正法眼藏。よくこれを住持し。ひそかに衣法を慧能行者に付屬する。不群の行持なり。衣法を神秀にしらせず。慧能に付屬するゆゑに。正法の壽命不斷なるなり。先師天童和尚は。越上人事なり。十九歳にして。教學をすてて。參學するに。七旬におよんで。なほ不退なり。嘉定の皇帝より。紫衣師號をたまはるといへとも。つひにうけず。修表辭謝す。十方の雲衲ともに崇重す。遠近の有識ともに。隨喜するなり。皇帝大悅して。御茶をたまふしれるものは。奇代の事と。讚歎す。まことにこれ眞實の行持なり。そのゆゑは。愛名は犯禁よりもあし。犯禁は一時の非なり。愛名は一生の累なり。おろかにしてすてさることなかく。らくしてうくるこ

下
一
本
字
し
有
り

となかれ。うけざるは行持なり。すつるは行持なり。六代の祖師。おのおの師號あるは。みな滅後の救謚なり。在世の愛名にあらず。しかあれは。すみやかに生死の愛名をすてて。佛祖の行持をねかふへし。貪愛して禽獸にひとしきことなかれ。おもからざる。吾我をむさほり愛するは。禽獸もそのおもひあり。畜生もそのころあり。名利をすつることは。人天もまれなりとするところ。佛祖いまたすてざるはなし。あるかいはく。衆生利益のために。貪名愛利すといふ。おほきなる邪説なり。附佛法の外道なり。謗正法の魔黨なり。なんちいふか。こくとくならは。不貪名利の佛祖は。利生なきか。おらふへし。わらふへし。又不貪の利生あり。いかん。又そこは。くの利生あることを學せす。利生にあらざるを利生と稱する魔類なるへし。なんちに利益せられん。衆生は。墮獄の種類なるへし。一生のくらきことをかなしむへし。愚蒙を利生に稱することなかれ。しかあれは。師號を恩賜すとも。上表辭謝する。古來の勝躅なり。晩學の參究なるへし。まのあたり先師

をみる。これ人にあふなり。先師は十九歳より。離郷尋師。辨道功夫。すること六十五載にいたりて。なほ不退不轉なり。帝者に親近せず。帝者にみえず。丞相と親厚ならず。官員と親厚ならず。紫衣師號を表辭するのみにあらず。一生まだらなる袈裟を搭せず。よのつねに上堂入室。みなくろき袈裟。襷子をもちある。衲子を教訓するに。いはく。參禪學道は。第一有道心。これ學道のはしめなり。いま二百來年。祖師道すたれたり。かなしむへし。いはんや。一句を道得せる皮袋すくなし。某甲そのかみ徑山に掛錫するに。光佛照そのときの粥飯頭なりき。上堂して。いはく。佛法禪道。かならずしも他人の言句をもとむへか。らす。ただ各自理會。かくのことく。いひて。僧堂裏。都不管なりき。雲水兄弟也。都不管なり。祇管與官客相見。追尋するのみなり。佛照ことに佛法の機關をしらす。ひとへに貪名愛利のみなり。佛法もし各自理會ならは。いかてか。尋師訪道の老古。錐あらん。眞箇是光佛照。不會參禪也。いま諸方長老。無道心なる。た光佛照。箇兒子也。佛法那得。佗手

裏有。可惜。可惜。かくのことくいふに佛照兒孫。おほくきくものあれ
どうらみず。又いはく。參禪者身心脱落也。不用燒香禮拜。念佛修懺。看
經。祇管打坐始得。まことにいま大宋國の諸方に。參禪に名字をかけ。
祖宗の遠孫と稱する皮袋。たた一二百のみにあらず。稻麻竹葦なり
とも。打坐を打坐に勸誘するともから。たえて風聞せざるなり。たた
四海五湖のあひた。先師天童のみなり。諸方もおなしく天童をほむ。
天童諸方をほめず。又すへて天童をしらざる大刹の主もあり。これ
は中華にうまれたりといへとも。禽獸の流類ならん。參すへきを參
せず。いたつらに光陰を蹉過するかゆゑに。あはれむへし天童をし
らざるやからは。胡說亂道をかまひすしくするを。佛祖の家風と錯
認せり。先師よのつねに普說す。われ十九載よりこのかた。あまねく
諸方の叢林をふるに。爲人師なし。十九載よりこのかた。一口一夜も
不礙蒲團の日夜あらず。某甲未住院よりこのかた。郷人とものかた
りせず。光陰をしきによりてなり。掛錫の所在にあり。菴裏寮舍すへ

ていりてみる。ことなし。いはんや遊山翫水に功夫をつひやさんや。
雲堂公界の坐禪のほか。あるひは閣上。あるひは屏處をもとめて。獨
子ゆきて穩便のところ。に坐禪す。つねに袖裏に蒲團をたつさへて。
あるひは巖下にも坐禪す。つねにおもひき金剛座を坐破せんと。こ
れもとむる所期なり。臂肉の爛壞するとき。どきもありき。このとき
いよいよ坐禪をこのむ。某甲今年六十五載。老骨頭懶。不會坐禪なれ
とも。十方兄弟をあはれむによりて。住持山門。曉諭方來。爲衆傳道な
り。諸方長老。那裏有。什麼佛法なるゆゑに。かくのことく上堂し。かく
のことく普說するなり。又諸方の雲水の人事の産をうけす。趙提舉
は。嘉定聖主の胤孫なり。知明州軍州事。管内勸農使なり。先師を請し
て州府につきて。陞座せしむるに。銀子一萬錠を布施す。先師陞座了
に。提舉にむかふて謝して。いはく。某甲依例出山陞座。開演正法眼藏。
涅槃妙心。謹以薦福先公冥府。但是銀子不敢拜領。僧家不要這般物子。
千萬賜恩。依舊拜還。提舉いはく。和尚。下官忝以皇帝陛下親族。到處且

皇
一
作
本
に
作
る

貴審貝見多。今以先父冥福之日。欲資冥府。和尚如何不納。今日多幸。大慈大悲。卒留小覲。先師曰。提舉台命且嚴。不敢遜謝。只有道理。某甲陸座說法。提舉聰聽得否。提舉曰。下官只聽歡喜。先師いはく。提舉聰明。照鑑山語不勝皇恐。更望台臨。鈞候萬福。山僧陸座時說得甚麼法。試道看。若道得拜領銀子一萬錠。若道不得。便府使收銀子。提舉起向先師曰。即辰伏惟和尚法候動止萬福。先師いはく。這箇是學來底。那箇是聽得底。提舉擬議先師いはく。先公冥福圓成なり。覲施は且待先公台判。かくのことくいひて。すなはち請暇するに。提舉いはく。未恨不領。且喜見師。かくのことくいひて。先師をおくる。浙東浙西の道俗おほく讚歎す。このこと平侍者か日録にあり。平侍者いはく。這老和尚不可得人。那裏容易得見。たれか諸方にうけさる人あらん。一萬錠の銀子。ふるき人のいはく。金銀珠玉。これをみんこと糞土のことくみるへし。たとひ金銀のことくみるとも。不受ならんは衲子の風なり。先師にこの事あり。餘人にこのことなし。先師つねにいはく。三百年よりこのか

た。わかことくなる知識。いまたいてす。諸人審細に辨道功夫すへし。先師の會に。西蜀の綿州人にて。道昇とてありしは道家流なり。徒黨五人とも。にちかふていはく。われら一生に佛祖の大道を辨取すへし。さらに郷土にかへるへからず。先師ことに隨喜して。經行道業。ともに衆僧と一如ならしむ。その排列のときは。比丘尼のしもに排立す。奇代の勝躅なり。又福州の僧。その名善如。ちかひていはく。善如平生。さらに一步をみなみにむかひて。うつすへからず。もはら佛祖の大道を參すへし。先師の會に。かくのことく。のたくひ。あまたあり。まのあたり。みしところなり。餘師のところになしといへとも。大宋國の僧宗の行持なり。われらにこの心操なし。かなしむへし。佛法にあふとき。なほしかあり。佛法にあは。さらんときの身心。はちてもあまりあり。しつかにおもふへし。一生いくはくにあらず。佛祖の語句。たとひ三三兩兩なりとも。道得せんは佛祖を道得せるならん。ゆゑはいかん。佛祖は身心如一なるかゆゑに。一句兩句。みな佛祖のあた

かなる身心なり。かの身心きたりてわか身心を道得す。正當道取時。これ道得きたりてわか身心を道取するなり。此生道取累生身なるへし。かるかゆゑにほとけとなり。祖となるに佛をこゑ祖をこゆるなり。三三兩兩の行持の句それかくのことし。いたつらなる聲色の名利に馳騁することなかれ。馳騁せされは佛祖單傳の行持なるへし。すむらくは大隱小隱一箇半箇なりとも。萬事萬縁をなけすて。行持を佛祖に行持すへし。

正法眼藏行持

仁治三年壬寅四月五日書于觀音導利興聖靈林寺

正法眼藏海印三昧

諸佛諸祖とあるにかならず海印三昧なり。この三昧の游泳に。説時あり。證時あり。行時あり。海上行の功德。その徹底行あり。これを淡淡海底行なりと海上行するなり。流浪生死を還源せしめんと願求する。是什麼心行にはあらず。從來の透關破節もとより諸佛諸祖の面なりといへとも。これ海印三昧の朝宗なり。

佛言但以衆法合成此身。起時唯法起。滅時唯法滅。此法起時。不言我起。此法滅時。不言我滅。前念後念。念念不相待。前法後法。法法不相對。是即名爲海印三昧。この佛道をくはしく參學功夫すへし。得道人證は。かならずしも多聞によらず。多語によらざるなり。多聞の廣學は。さらに四句に得道し。恒沙の徧學。つひに一句偈に證入するなり。いはんやいまの道は。本覺を前途にもとむるにあらず。始覺を證中に拈來するにあらず。おほよそ本覺等を現成せしむるは。佛祖の功德なりといへとも。始覺本覺等の諸覺を佛祖とせるにはあらざるなり。

下清
と本
有聞

佛言。但以衆法合成此身。起時唯法起。滅時唯法滅。此法起時。不言我起。此法滅時。不言我滅。前念後念。念念不相待。前法後法。法法不相對。是即名爲海印三昧。いはゆる海印三昧の時節は。すなはち但以衆法の時節なり。但以衆法の道得なり。このときを合成此身といふ。衆法を合成せる一合相。すなはち此身なり。此身を一合相とせるにあらず。衆法合成なり。合成此身を此身と道得せるなり。起時唯法起。この法起かつて起をのこすにあらず。このゆゑに起は知覺にあらず。知覺にあらず。これを不言我起といふ。我起を不言するに。別人は此法起と見聞覺知し。思量分別するにはあらず。さらに向上の相見のとき。まさに相見の落便宜あるなり。起はかならず。時節到來なり。時は起なるかゆゑに。いかならんか。これ起なる。起也なるへし。すてにこれ時なる起なり。皮肉骨髓を獨露せしめずといふことなし。起すなはち合成の起なるかゆゑに。起の此身なる。起の我起なる。但以衆法なり。聲色と見聞するのみにあらず。我起なる衆法なり。不言なる我起

福本
と下
はし
無

福本
念無
は下
し

なり。不言は不道にはあらず。道得は言得にあらず。起時は此法なり。十二時にあらず。此法は起時なり。三界の競起にあらず。古佛いはく。忽如火起。この起の相待にあらず。火起と道取するなり。古佛言。起滅不停時如何。しかあれば起滅は我我起我我滅なるに不停なり。この不停の道取かれに一任して辨育すへし。この起滅不停時を佛祖の命脈として斷續せしむ。起滅不停時は。是誰起滅なり。是誰起滅は。應以此身得度者なり。即現此身なり。而爲說法なり。過去心不可得なり。汝得吾髓なり。汝得吾骨なり。是誰起滅なるゆゑに。此法滅時。不言我滅。まさしく不言我滅のときは。これ此法滅時なり。滅は法の滅なり。滅なりといへとも法なるへし。法なるゆゑに。客塵にあらず。客塵にあらず。客塵にあらざるゆゑに。不染汗なり。たたこの不染汗。すなはち諸佛諸祖なり。汝もかくのことしといふ。たれか汝にあらず。らん。前念後念あるは。みな汝なるへし。吾もかくのことしといふ。たれか吾にあらず。らん。前念後念は。みな吾なるかゆゑに。この滅に多般

に本所
作無住
る作一

の手眼を莊嚴せり。いはゆる無上大涅槃なり。いはゆる謂之死なり。いはゆる執爲斷なり。いはゆる爲所住なり。いはゆるかくのごくの許多手眼。しかしなから滅の功德なり。滅の我なる時節に不言なると起の我なる時節に不言なるとは、不言の同生ありとも同死の不言にはあらざるへし。すてに前法の滅なり。後法の滅なり。法の前念なり。法の後念なり。爲法の前後法なり。爲法の前後念なり。不相待は爲法なり。不相對は法爲なり。不相對ならしめ。不相待ならしむるは八九成の道得なり。滅の四大五蘊を手眼とせる。拈あり收あり。滅の四大五蘊を行程とせる。進歩あり相見あり。このとき通身是手眼還是不足なり。遍身是手眼還是不足なり。おほよそ滅は佛祖の功德なり。いま不相對と道取あり。不相待と道取あるは。しるへし起は初中後起なり。官不容針私通車馬なり。滅を初中後に相待するにあらず。相對するにあらず。從來の滅處に忽然として起法すとも。滅の起にはあらず。法の起なり。法の起なるゆゑに不對待相なり。また滅と

有下初下有福
起中起な本
相中起な本
ある相中起
に待る相中
に待る相中
に待る相中
に待る相中

有上一
唯本
字常

滅と相待するにあらず。相對するにあらず。滅も初中後滅なり。相逢不拈出舉意便知有なり。從來の起處に忽然として滅すとも。起の滅にあらず。法の滅なり。法の滅なるかゆゑに不相對待なり。たとひ滅の是即にもあれ。たとひ起の是即にもあれ。但以海印三昧名爲衆法なり。是即の修證はなきにあらず。只此不染汗名爲海印三昧なり。三昧は現成なり。道得なり。背手摸枕子の夜間なり。夜間のかくのこと。背手摸枕子なる。摸枕子は億億萬劫のみにあらず。我於海中。唯常宣說妙法華經なり。不言我起なるかゆゑに。我於海中なり。前面も一波纒動萬波隨なる常宣說なり。後面も萬波纒動一波隨の妙法華經なり。たとひ千尺萬尺の絲綸を卷舒せしむとも。うらむらくはこれ直下垂なることを。いはゆる前而後而は。我於海面なり。前頭後頭といはんかことし。前頭後頭といふは。頭上安頭なり。海中は有人にあらず。我於海は世人の住處にあらず。聖人の愛處にあらず。我於ひとり海中にあり。これ唯常の宣說なり。この海中は中間に屬せず。内外

に屬せず。鎮常在說法華經なり。東西南北に不居なりといへとも。満船空載月明歸なり。この實歸は便歸來なり。たれかこれを滯水の行履なりといはん。たた佛道の劑限に現成するのみなり。これを印水の印とす。さらに道取す印空の印なり。さらに道取す印泥の印なり。印水の印かならずしも印海の印にはあらず。向上さらに印海の印なるへし。これを海印といひ。水印といひ。泥印といひ。心印といふなり。心印を單傳して。印水し印泥し印空するなり。

曹山元證大師因僧問承教有言大海不宿死屍如何是海。師云。包含萬有。僧曰。爲什麼不宿死屍。師云。絶氣者不著。僧曰。既是包含萬有。爲什麼絶氣者不著。師云。萬有非其功絶氣。この曹山は雲居の兄弟なり。洞山の宗旨。このところに正的なり。いま承教有言といふは佛祖の正教なり。凡聖の教にあらず。附佛法の小教にあらず。大海不宿死屍。いはゆる大海は内海外海等にあらず。八海等にはあらず。これらは學人のうたかふところにあらず。海にあらず。海と認する

問に清作

のみにあらず。海なるを海と認するなり。たとひ海と強爲すとも。大海といふへからざるなり。大海はかならずしも八功德水の重淵にあらず。大海はかならずしも鹹水等の九淵にあらず。衆法は合成なるへし。大海かならずしも淡水のみにてあらんや。このゆゑにいかなるか海と問著するは。大海のいまた人天にしられざるゆゑに大海を道著するなり。これを問著せん人は。海執を動著せんとするなり。不宿死屍といふは。不宿は。明頭來明頭打。暗頭來暗頭打なるへし。死屍は死灰なり。幾度逢春不變心なり。死屍といふは。すへて人人いまたみざるものなり。このゆゑにしらざるなり。師いはく。の包含萬有は。海を道著するなり。宗旨の道得するところは。阿誰なる一物の萬有を包含するといはす。包含萬有なり。大海の萬有を包含するといふにあらず。包含萬有を道著するは。大海なるのみなり。なにもとしれるにあらず。包含萬有を道著するは。佛面祖面と相見すること。もしはらく萬有を錯認するなり。包含のときはたとひ山な

秘本の
放はの
の共
作にも

なるも
一本に
なり
るに

りとも高高峰頭立のみにあらず。たとひ水なりとも淡淡海底行のみにあらず。收はかくのことくなるへし。放はかくのことくなるへし。佛性海といひ。毗盧藏海といふ。たたこれ萬有なり。海面みえされとも。游泳の行履に疑著することなし。たとへは多福一叢竹を道取するに。一莖兩莖曲なり。三莖四莖斜なるも。萬有を錯失せしむる行履なりとも。なにとしてか。いまたいはさる千曲萬曲なりと。なにとしてか。いはさる千叢萬叢なりと。一叢の竹かくのことくある道理わすれさるへし。曹山の包含萬有の道著す。なほこれ萬有なり。僧曰。爲什麼絶氣者不著は。あやまりて疑著の面目なりといふとも。是什麼心行なるへし。從來疑著這漢なるときは。從來疑著這漢に相見するのみなり。什麼處在に。爲什麼絶氣者不著なり。爲什麼不宿死屍なり。這頭にす。なほち。既是包含萬有。爲什麼絶氣者不著なり。しるへし。包含は著にあらず。包含は不宿なり。萬有。たとひ死屍なりとも。不宿の直須萬年なるへし。不著の這老僧一著子なるへし。曹山の

秘本の
下はさ
るに

道すらく。萬有非其功絶氣。いはゆるは萬有はたとひ絶氣なりとも。たとひ不絶氣なりとも。不著なるへし。死屍たとひ死屍なりとも。萬有に同參する行履あらんか。ことときは。包含すへし。包含なるへし。萬有なる前程後程その功あり。これ絶氣にあらず。いはゆる。一盲引衆盲なり。一盲引衆盲の道理は。さらに一盲引一盲なり。衆盲引衆盲なり。衆盲引衆盲なるとき。包含萬有。包含于包含萬有なり。さらにいく大道にも萬有にあらず。いままたその功夫現成せず。海印三昧なり。

正法眼藏海印三昧

仁治三年壬寅孟夏二十日記于觀音導利興聖靈林寺

おもふには修行功満して作佛決定するとき授記すへしと學しきたるといへとも。佛道はしかにはあらず。或從知識して一句をきき。或從經卷して一句をきくことあるはすなはち得授記なり。これ諸佛の本行なるかゆゑに。百艸の善根なるかゆゑに。もし授記を道取するには得記人みな究竟人なるへし。しるへし一塵なほ無上なり。一塵なほ向上なり。授記なんそ一塵ならさらん。授記なんそ一法ならさらん。授記なんそ萬法ならさらん。授記なんそ修證ならさらん。授記なんそ佛祖ならさらん。授記なんそ功夫辨道ならさらん。授記なんそ大悟大迷ならさらん。授記はこれ吾宗到汝大興于世なり。授記はこれ汝亦如是吾亦如是なり。授記これ標榜なり。授記これ何必なり。授記これ破顔微笑なり。授記これ生死去來なり。授記これ盡十方界なり。授記これ徧界不曾藏なり。

玄沙院宗一大師侍雪峰行次雪峰指面前地云。這一片田地好造箇無縫塔。玄沙曰。高多少。雪峰乃上下顧視。玄沙曰。人天福報即不無。和尚靈

山授記未夢見在。雪峰云。徐作麼生。玄沙曰。七尺八尺。いま玄沙のいふ和尚靈山授記未夢見在は。雪峰に靈山の授記なしといふにあらず。雪峰に靈山の授記ありといふにあらず。和尚靈山授記未夢見在といふなり。靈山の授記は。高著眼なり。吾有正法眼藏。涅槃妙心。付屬摩訶迦葉なり。しるへし。青原の石頭に授記せしときの同參は。摩訶迦葉も青原の授記をうく。青原も釋迦の授記をさつくるかゆゑに。佛佛祖の面に正法眼藏付屬有在なることあきらかなり。こをもて曹谿すてに青原に授記す。青原すてに六祖の授記をうくるとき。授記に保任せる青原なり。このとき六祖諸祖の參學。正直に青原の授記によりて行取しきたれるなり。これを明明百艸頭。明明佛祖意といふ。しかあればすなはち佛祖いつれか百艸にあらさらん。百艸なんそ吾汝にあらさらん。至愚にしておもふことなかれ。みつからに具足する法は。みつからかならずしるへしとみるへしと。慙麼にあらざるなり。自己の知する法。かならずしも自己の有にあら

清本了分
下字
有別
本作
るに

す。自己の有かならずしも自己のみるところならず、自己のしるところならず。しかあればいまの知見思量分にあたはされは自己にあるへからすと疑著することなかれ。いはんや靈山の授記といふは、釋迦牟尼佛の授記なり。この授記は、釋迦牟尼佛の釋迦牟尼佛に授記しきたるなり。授記の未合なるには授記せざる道理なるへし。その宗旨は、すてに授記あるに授記するに罣礙なし、授記なきに授記するに剩法せざる道理なり。虧闕なく剩法にあらざる。これ諸佛祖の諸佛祖に授記しきたる道理なり。このゆゑに古佛いはく。古今舉拂示東南。大意幽微。易參。此理若無師教授。欲將何見語。玄談。いま玄沙の宗旨を參究するに、無縫塔の高多少を量するに、高多少の道得あるへし。さらに五百由旬にあらす。八萬由旬にあらす。これによりて上下を顧視するをきらふにあらす。たたこれ人天の福報は、即不無なりとも。無縫塔高を顧視するは、釋迦牟尼佛の授記にはあらざるのみなり。釋迦牟尼佛の授記をうるは、七尺八尺の道得あ

清本
西南
に作
る

檢點
一本
に作
る

るなり。眞箇の釋迦牟尼佛の授記を點檢することは、七尺八尺の道得をもて檢點すべきなり。しかあればすなはち七尺八尺の道得を是不是せんことはいはらくかく。授記はさためて雪峰の授記あるへし。玄沙の授記あるへきなり。いはんや授記を擧して無縫塔高の多少を道得すべきなり。授記にあらざらんを擧して佛法を道得するは、道得にはあらざるへきなり。自己の眞箇に自己なるを會取し、聞取し、道取すれば、さためて授記の現成する公案あるなり。授記の當陽に授記と同參する功夫きたるなり。授記を究竟せんために、如許多の佛祖は、現成正覺しきたれり。授記の功夫するちから、諸佛を推出するなり。このゆゑに唯以一大事因緣故出現といふなり。その宗旨は、向上には非自己かならず、非自己の授記をうるなり。このゆゑに諸佛は、諸佛の授記をうるなり。おほよそ授記は、一手を擧して授記し、兩手を擧して授記し、千手眼を擧して授記し、授記せらる。あるひは優曇華を擧して授記す、あるひは金襴衣を拈して授記する。

これを一
本に作ら
る

ともにこれ強爲にあらず。授記の云爲なり。内よりうる授記あるへし。外よりうる授記あるへし。内外を參究せん道理は。授記に參學すへし。授記の學道は。萬里一條鐵なり。授記の兀坐は。一念萬年なり。古佛いはく。相繼得成佛。轉次而授記。いはくの成佛は。かならず相繼するなり。相繼する少許を成佛するなり。これを授記の轉次するなり。轉次は轉得轉なり。轉次は次得次なり。たとへは造次なり。造次は施爲なり。その施爲は局量の造身にあらず。局量の造境にあらず。度量の造作にあらず。造心にあらざるなり。まさに造境不造境。ともに轉次の道理に一任して究辨すへし。造作不造作。ともに轉次の道理に一任して究辨すへし。いま諸佛諸祖の現成するは。施爲に轉次せらるるなり。五佛六祖の西來する施爲に轉次せらるるなり。いはんや運水般柴は。轉次しきたるなり。即心是佛の現生する轉次なり。即心是佛の滅度する。一滅度二滅度をめづらしくするにあらず。如許多の滅度を滅度すへし。如許多の成道を成道すへし。如許多の相

のは福
に本作

ぬに福
に本作

好を相好すへし。これすなはち相繼得成佛なり。相繼得滅度等なり。相繼得授記なり。相繼得轉次なり。轉次は本來にあらず。たた七通八達なり。いま佛面祖面の面面に相見し。面面に相逢するは。相繼なり。佛授記祖授記の轉次する廻避のところ。間隙あらず。古佛いはく。我今從佛聞授記莊嚴事。及轉次受決。身心徧歡喜。いふところは授記莊嚴事。かならず我今從佛聞なり。我今從佛聞の及轉次受決するといふは。身心徧歡喜なり。及轉次は我今なるへし。過現當の自佗にかかはるへからず。從佛聞なるへし。從佗聞にあらず。迷悟にあらず。衆生にあらず。艸木國土にあらず。從佛聞なる授記莊嚴事なり。及轉次受決なり。轉次の道理。しはらくも一隅にととまりぬることなし。身心徧歡喜しもてゆくなり。歡喜なる及轉次受決かならず。身と同參して徧參し。心と同參して徧參す。さらにまた身はかならず。心に徧す。心はかならず。身に徧するゆゑに。身心徧といふ。よなはちこれ徧界徧方徧身徧心なり。これすなはち特地一條の歡喜